

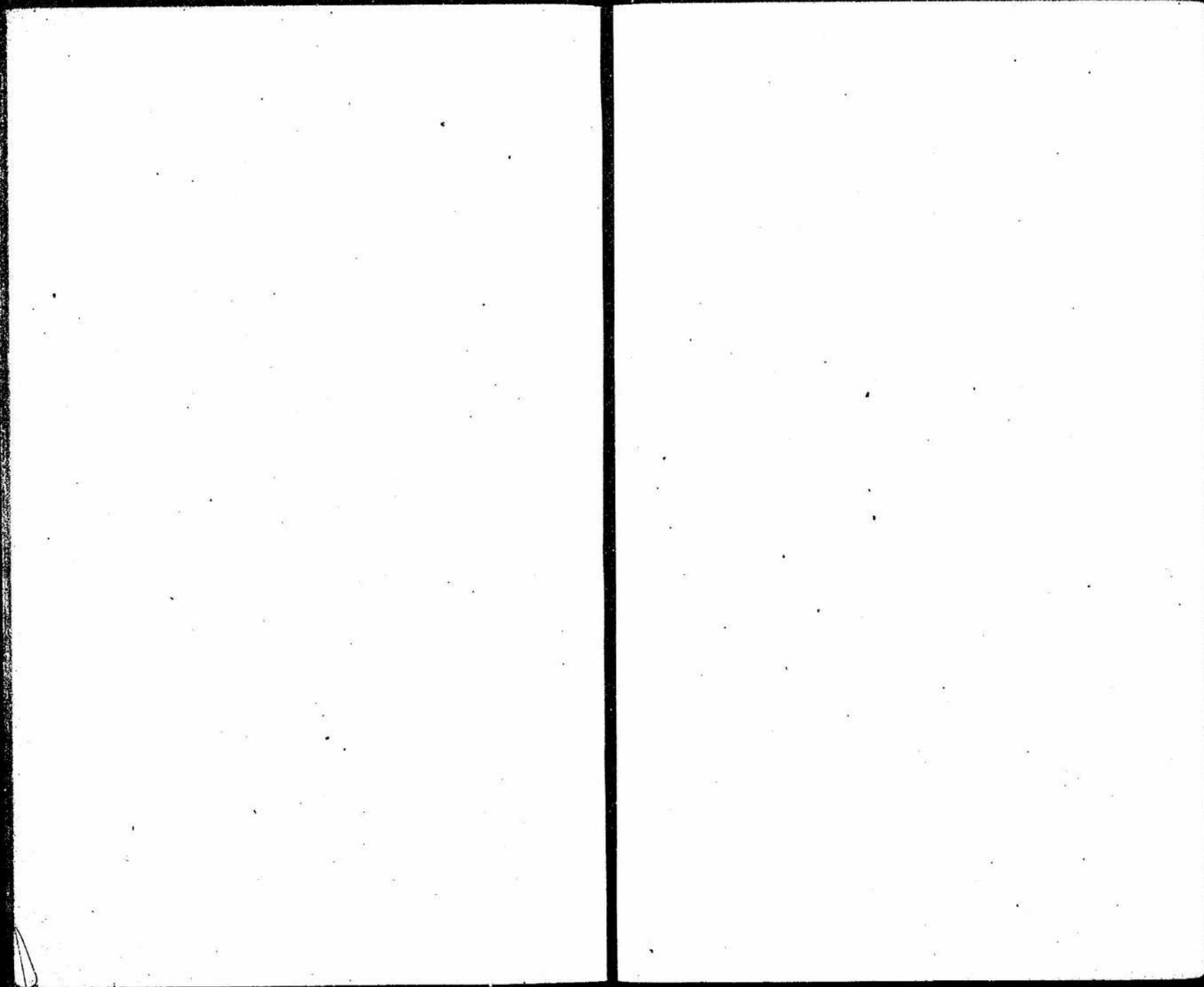
320.922
410

第 〇 五
二 五 五
類 〇 五

320
1973/
410

明治三十九年四月現行
關東洲民政署法規提要





關東洲民政署法規提要

例言

- 一 本書ハ主トシテ關東洲民政署開署以降明治三十九年四月迄ノ間ニ發布シタル現行法規竝本署ニ關スル勅令軍令府令等ヲ掲ケ尙開署以前軍衙ニ於テ發布セシ法規ニシテ現行ノモノハ之ヲ附録ノ部ニ掲載ス
- 一 内規内達内訓等ハ掲載セス
- 一 法規中一時ノ施行ニ止ムルモノ又ハ法規ニ附屬ノ別冊圖表雛形及様式等ハ之ヲ省略ス

明治三十九年五月

關東洲民政署官房

例言

關東洲民政署法規提要索引目錄(各項目ノ下括弧内ノ數字ハ其ノ番號ナリ)

○勅令

○明治三十八年

○占領地民政署ノ職員ニ關スル件(一五六)

○軍令

○明治三十八年

○刑事民事處分令(八月六日)

○關東洲地租徵收令(九月三日)

○大連灣出入船舶及關東洲在留者取締規則(九月七日)

○關東洲雜種稅徵收令(十月十八日)

○大連灣港則(十月二十三日)

○旅順口港則

○府令

○明治三十九年

○關東總督府管内旅行取締規則(一)

○關東總督府公布式(二)

目錄

一四二

九七七五五二

一

○署令

- 明治三十八年
- 大連灣出入船舶及關東洲在留者取締規則施行細則(一) 一四
- 藝妓酌婦及雇婦女取締規則(二) 一七
- 屍體取扱方(三) 二〇
- 料理店飲食店宿屋下宿屋貸席待合茶屋引手茶屋營業取締規則(四) 二〇
- 公布式(五) 二四
- 關東洲地租規則(六) 二四
- 關東洲雜種稅規則(七) 二五
- 公課徵收規則(八) 二九
- 娼妓取締規則(一一) 三〇
- 貸座敷取締規則(一二) 三三
- 明治三十九年
- 「ベスト」豫防ノ爲檉襪類輸入禁止(一) 三八
- 娼妓健康診斷施行規則(二) 三八
- 獸類取扱規則(三) 三九
- 塵芥掃除規則(四) 四〇
- 賣肉取締規則(五) 四一

llv

- 屠獸取締規則(六) 四三
- 關東洲鹽田規則(八) 四九
- 關東洲鹽田規則施行細則(九) 五一
- 關東洲水產組合規則(一〇) 五四
- 關東洲漁業取締規則(一一) 五六
- 魚市場規則(一二) 五八
- 關東洲小學校規則(一三) 六〇
- 關東洲公學堂規則(一四) 六六
- 關東洲小學校職制(一五) 七一
- 關東洲公學堂職制(一六) 七二
- 關東洲營業稅規則(一八) 七二

○訓令

- 明治三十八年
- 關東洲民政署分課規程(一) 七七
- 警察官吏腕章(二) 八三
- 支署派出所規程(四) 八三
- 支署分課規程(五) 八四



○關東洲民政署處務規程(六)	八五
○民事及刑事事件報告方(七)	八七
○警察官吏派出所名稱位置及受持區域(八)	八七
○明治三十八年第二期豫算(九)	八八
○藝妓酌婦及雇婦女取締規則施行心得(一〇)	八八
○關東洲地租規則施行方心得(一一)	八九
○關東洲雜種稅規則取扱規程(一二)	九〇
○公課徵收規則施行細則(一三)	九二
○料理店飲食店宿屋下宿屋貸席待合茶屋引手茶屋營業取締規則施行心得(一四)	九四
○旅順支署管内ノ車輛ニ對シ雜種稅規則適用方(一五)	九五
○本署直轄内北沙河河口外二十四箇村貸地規程施行方心得(一六)	九五
○徵收米了ノ地租ハ村長ノ負擔タル(キ件)(一七)	九六
○營業稅幕帳(一八)	九六
○林木伐採取締方(二〇)	九六
○關東洲民政署巡查教習所規程(二一)	九七
○巡查及巡捕配置定員(二二)	九八
○明治三十九年	九八
○娼妓取締規則施行手續(一)	九九

○貸座敷取締規則施行手續(二)	一〇〇
○大連火葬場火葬取扱手續(三)	一〇二
○關東洲小學校並關東洲公學堂職員服務心得(四)	一〇三
○關東洲民政署巡查採用規則(五)	一〇四
○關東洲民政署警察彙報規程(六)	一〇六
○關東洲民政署警察官吏服務規程(八)	一〇八
○關東洲民政署警察配置及勤務規程(九)	一一一
○關東洲民政署警察處務細則(一〇)	一一〇
○關東洲營業稅規則取扱規程(一一)	一二六
○巡查巡捕被服屬具支給規程(一二)	一二九

○告示

○明治三十八年	
○大連灣出入船舶及渡航者規則(陸軍省一七)	一三三
○關東洲民政署開設ノ件(無號)	一三四
○大連商品陳列館規則(三)	一三五
○支署位置及管轄區域(三)	一三六
○大連市場貸下規程(四)	一三七

○大連市市場貸下料(五)	一三九
○大連市市場設置並開始ノ件(六)	一三九
○常盤公園内地區貸下規程(七)	一三九
○常盤公園内地區貸下料(八)	一四二
○常盤公園内地區貸下開始(九)	一四二
○大連市市場取締規程(一〇)	一四二
○大連市私用苦力及馬車賃(一一)	一四三
○大連市子號地區劃改正(一二)	一四三
○大連市ム、ツ、井、ノ、才號地區劃(一三)	一四四
○貨物輸入陸揚其ノ他ニ關スル證明手數料(一四)	一四四
○大連市第三區夕號地區劃改正(一五)	一四四
○大連市第三區ヨ號地區劃改正(一六)	一四五
○大連市第三區ナ號地區劃改正(一九)	一四五
○大連市第三區ラ號地區劃(二〇)	一四五
○本署直轄内北沙河河口外二十四箇村貸地規程(二二)	一四七
○大連市第三區ト號地區劃改正(二三)	一四七
○大連旅順間鐵道乘車及貨物輸送規程廢止(二五)	一四七
○旅順口港則軍間規則並大連灣港則平和克復後繼續施行(二六)	一四七

○大連商品陳列館開館(二七)	一四七
○大連商品陳列館陳列料(二八)	一四八
○大連市ク、ヤ號地區劃(三〇)	一四八
○大連市第三區リ號地區劃改正(三一)	一四八
○大連市第三區カ號地區劃改正(三二)	一四八
○大連市第二區ハ號地區劃改正(三三)	一四九
○大連市第三區ヘ號地區劃改正(三四)	一四九
○樹木伐採禁止(三五)	一四九
○各戸門標掲出方(三六)	一四九
○大連市第三區ハ號地區劃改正(三七)	一四九
○遊廓地設定並命名(三八)	一五〇
○大連市第三區乙號地區劃改正(三九)	一五〇
○大連市第三區ロ號地區劃改正(四〇)	一五〇
○明治三十九年	
○軍用手票ノ交換受入及内地向ケ爲替價格(一)	一五〇
○大連市第三區ニ號地區劃改正(二)	一五一
○鐵嶺ニ於テ土地家屋借受方ノ件(三)	一五一
○撫順ニ本邦人ノ居住營業許可(四)	一五一



- 本邦人ニシテ新民ニ居住營業ノ件(五)
- 小崗子遊廓地域(六)
- 大連市内五箇所ニ掘抜井戸ヲ設ケ公衆ノ使用許可(七)
- 横濱正金銀行牛莊支店ニ於テ一覽拂手形發行ノ件(八)
- 殘留財產調査ノ爲渡航者取締規則(九)
- 軍票ノ價格ハ時價ニ依ルノ件(一〇)
- 殘留財產ノ調査處分及搬出ニ關スル手續(一一)
- 大連火葬場設置(一二)
- 大連火葬場規程(一三)
- 關東洲小學校名稱位置(一五)
- 關東洲公學堂名稱位置(一六)
- 遺棄兵器材料買收(一七)
- 東公園内危險物格納(一九)
- 大連市ニ電話交換局開設(二二)
- 大連商品陳列館開館時間(二三)
- 豫備後備補充兵役者居住届出方(二四)

○告諭

○明治三十八年

一五一
一五一
一五二
一五三
一五四
一五四
一五六
一五六
一五八
一五八
一五八
一五七
一五八
一五九
一五九

- 炭酸瓦斯中毒ノ件(一)
- 軍用手票ニ關シ人民ニ注意ノ件(二)
- 滿洲在住ノ内地商民ニ對シ注意ノ件(三)
- 木炭ヲ用キ室内保溫ノ際注意ノ件(四)
- 明治三十九年
- 汽車輸送荷物ニ關スル件(一)

○決裁

○明治三十八年

- 關東洲民政署事務管理規程(六月二十三日)
- 營業及旅行ノ件(七月四日)
- 廳舍及宿舍ノ保管及設備ニ關スル件(八月二十四日)

附錄

○軍令

○明治三十八年

○令達其他

○明治三十八年

一六〇
一六一
一六一
一六二
一六二
一六三
一六四
一六四
一六五

○遼東守備軍管區露國租借地内土地家屋及營造物管理規則(令達五)	一六六
○拘留及科料ノ即決ニ關スル規則(令達一〇)	一六七
○遼東守備軍軍政會計假規程(令達一二)	一六八
○大連市專管區設定規則(令達一三)	一七一
○野戰鐵道便乘並貨物搭載取締規則(令達一四)	一七三
○遼東守備軍鹽稅規則(令達二一)	一七四
○遼東守備軍貨物輸出入稅規則(令達二三)	一七七
○大連市家屋建築取締假規則	一七八
○違警罪目	一八三
○衛生委員業務規定	一八五
○傳染病豫防規則	一八七
○汚物掃除規則	一九〇
○市場及旅舍飲食店ニ於ケル衛生上取締規則	一九二
○大連市民家汚物掃除請負ニ付假規定	一九三
○軍人軍屬ニ係ル俸給給料等軍用手票ヲ以テ仕拂フヘキ件	一九六
○軍用手票使用方	一九六
○仕拂ニ關シ錢位未滿切捨ニ關スル件	一九七
○軍人軍屬ニ支給ノ軍用手票整理方	一九七

- 軍用手票取扱整理手續
 - 家屋及土地貸下料
- 追 加
- 陸軍軍屬從軍服制中改正

一九八
一九九
一九九



關東洲民政署法規提要

◎勅令

●占領地民政署ノ職員ニ關スル件(明治三十八年五月勅令第五百十六號)

朕占領地民政署ノ職員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 占領地民政署ニハ必要ニ應ジ左ノ職員ヲ置ク

民政長官	勅任
事務官	奏任
警視官	奏任
技師	奏任
通譯官	判任
屬部	判任
警手	判任
技生	判任
通譯	判任

第二條 民政長官ノ官等ハ高等官一等又ハ二等トシ其ノ年俸ハ三千圓、三千五百圓、又ハ四千圓トス

第三條 事務官及警視ノ官等及俸給ハ高等官官等俸給令中高等文官年俸第一號表ニ依ル諸官、通譯

勅令

一

官ノ官等及俸給ハ陸軍通譯官ノ例ニ依ル
通譯生ノ俸給及等級ハ陸軍通譯生ノ例ニ依ル
第四條 占領地民政署ニ巡查ヲ置ク

◎軍令

●刑事民事處分令(明治三十八年八月六日軍令)

關東洲民政署管轄區域内ニ在ル占領地人民ノ刑事及民事ニ關スル處分法別冊ノ通規定ス

(別冊)

刑事民事處分令

第一章 總則

第一條 本令ハ關東洲民政署管轄區域内ニ在ル占領地人民ノ刑事及民事ニ適用ス但臨時軍法會議及軍事法廷ノ權限ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス
第二條 本令ニ依ル處分ハ關東洲民政署民政長官ノ命スル司法委員之ヲ行フ
第三條 本令ニ規定スルモノノ外必要ナル規定ハ民政長官之ヲ定ム
第二章 刑事
第四條 安寧秩序ヲ紊シ又ハ生命、身體、自由、名譽、財産ニ害ヲ加フルノ所爲ハ地方ノ法規慣例陸軍刑法、海軍刑法及日本帝國刑法其ノ他ノ附屬法規ヲ參照シ之ヲ處分ス
第五條 刑ヲ分テ死、懲役、沒收、罰金、答、拘留及科料トス

犯罪ノ情狀ニ因リ死ニ沒收ヲ併科シ懲役ニ沒收又ハ罰金ヲ併科スルコトヲ得

第六條 死ハ斬又ハ絞首トス

第七條 懲役ハ十一日以上トシ獄ニ拘禁シ定役ニ服セシム但情狀ニ因リ服役セシメサルコトヲ得

第八條 沒收ハ資産ノ全部又ハ一部ヲ官沒ス

罰金ハ二圓以上トス

答ハ百以下トシ警ニ鞭ス

拘留ハ十日以下トシ拘置場ニ留置ス

科料ハ一圓九十五錢以下トス

第九條 罰金ハ處分言渡ノ日ヨリ十五日内ニ納完セシム若限内納完セサルトキハ強制處分ニ依リ之ヲ徵收シ仍納完スルコト能ハサルトキハ懲役又ハ答ニ換フ

罰金ヲ懲役ニ換フルトキハ五十錢ヲ一日ニ折算ス其ノ五十錢ニ滿サルモノト雖亦同シ但二年ヲ超

ユルコトヲ得ス

罰金ヲ答ニ換フルトキハ一圓ヲ答五ニ折算ス其ノ一圓ニ滿サルモノト雖亦同シ

第十條 科料ハ處分言渡ノ日ヨリ五日内ニ納完セシム若限内納完セサルトキハ強制處分ニ依リ之ヲ徵收シ仍納完スルコト能ハサルトキハ拘留ニ換フ

科料ヲ拘留ニ換フルトキハ前條第二項ノ例ニ依ル

第十一條 懲役又ハ答ニ處セラレタル者ハ第九條ノ例ニ準シ罰金ニ換フルコトヲ求ムルコトヲ得

第十二條 正犯、從犯、教唆犯タルト既遂犯、未遂犯タルト問ハス情狀ニ因リ本刑ヲ科シ又ハ減刑

シ若ハ其ノ罪ヲ論セス

- 第十三條 支署長、警視、警部ハ犯罪ヲ捜査シタルトキハ犯人及證憑書類ヲ司法委員ニ送致スヘシ
- 第十四條 司法委員ハ事實審査ノ爲證人ヲ喚問シ鑑定ヲ命ジ又ハ臨檢ヲ爲シ家宅ヲ搜索シ物件ヲ押收スルコトヲ得但官吏ヲ喚問セントスルトキハ其ノ所屬長官ノ許諾ヲ受クルヲ要ス
- 第十五條 司法委員ハ職務執行ノ爲警部、巡查ヲ指揮スルコトヲ得
- 第十六條 司法委員各證憑ノ取調ヲ終リタルトキハ處分言渡書ヲ作成シ之ヲ言渡スヘシ
- 第十七條 被告人關席ノ場合ハ其ノ言渡書ヲ公示ス
- 第十八條 罪死ニ該當スルト認ムルトキハ民政長官ノ認可ヲ經テ處分言渡ヲ爲スヘシ
- 第十九條 刑ノ執行ハ司法委員之ヲ指揮ス
- 第二十條 民政長官ハ刑ノ言渡ニ錯誤アリタルコトヲ發見シタルトキハ司法委員ニ其ノ再審ヲ命スルコトヲ得
- 第二十一條 死ノ處分言渡ヲ爲シタルトキハ滿洲軍總司令官ノ指揮ヲ受ケ其ノ執行ヲ爲スヘシ
- 第二十二條 刑ノ執行中ニ在ル者梭改ノ情狀顯著ナルトキハ滿洲軍總司令官ハ其ノ刑ノ全部又ハ一部ヲ赦免ス

第三章 民事

第二十三條 民事處分ハ地方ノ法規慣習及日本帝國民法商法其ノ他ノ附屬法規ヲ參酌シテ之ヲ行フ

- 第二十四條 民事處分ヲ分テ裁判、勸解ノ二種トス
- 第二十五條 裁判ハ勸解ノ成立セサル場合ニ限リ之ヲ行フ
- 第二十六條 成立シタル勸解ハ裁判ト同一ノ効力ヲ有ス
- 第二十七條 司法委員ハ當事者ノ申請ニ因リ裁判及成立シタル勸解ヲ執行スル爲執行文ヲ附與スヘシ
- 第二十八條 前條ノ執行ハ巡查ヲシテ之ヲ行ハシム

附 則

本令ハ明治三十八年八月六日ヨリ之ヲ施行ス

●關東洲地租徵收令(明治三十八年九月三日軍令)

明治三十八年分ヨリ舊慣ヲ參酌シテ地租ヲ徵收ス其ノ施行方ハ民政長官ノ定ムル所ニ依ル

●大連灣出入船舶及關東洲在留者取締規則(明治三十八年九月七日軍令)

- 第一條 本令ニ於テ在留者ト稱スルハ關東洲ニ出入シ又ハ居住スル者ヲ云フ
- 第二條 大連灣ニ出入スル船舶ハ民政長官ノ指定スル場所ニ限リ其ノ乗客及船員ノ乗降ヲ爲サシメ又ハ其ノ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得
- 第三條 大連灣ニ出入スル船舶ハ其ノ都度民政長官ニ届出ツヘシ
- 第四條 大連灣ニ入港スル船舶ハ檢疫ヲ受クルニアラサレハ其ノ乗客及船員ヲ上陸セシメ又ハ貨物

ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 民政長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ警察官吏ヲシテ船舶ヲ臨檢セシメ又ハ其ノ乗客及船員ノ乗降若クハ貨物ノ積卸ヲ停止スルコトアルヘシ

第六條 關東洲内ニ居住セントスル者ハ民政長官ニ届出ツヘシ

居住ノ區域ハ軍事上ノ必要ニ依リ陸海軍官憲ニ於テ定メタル地域外ニ限ル

第七條 居住者ニアラサレハ營業ヲ爲スコトヲ得ス

居住者營業ヲ爲サントスルトキハ民政長官ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 在留者ハ左記各號ヲ遵守スヘシ

一 軍事上ニ關シ見聞セシ事項ヲ漏洩セサルコト

二 軍事上妨碍トナルヘキ契約ヲ清國人ト締結セサルコト

三 商業其ノ他ノ貨物ノ運搬ノ爲メ地方ノ運搬力ヲ使用セントスルトキハ其ノ所在地陸海軍官衙ノ定メタル規則ヲ遵守スヘキコト

四 前各號ノ外軍事上有害ト認ムヘキ一切ノ行爲ヲ爲ササルコト

第九條 在留者本令ニ違反シタルトキハ臨時軍法會議及軍事法庭ノ權限ニ屬スルモノヲ除クノ外民政長官ハ之ニ退去ヲ命スヘシ

第十條 本令ニ規定スルモノノ外取締上必要ノ規程ハ民政長官之ヲ定ム

第十一條 本令施行前陸軍大臣ノ營業許可ヲ得タル者ハ第七條第二項ノ手續ヲ要セス但シ未タ營業

附 則

ヲ開始セサル者ハ民政長官ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ開業ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第十二條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●關東洲雜種稅徵收令(明治三十八年十月十八日軍令)

關東洲ニ於テ雜種稅ヲ賦課徵收ス其ノ種目課稅標準、稅率其ノ他施行方法ハ民政長官ノ定ムル所ニ依ル

●大連灣港則(明治三十八年十月二十三日軍令)

第一條 別圖實線以内ヲ大連灣港境域トス本港ノ水域ハ之ヲ三區ニ別チ別圖點一線以内ヲ第一區ト稱シ第一區以外點二線以内ヲ第二區ト稱シ第二區以外實線以内ヲ第三區ト稱ス

第二條 本港水域内ニ於テハ帝國艦船及ヒ日本船舶ヲ除クノ外出入及ヒ通航ヲ禁ス但シ特許ヲ受ケタル外國艦船及沿岸住民ノ有スル支那船ニシテ大連灣防備隊司令官ノ許可ヲ受ケタルモノハ此限リニアラス

第三條 本港ニ入港スル船舶ハ大連灣防備隊司令官ノ許可ヲ得スシテ夜間別圖大連泊地内ニ入ルコトヲ禁ス

第四條 艦船ハ大連灣防備隊司令官ノ許可ヲ得スシテ別圖大連灣口ニ錨泊スルコトヲ禁ス

第五條 本港第二區以内ニ入ラントスル艦船ハ本港水域内外約三海里ノ所ヨリ投錨若クハ繫止スル地點迄萬國船舶信號ニヨリ各自ノ艦船名ヲ表示スヘシ

港内ニアル艦船ニシテ出港セントスルトキハ前項ニ準シ其艦船名ヲ表示スヘシ

第六條 本港水域及其以外約三海里以内ノ水面ニ繫泊シ若クハ連航スル艦船ハ其國籍ヲ表示スル旗章ヲ掲揚ス可シ

前項ニ掲ケタル艦船ハ日没ヨリ日出迄海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル燈火ヲ掲クヘシ

第七條 艦船大連灣防備隊司令官ヨリ錨場其他進退ヲ指示セラレタル時ハ之ニ從フヘシ

第八條 本港ニ來港スル艦船ニシテ海港檢疫法第四條第一項ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ檢疫又ハ消毒ヲ終ラサルモノハ別圖大連泊地ヨリ一海里以外ニ停止シ檢疫信號ヲ掲ケ大連灣防備隊司令官ノ指揮ヲ待ツヘシ

本港第二區以内ニ於テ傳染病患者ヲ發シタル艦船ハ亦前項ニ同シ

前二項ノ規定ハ軍用病院船ニ之ヲ適用セス

第九條 本港第一區内ニ於テハ塵芥其他物件ヲ委棄スルコトヲ禁ス

第十條 本港第二區内ニ於テハ大連灣防備隊司令官ノ許可ヲ得スシテ漁獵採藻ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 大連灣防備隊司令官ノ許可ヲ得スシテ本港水域内水陸ノ形狀ヲ測量撮影寫録取シ又ハ地理等ノ圖書ヲ發行スルコトヲ禁ス但シ海軍用地及水域外ニ於テ陸軍官憲ニテ爲スモノハ此限リニアラス

第十二條 本港水域内ニ於テハ司令長官ノ許可ヲ得スシテ左ニ掲ケル諸項ノ新營又ハ變更ヲ爲スコトヲ禁ス但シ陸軍官憲ニ於テ爲ス設備ニシテ本港ノ防護水域ノ形狀及水深ニ關係ヲ及ホサハルモノハ此限リニアラス

一 棧橋ノ架設埠頭ノ築造

二 海面ノ埋立浚渫

三 山岡地盤ノ掘鑿

四 浮標立標其他航路標識ノ設置

第十三條 本港水域内ニアル軍用營造物又ハ艦船ヲ損壞シ若クハ軍用ノ物件ヲ盜奪毀損スルコトヲ禁ス

第十四條 本港水域内ニ於ケル兵備ノ狀況其他軍機軍器ニ關スルコトヲ探知シ又ハ漏洩スルコトヲ禁ス

第十五條 本港水域内ニ於テ流言蜚語ヲ爲シ其他港内ノ安寧秩序又ハ風紀ヲ害スル所爲ヲ爲スコトヲ禁ス

第十六條 本則ニ違反シタルモノハ軍罰ニ處ス本則ニ違反シタル船舶ニ對シテハ其船長又ハ其職務ヲ執レルモノヲ軍罰ニ處ス

第十七條 陸軍營造物又ハ物件等ニ對スル違反ニハ本則ヲ適用セス

第十八條 本則施行ニ必要ナル細則ハ大連灣防備隊司令官之ヲ定ム

(別圖附ス)

● 旅順口港則

第一條 別圖實線以内ヲ旅順口境域トス

本港ノ水域ハ之ヲ三區ニ別ケ別圖點一線以内ヲ第一區ト稱シ第一區以外點二線以内ヲ第二區ト稱

シ第二區以外實線以内ヲ第三區ト稱ス

第二條 本港水域別圖三線以内ニ於テハ帝國海陸軍ニ屬スルモノ若クハ海軍大臣陸軍大臣又ハ旅順口鎮守府司令長官ノ許可ヲ得タル艦船ノ外出入及通行ヲ禁ス

第三條 本港第二區以内ニ於テハ特殊ノ場合ヲ除クノ外日没ヨリ日出マテ艦船ノ出入ヲ禁ス但シ別圖點三線以内ニ入ラントスル艦船ハ港口ノ海軍望樓ニ信號ヲ爲シ又信號ヲ爲シ能ハサル船舶ハ橋上見易キ所ニ赤白燈火各一個(各燈ノ間隔三尺トス)縱ニ連掲シ指示ヲ待ツヘシ

第四條 本港第二區以内ニ入ラントスル艦船ハ本港水域外約三海里ノ所ヨリ投錨若ハ繫止スル地點マテ萬國船舶信號ニヨリ各自ノ艦船名ヲ表示スヘシ本港第二區以内ニ投錨又ハ繫止スル艦船ニシテ出航セントスルトキハ亦前項ニ準シ其艦船名ヲ表示スヘシ

第五條 本港水域及其以外約三海里以内ノ水面ニ繫泊シ若ハ運航スル艦船ハ其ノ國籍ヲ表示スル旗章ヲ掲揚スヘシ

前項ニ掲ケタル艦船ハ日没ヨリ日出マテ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル燈火ヲ掲ケヘシ

第六條 本港第二區以内ニアル艦船ハ總テ港務部長ノ指示ニ從テ進止スヘシ

第七條 本港ニ來港スル艦船ニシテ海港檢疫法第四條第一項ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ檢疫又ハ消毒ヲ終ラサルモノハ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得ルニ非レハ第二區以内ニ入ルコトヲ許サス第二區ニ於テ傳染病患者ヲ發シタル艦船ハ檢疫信號ヲ掲ケテ司令長官ノ指揮ヲ待ツヘシ

第八條 本港第二區以内ニ於テハ座舂其他一切ノ物件ヲ委棄スルコトヲ禁ス

第九條 本港水域内ニ於テハ禮砲號砲ノ外司令長官ノ許可ヲ得シテ火器又ハ爆發物發射發火ヲ禁

止シ禮砲號砲ト雖モ公私ノ家屋建造物ヲ距ルコト七十五間以内ニ於テハ特許ヲ得ルニアラサレハ一切ノ發射發火ヲ爲スコトヲ許サス但別圖銃獵禁止區域外ニ於ケル獵銃發火ハ此限リニアラス

第十條 本港水域別圖點三線以内ニ於テハ司令長官ノ許可ヲ得シテ漁獵採藻ヲ爲スコトヲ禁

ス

第十一條 司令長官ノ許可ヲ得シテ本港水域内水陸ノ形狀ヲ測量撮影摸寫錄取シ又ハ地理等ノ圖

書ヲ發行スルコトヲ禁ス但シ海軍用地及水域外ニ於テ陸軍官憲ニテナスモノハ此限リニアラス

第十二條 本港水域内ニ於テハ司令長官ノ許可ヲ得シテ左ニ掲クル諸項ノ新營又ハ變更ヲ爲スコ

トヲ禁ス但陸軍官憲ニ於テナス設備ニシテ本港防護水域ノ形狀及水深ニ關係ヲ及ホササルモノハ

此限リニアラス

一 棧橋ノ架設埠頭ノ築造

二 海面ノ埋立浚渫

三 山岡地盤ノ掘整

四 浮標立標其他航路標識ノ設置

第十三條 本港水域及其區劃等ヲ表示スル標石標木標札ノ類若クハ其水域ニ設ケタル浮標等ヲ移轉

シ又ハ之ヲ損壞スルコトヲ禁ス

第十四條 本港水域内ニアル軍用營造物又ハ艦船ヲ損壞シ若クハ軍用ノ物件ヲ盜奪毀損スルコトヲ

禁ス

第十五條 本港水域内ニ在テ兵備ノ狀況其他軍機軍略ニ關スルコトヲ探知シ又ハ漏洩スルコトヲ禁

第十六條 本港境域内ニアリテ流言蜚語ヲ爲シ其他港内ノ安寧秩序又ハ風紀ヲ害スル行爲ヲナスコトヲ禁ス

第十七條 本則ニ違反シタルモノハ軍罰ニ處ス

本則ニ違反シタル船舶ニ對シテハ其船長又ハ其職務ヲ執レルモノヲ軍罰ニ處ス

第十八條 陸軍ノ建設物又ハ物件等ニ對スル違反ニハ本則ヲ適用セス

第十九條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 本則ハ占領期間其効力ヲ有ス(別圖略ス)

府令

關東總督府管内旅行取締規則

本規則ハ來三月十八日ヨリ施行ス

關東總督府管内旅行取締規則

第一條 十歳以上ノ本邦人ニシテ本管内ヲ旅行セントスルモノハ旅行ノ許可ヲ受クルヲ要ス但關東洲内ノミヲ旅行スルモノハ此限リニアラス

第二條 本管内旅行ノ許可ヲ得ントスルモノハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ其地ヲ管轄スル軍政署(軍務署ヲ含ム以下同シ)民政署又ハ同支署ニ差出シ旅行券(雛形参照)ノ下附ヲ受クヘシ

本籍、住所、職業、氏名、年齢、旅行ノ目的、旅行日數(六ヶ月ヲ最大限)トス

第三條 使用人又ハ團體旅行ニアリテハ使用主若クハ團體取締ヨリ連名ヲ以テ出願スルコトヲ得

第四條 軍政官、民政長官、民政支署長ハ前二條ノ出願者中本邦人ニシテ軍事上其他ニ於テ故障ナシト認ムルトキハ當府管内ニ限り旅行ヲ許可シ旅行券ヲ下附ス

第五條 外國人ニシテ當府管内ヲ旅行セントスルモノ若クハ内外國人ヲ問ハス當府管外ニ旅行セントスルモノハ關東總督ノ認可ヲ受クルヲ要ス但願書ニハ第二條出願事項ノ外旅行先ヲ記載スヘシ

第六條 本邦人ニシテ旅行券ノ下附ヲ受ケントスルトキハ願書提出ノ際每一人ニ付キ手数料トシテ銀二十錢ヲ納附スヘシ但郵便ヲ以テ出願スルトキハ該手数料ハ郵便切手(軍事郵便廢止後ハ旅行券送附ノ爲參錢切手ヲ加フルコト)ヲ以テ代納スルコトヲ得

第七條 旅行者ハ左ニ掲クル諸項ヲ遵守スヘシ

一 十歳未満ノモノハ單獨旅行ヲ許サス

二 旅行券ハ旅行ノ際各自携帯スヘシ

三 旅行券ヲ遺失、紛失セシ等ノ場合ニ在リテハ所在地軍政署、民政署、同支署ニ再下附ヲ願出テ尙ホ前ニ下附セラレタル官衙ニ其旨ヲ届出ツヘシ

四 旅行者ハ其旅行中許可ナクシテ營業ヲナスコトヲ得ス

五 旅行券ハ之ヲ他人ニ貸與スルヲ禁ス

六 旅行券不用トナリタル場合ニハ下附ヲ受ケタル官衙ニ返納スヘシ

第八條 本則第一條及第七條ニ違反シタルモノハ二圓以下ノ罰銀ニ處ス但情狀ニヨリ軍政官、民政

長官、民政支署長ハ當府管轄外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

附 則

- 一 明治三十八年十一月二十五日關總副政第六四號關東總督府管内渡航者旅行取締規則ハ之ヲ廢止ス
- 二 本令施行前旅行ノ許可ヲ受ケタル者ハ其指定時日間効力ヲ有スルモノトス

●關東總督府公布式(明治三十九年四月三日府令第三號)

本年四月三日以後遼東新報附錄關東總督府府報ヲ以テ當府ノ公布式ト定ム

◎署 令

●大連灣出入船舶及關東洲在留者取締規則施行細則(明治三十八年九月七日署令第一號)

大連灣出入船舶及關東洲在留者取締規則施行細則左ノ通相定ム

大連灣出入船舶及關東洲在留者取締規則施行細則

- 第一條 大連灣ニ出入スル船舶ハ大連市第五波止場(大山通北端元第二波止場)及第四波止場東沿岸陸揚場(大阪商船株式會社倉庫前)ヨリ其ノ乗客及船員ノ乗降ヲ爲サシメ又ハ貨物ノ積卸ヲ爲スヘシ

第二條 大連灣出入船舶及關東洲在留者取締規則第三條ニ依ル入港船舶ノ届出ハ船長ヨリ即日左ノ事項ヲ具シ關東洲民政署ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一 船ノ種類
 - 二 船名及信號符號
 - 三 船主
 - 四 船籍地
 - 五 總噸數(帆船ニ在リテハ其ノ石高)
 - 六 登簿噸數
 - 七 吃水前部後部
 - 八 船員ノ氏名
 - 九 貨物ノ種類、數量
 - 十 乗客ノ氏名、族籍、住所、身分、職業、年齡
 - 十一 發航及寄航ノ港灣並其ノ年月日
 - 十二 出港豫定日及行先地名
 - 十三 航海中ノ事項
- 第三條 大連灣出入船舶及關東洲在留者取締規則第三條ニ依ル出港船舶ノ届出ハ船長ヨリ出港五時間前ニ左ノ事項ヲ具シ關東洲民政署ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ
- 一 出港ノ日時
 - 二 船ノ種類
 - 三 船名

- 四 貨物ノ種類、數量
- 五 乗客ノ氏名、族籍、住所、身分、職業、年齢
- 六 到着及寄航ノ港灣並其ノ豫定年月日
- 第四條 大連灣出入船舶及關東洲在留者取締規則第六條ニ依ル居住者ノ届出ハ其ノ氏名、族籍、身分、職業、年齢及戶主、家族、同居人、使用人ノ區別並居住場所ヲ具シ三日以内ニ關東洲民政署又ハ支署ニ手續ヲ爲スヘシ其ノ居住地ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 前項ノ届出ハ家族、同居人又ハ使用人ニ在リテハ戶主又ハ備主ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第五條 居住者ニシテ戶籍上ノ異動ヲ生シタルトキハ三日以内ニ戶主又ハ家族ヨリ關東洲民政署又ハ支署ニ届出ツヘシ
- 第六條 大連灣出入船舶及關東洲在留者取締規則第七條ニ依ル營業許可願ニハ營業ノ種類、商號、營業場所及居住届出年月日ヲ具シ且軍票ニ基ク物品販賣價格表ヲ附シ關東洲民政署又ハ支署ニ手續ヲ爲スヘシ其ノ居住地外ニ於テ支店ヲ設置セムトスルトキハ別ニ管理人ヲ定ムルコトヲ要ス
- 營業ヲ廢止シタルトキハ三日以内ニ廢業ノ届出ヲ爲スヘシ
- 第七條 大連灣出入船舶及關東洲在留者取締規則第十一條ニ依リ營業開始ノ認可ヲ得ムトスル者ハ前條第一項記載ノ事項ヲ具シ關東洲民政署又ハ支署ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第八條 營業者ニシテ公安風俗又ハ衛生ヲ害スル虞アルトキハ關東洲民政署又ハ支署ハ營業ヲ停止シ若クハ許可ヲ取消スヘシ

附 則

第九條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●藝妓酌婦及雇婦女取締規則(明治三十八年十月十七日署令第二號)

藝妓、酌婦及雇婦女取締規則左ノ通相定ム

第一條 藝妓又ハ酌婦ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ且戶籍謄本及本署又ハ支署ノ指定シタル醫師ノ健康診斷書ヲ添ヘ本署又ハ支署ニ願出許可證ヲ受クヘシ

一 氏名、族籍、住所、身分、年齢

二 藝名ヲ有スル者ハ其ノ名稱

三 前居住地、職業、雇主アリタル者ハ其ノ氏名、住所、職業及解雇年月日

四 抱主アルトキハ其ノ氏名、住所、職業及抱主トノ契約上ノ關係

未成年者又ハ有夫ノ婦ニ在リテハ前項ニ記載スル事項ノ外親權者、後見人又ハ夫ノ同意書ヲ添付スルコトヲ要ス

第二條 料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、待合茶屋、貸席、貸座敷、引手茶屋、遊技場營業者ニシテ客ヲ接待セシムル目的ヲ以テ藝妓酌婦以外ノ婦女ヲ雇入レムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ且本人ノ戶籍謄本及本署又ハ支署ノ指定シタル醫師ノ健康診斷書ヲ添ヘ連署ヲ以テ本署又ハ支署ニ届出認可證ヲ受クヘシ其ノ未成年者ニ在リテハ身元保證書ノ添付ヲ要ス

一 前條第一項第一號及第三號ニ記載シタル事項

署 令

- 二 口入人アルトキハ其ノ氏名、住所、職業
- 三 雇傭期間及雇傭賃金
- 第三條 藝妓、酌婦及前條ニ規定スル雇傭女ニシテ左ノ一ニ該當スルトキハ三日以内ニ藝妓、酌婦ニ在リテハ本人ヨリ雇傭女ニ在リテハ雇主ヨリ本署又ハ支署ニ届出第一號ノ場合ニ於テハ許可證又ハ認可證ノ書換ヲ第二號ノ場合ニ於テハ其ノ再下付ヲ請求シ第三號ノ場合ニ於テハ其ノ返納ヲ爲スヘシ但シ藝妓、酌婦ノ死亡又ハ失踪ノ場合ニ於テハ抱主又ハ家族若ハ同居人ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ
- 一 許可證又ハ認可證面ノ異動
- 二 許可證又ハ認可證ノ毀損、亡失
- 三 廢業、死亡、失踪
- 第四條 藝妓、酌婦又ハ第二條ニ規定スル雇傭女ハ從業中許可證若ハ認可證ヲ携帯スヘシ許可證又ハ認可證ハ之ヲ他人ニ貸與スルコトヲ得ス
- 第五條 警察官吏ハ藝妓、酌婦ノ許可證及雇傭女ノ認可證ヲ検査スルコトアルヘシ
- 第六條 藝妓、酌婦ハ從業中左ノ事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 遊技ニ托シ賭博ニ類スル所業ヲ爲スヘカラス
 - 二 異様ノ粉裝又ハ醜體ヲ爲スヘカラス
 - 三 猥褻ナル放歌又ハ舞踊ヲ爲シ若ハ之ヲ爲サシムヘカラス
- 第七條 藝妓ハ午後十二時以後午前七時前ニ於テ歌舞音曲ヲ演スルコトヲ得ス

- 第八條 藝妓、酌婦ニシテ他家ニ宿泊セムトスルトキハ本署又ハ支署ノ認可ヲ受クヘシ
 - 第九條 藝妓、酌婦及第二條ニ規定スル雇傭女又ハ風俗衛生上取締ヲ要スル場所ニ同居若ハ出入スル婦女ニシテ傳染性疾患ノ虞アリト認ムル者ニ對シ當該吏員ハ其ノ健康診斷ヲ行フコトヲ得
 - 第十條 前條ノ婦女ニシテ傳染性疾患又ハ其ノ疑似症ニ罹リタルトキハ病院ニ收容シ治療ヲ受ケシムヘシ其ノ入院費用ハ抱主、雇主又ハ本人ヨリ之ヲ徴收ス
 - 第十一條 本署又ハ支署ニ於テ風俗若ハ衛生上必要ト認ムルトキハ藝妓、酌婦ノ抱主又ハ雇傭女ノ雇主ニ對シ藝妓、酌婦又ハ雇傭女ノ員數ヲ制限スルコトアルヘシ
 - 第十二條 藝妓、酌婦及第二條ニ規定スル雇傭女ニシテ風俗若ハ衛生ニ害ヲ及ホス者ト認ムルトキハ其ノ從業ヲ停止シ又ハ其ノ許可證ヲ取消スコトアルヘシ
 - 前項ニ依リ從業ヲ停止セラレタルトキハ停止期間中許可證又ハ認可證ヲ提供シ其ノ許可證又ハ認可證ヲ取消サレタルトキハ之ヲ返納スヘシ
 - 第十三條 此ノ規則又ハ此ノ規則ニ基ク處分ニ違背シタル者ハ十日以内ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 - 第十四條 此ノ規則ハ之ヲ娼妓ニ適用セス
- 附 則
- 第十五條 本令ハ明治三十八年十月二十日ヨリ施行ス
 - 第十六條 本令施行前ニ於テ第一條ノ營業ニ従事スル者及第二條ノ雇入ヲ爲シタル者ハ明治三十八年十月三十一日迄ニ第一條又ハ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ

●屍體取扱方(明治三十八年十月十七日署令第三號)

屍體ハ醫師ノ診断書又ハ検案書ヲ添ヘ本署又ハ支署ニ届出認許ヲ受クルニアラサレハ埋葬スルコトヲ得ス犯スモノハ拘留又ハ科料ニ處ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業取締規則

(明治三十八年十月三十一日署令第四號)

料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業取締規則左ノ通相定ム

料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業取締規則

第一條 料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ且軍票ニ基ク代價又ハ料金ヲ定メ本署又ハ支署ニ願出許可ヲ受クヘシ第二號第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一 氏名、族籍、住所、年齢及商號

二 營業場所ノ位置及營業ノ種類

三 營業用建物ノ平面圖(出入口、窓、通路、間取、換氣法及暖氣法ノ設備、階段ノ位置及幅等ヲ詳記スヘシ)

前項ノ出願者ニシテ未成年者、禁治産者ニ在リテハ法定代理人、準禁治産者ニ在リテハ保佐人妻ニ在リテハ夫ノ連署又ハ同意書ノ添付ヲ要ス

第二條 營業者自ラ營業ヲ管理シ能ハサル事情アルトキハ管理人ヲ定メ本署又ハ支署ノ認可ヲ受ク

ヘシ

第三條 營業者ハ左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ本署又ハ支署ニ届出ツヘシ但シ死亡、失踪ノ場合ハ家族又ハ同居人ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

一 休業、廢業、死亡、失踪

二 氏名、族籍、住所、商號ヲ變更シ又ハ法定代理人、保佐人、夫、管理人ニ異動アリタルトキ

第四條 物價ノ高低ニ依リ飲食物ノ代價、宿料、席料、手數料ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ本署又ハ支署ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 營業者ニシテ使用人ヲ雇入レタルトキハ其ノ氏名、族籍、住所、年齢ヲ具シ三日以内ニ本署又ハ支署ニ届出ツヘシ解雇、死亡、失踪ノトキ亦同シ但シ藝妓、酌婦及雇婦女取締規則ニ依ルヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條 營業者ハ略易キ場所ニ氏名又ハ商號及住所營業名ヲ明記シタル看板(壁ニ尺五寸、八寸ヲ掲ケ夜間ハ標燈ヲ點スヘシ)

第七條 客室ノ入口ニハ番號ヲ標記シ飲食物ノ代價、宿料、席料、手數料ハ客ノ略易キ場所ニ掲示スヘシ

第八條 結核病、癩病、徵毒其ノ他傳染病ニ罹レル者ヲシテ飲食物若ハ容器ノ取扱ヲ爲サシメ又ハ其ノ取扱ヲ爲スヘキ場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス

第九條 飲食物ノ取扱者ニ對シ本署又ハ支署ノ指定シタル醫師ノ健康診断書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

- 第十條 風俗若ハ衛生上必要ト認ムルトキハ本署又ハ支署ハ營業者ニ對シ其ノ使用人ノ解雇ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十一條 客ノ變死傷又ハ携帶品ノ紛失、盜難アリタルトキハ他客ノ出入ヲ止メ置キ速ニ警察官吏ニ届出ツヘシ傳染病ノ疑アル患者ヲ生シタルトキ亦同シ
- 第十二條 營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 客引ヲ出シ又ハ種々ノ手段ヲ設ケ強テ客ヲ誘引スヘカラス
 - 二 不當ノ代料ヲ請求シ若ハ客ノ求メサル飲食物ヲ供シ又ハ遊興ヲ勸ムヘカラス
 - 三 客ニ供スル飲食器具ハ常ニ清潔ナラシムヘシ
 - 四 家屋ノ内外ハ常ニ清潔ニシ殊ニ便所其ノ他不潔ノ場所ハ毎月五回以上消毒的清潔法ヲ施行スヘシ
 - 五 客室、廊下其ノ他適當ノ場所ニ唾壺ヲ設置スヘシ
 - 六 客ニ面會ヲ求ムル者アルトキハ故ナク之ヲ隠秘シ又ハ其ノ執次ヲ拒ムヘカラス
 - 七 飲食物ノ代價、宿料、席料、手數料ノ抵償トシテ客ノ所持品ヲ及取ラムトスルトキ又ハ客ノ依頼ニ依リ所持品ヲ入質又ハ賣却セントスルトキハ本署又ハ支署若ハ警察官吏派出所ニ届出其ノ認承ヲ受クヘシ
 - 八 身分不相應ノ金錢ヲ浪費シ又ハ舉動其ノ他ニ於テ不審ト認ムル客アルトキハ本署、支署又ハ警察官吏派出所若ハ巡行ノ警察官吏ニ申告スヘシ
- 九 料理店、飲食店、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業者ハ客ヲ宿泊セシムヘカラス下宿屋營業者ニシ

- テ下宿人以外ノ客ニ對シテ亦同シ
- 十 料理店、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業者ハ午後十二時以後午前七時前ニ於テ歌舞音曲ヲ演セシムルコトヲ得ス
- 十一 飲食店、宿屋、下宿屋營業者ハ客ヲシテ放歌詩吟又ハ歌舞音曲ヲ演シ他客ニ妨害ヲ與フヘキ行爲ヲ爲サシムヘカラス
- 第十三條 宿屋營業者ハ別記様式ニ依リ宿泊人名簿ヲ調製シ且午後十二時前ノ投宿者ニ對シテハ午後十二時迄ニ午後十二時以後ノ投宿者ニ對シテハ翌日午前八時迄ニ本署、支署又ハ警察官吏派出所ニ宿泊人名簿ト同一事項ヲ記載シタル投宿届ヲ爲スヘシ
- 第十四條 下宿屋營業者ハ下宿人ノ氏名、族籍、住所、職業、年齢ヲ記載シタル下宿人名簿ヲ調製シ其ノ異動ヲ三日以内ニ本署又ハ支署ニ届出ツヘシ
- 第十五條 營業取締上視察ノ必要アリト認ムルトキハ警察官吏ハ隨時營業場所ニ臨檢スルコトアルヘシ
- 第十六條 營業許可ノ後正當ノ理由ナクシテ六十日以上開業セサルトキ又ハ開業後百八十日以上休業シタルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第十七條 營業者ニシテ公安、風俗又ハ衛生ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ營業ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第十八條 營業上ニ關シテハ家族、同居人及雇人ノ所爲ト雖營業者又ハ管理人其ノ責ニ任ス
- 第十九條 各營業者ニシテ組合規約ヲ設ケムトスルトキハ役員選舉ノ方法及組合費ノ收支其ノ他組

合事務ニ關スル事項ヲ具シ本署又ハ支署ノ認可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

組合規約ハ認可ノ後ト雖之カ取消又ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十条 本則又ハ本則ニ基ク處分ニ違背シタル者ハ十日以内ノ拘留又ハ二圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一条 前條ノ規定ハ十二歳未満ノ者及禁治産者ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス

附 則

第二十二条 本令ハ明治三十八年十一月一日ヨリ施行ス

(別記様式署ス)

● 公布式

(明治三十八年十一月一日署令第十五號) (明治三十八年十一月一日署令第十五號) (明治三十八年十一月一日署令第十五號)

民政ニ關シ關東總督ノ發スル命令及關東洲民政署民政長官ノ發スル命令ハ遼東新報ニ掲載スルヲ以テ公布式ト定ム

● 關東洲地租規則

(明治三十八年十月二日署令第六號)

關東洲地租規則左ノ通相定ム

關東洲地租規則

第一條 土地ノ業主ニハ毎年一畝ニ付銀十錢ノ地租ヲ賦課ス

第二條 田畑ヲ有租地トシ其ノ他ノ土地ヲ免租地トス

第三條 地租ノ納期ハ毎年十一月トス

第四條 免租地ヲ有租地ト爲シタル場合ハ其ノ所在、地種、反別ヲ所轄民政署又ハ其ノ支署ニ申告ス

ヘシ

第五條 有租地ヲ賣買、讓與、質入シタルトキハ連署ヲ以テ所轄民政署又ハ其ノ支署ニ申告スヘシ

第六條 村長ハ地租徵收費看青費其ノ他ノ費用ニ充ツル爲田畑一畝ニ付五厘以内ノ取立ヲ爲スコトヲ得

第七條 地租ヲ逋脱シタル者ハ税金十倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處シ其ノ地租ヲ追徵ス

附 則

第八條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第九條 土地ノ業主ハ本令發布ノ日ヨリ三十日以内ニ其ノ所在、地種、反別ヲ本署又ハ支署ニ申告ス

ヘシ

第十條 前條ノ申告ヲ偽リ又ハ怠リタル者ハ銀十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 土地ニ關スル從來ノ公課ハ此ノ規則施行ノ日ヨリ廢止ス

● 關東洲雜種稅規則

(明治三十八年十月二日署令第七號) (明治三十九年二月二十五日署令第七號及同年四月二十日署令第十七號ヲ以テ本令中改正)

關東洲雜種稅規則左ノ通相定ム

關東洲雜種稅規則

第一條 關東洲雜種稅ハ左ノ種目、課稅標準及稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

署 令

藝妓	月稅銀七圓
小藝妓(十二歳未滿)	月稅銀三圓
娼妓	月稅銀五圓(支那人半額)
娼間	月稅銀二圓
俳優	月稅銀三圓
遊藝師匠遊藝隊人	月稅銀二圓
酌婦	月稅銀二圓
演劇(建物ノ有無ヲ分タス)	日稅收入見込金額百分ノ五
興行(建物ノ有無ヲ分タス)	日稅收入見込金額百分ノ五
遊技場	月稅銀二圓
玉突塲玉突臺一個ニ付	月稅銀二圓
玉突塲以外ノモノ	月稅銀一圓
人寄席	日稅銀五十錢
車	月稅馬車、荷積馬車、荷車、各銀二圓 人力車、各銀五十錢

屠宰	牛一頭銀一圓五十錢 其ノ他ノ畜類一頭銀三十錢
湯屋	月稅收入見込金額千分ノ五
理髮業	一人 月稅銀一圓 <small>理髮人一人ヲ増ス毎 二銀五十錢ヲ加フ</small>
洗濯業	月稅收入見込金額千分ノ五
舂船業	月稅銀一圓
潜水業	月稅銀一圓
大工職、左官職、鍛冶職、鑄物職	月稅銀五十錢
羅市場	月稅收入見込金額千分ノ一・五
第一條ノ二 何等ノ名稱ヲ以テスルモ營利ノ業ニ屬シ第一條中ノ種目ニ類似スル業態ノ者ニハ適當ト認ムル種目ニ依リ雜種稅ヲ賦課ス	
第二條 屠宰稅ハ屠宰場ノ管理者ニ賦課ス 娼妓、娼妓及酌婦ノ各稅ハ抱主、雇主ヨリ徵收スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ抱主雇主ヲ納稅義務者ト看做ス	
第三條 月稅ハ毎月一日ノ現在ニ依リ賦課ス 一日以後新ニ納稅義務ノ發生シタルトキハ隨時之ヲ賦課ス	
第四條 日稅及屠宰稅ハ申告ノ際隨時之ヲ賦課ス	

第五條 月税ヲ納ムヘキ義務者ハ毎年四月一日現在ニ依リ四月十日迄ニ左ノ事項ヲ記載シ所轄署ニ申告スヘシ

- 一 業體又ハ物件ノ名稱箇數
- 二 營業場又ハ物件ノ所在地
- 三 課税標準
- 四 住所氏名

新ニ納税義務ヲ生シタルトキハ第一項ニ準シ十日以内ニ申告スヘシ

日税又ハ屠宰税ヲ納ムヘキ義務者ハ其ノ當日第一項ニ準シテ申告スヘシ

第六條 前條第一項第二項申告ノ事項ニ異動ヲ生スルカ又ハ納税ノ義務消滅シタルトキハ其ノ時々所轄署ニ申告スヘシ但シ納税義務者死亡失踪其ノ他ノ事故ニ依リ本人ヨリ申告スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ家族又ハ管理人ヨリ申告スヘシ

第七條 月税納税義務者ニシテ他管内へ移轉シタルトキハ移轉地所轄署ニ申告スヘシ

一 前住地

二 當月迄ノ納税済否

三 第五條第一項ノ事項

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル納税義務者ハ納税管理人ヲ定メ連署ヲ以テ所轄署ニ申告スヘシ

一 滿一箇月以上ニ渉ル旅行又ハ不在ノ者

二 所轄署ヨリ納税管理人ノ選定ヲ命セラレタル者

第九條 當該官吏ハ納税義務者ノ家宅其ノ他ノ場所ニ就キ業務ニ關スル帳簿物件ヲ調査スルコトヲ得

第十條 納税義務者第五條ノ申告ヲ爲ササルトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ民政長官税額ヲ決定ス

罰則

第十一條 第五條、第六條ノ申告ヲ爲サス若ハ虚偽ノ申告ヲ爲シ又ハ其ノ申告ヲ怠リタル者及第九條ノ調査ヲ拒ミタル者ハ銀五十圓以下ノ罰金ニ處ス因リテ脱税ヲ爲シタル者ハ税金十倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第七條第八條ノ申告ヲ爲サス又ハ怠リタル者ハ銀一圓以上ノ科料ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

本令施行ノ際ニ限リ第五條ノ申告書ハ施行當日ノ現在ニ依リ施行當日ヨリ五日以内ニ所轄署ニ提出スヘシ

●公課徴收規則(明治三十八年十月二日(千五百五号)署令第八號)

關東洲ニ於ケル公課徴收規則左ノ通相定ム

公課徴收規則

第一條 關東洲ニ於ケル公課ノ徴收ハ特別ノ規定アルモノノ外此ノ規則ニ依ル

第二條 此ノ規則ニ於テ公課ト稱スルハ租税及其ノ他一切ノ徵收金ヲ謂フ

第三條 公課ノ計算方ハ總テ四捨五入ノ法ニ依リ錢位ニ止ム

第四條 公課ハ總テ出納官吏ニ納付スヘシ

第五條 公課ヲ納付スヘキ義務アル者納期日迄ニ完納セサルトキハ期限ヲ指定シテ督促スヘシ

第六條 公課ヲ納付スヘキ義務アル者前條ノ指定期日内ニ完納セサルトキハ其ノ財産ヲ差押ヘ之ヲ

公賣シテ徵收スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ財産差押以後公賣終了迄要シタル一切ノ費用ヲ併セテ徵收スヘシ

第七條 第六條ノ處分結了シタルトキハ其ノ公課納付ノ義務ハ消滅ス

第八條 滯納者公課ノ納付義務ヲ免ルルタメ故意ヲ以テ其ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ契約ヲ爲

シタル者ハ滯納金額ノ十倍ニ相當スル罰金ニ處ス其ノ情ヲ知リテ之ヲ幫助シタル者ハ本刑ノ二分

ノ一ヲ減ス

附 則

第九條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●娼妓取締規則(明治三十八年十二月三十日署令第十二號)

娼妓取締規則左ノ通相定ム

娼妓取締規則

第一條 娼妓稼業ヲ爲サムトスル者ハ自ラ本署又ハ支署ニ出頭シ左ノ事項ヲ具シタル願書ヲ差出シ

許可ヲ受クヘシ

一 氏名、族籍、住所、身分

二 生年月

三 妓名

四 娼妓トナル事由

五 娼妓稼業ノ年限

六 貸座敷營業者ト契約上ノ關係

七 未成年者ニ在リテハ同一戸籍内ニ在ル最近尊族親尊族親ナキトキハ戸主ノ承諾ヲ得タルコト

若承諾ヲ與フル者ナキトキハ其ノ事實

八 娼妓稼業ヲ爲スヘキ場所及住居

九 現在ノ生業但シ他人ニ依リテ生計ヲ營ム者ハ其ノ事實

十 娼妓タリシ事實ノ有無並ニ娼妓タリシ者ハ其ノ稼業ノ開始廢止年月日場所及稼業廢止ノ事

由

前項ノ願書ニハ戸籍謄本及本署又ハ支署ノ指定シタル醫師ノ健康診斷書ヲ添付スヘシ仍未成年者

ニ在リテハ前項第七號ノ承諾書ヲ添付スルヲ要ス

本署又ハ支署ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項ノ外市區町村長ノ作リタル承諾者ノ印鑑證明書ヲ提

出セシムルコトアルヘシ

- 第二條 左ノ事項ニ該當スル者ハ娼妓タルコトヲ得ス
 - 一 十七歳未満ノ者
 - 二 有夫ノ婦
 - 三 竊盜、詐僞取財ノ前科アル者
- 第三條 娼妓ハ本署又ハ支署ノ指定シタル遊廓地域外ニ住居スルコトヲ得ス又官廳ノ命令ニ依リ若ハ本署又ハ支署ニ出頭スル場合ノ外本署又ハ支署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ遊廓地域外ニ出ツルコトヲ得ス
- 第四條 娼妓ハ本署又ハ支署ノ許可シタル貸座敷内ニ非サレハ稼業ヲ爲スコトヲ得ス
- 第五條 娼妓ハ別ニ定ムル所ニ從ヒ健康診断ヲ受クヘシ其ノ健康診断ヲ受ケサル者ハ稼業ヲ爲スコトヲ得ス
- 第六條 本署又ハ支署ノ指定シタル醫師ニ於テ疾病ニ罹リ稼業ニ堪ヘサル者又ハ傳染性疾患アルモノト診断シタル娼妓ハ治療ノ上健康診断ヲ受クルニ非サレハ稼業ニ就クコトヲ得ス
- 第七條 娼妓ハ其ノ稼業中本署又ハ支署ノ交付シタル許可證ヲ携帶スヘシ許可證ハ之ヲ他人ニ貸與スルコトヲ得ス
- 第八條 娼妓第一條第一項第五號第六號又ハ第八號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ本署又ハ支署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ
- 第九條 娼妓稼業ヲ休止シタルトキ又ハ停止セラレタルトキハ本署又ハ支署ニ許可證ヲ提供シ復業ノトキ其ノ下付ヲ受クヘシ其ノ許可ヲ取消サレタルトキハ之ヲ返納スヘシ

- 第十條 娼妓ハ左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ本署又ハ支署ニ届出第一號ノ場合ニ在リテハ許可證ノ書換ヲ第二號ノ場合ニ在リテハ其ノ再下付ヲ第三號ノ場合ニ在リテハ其ノ返納ヲ爲スヘシ但シ死亡又ハ失踪ノ場合ニ在リテハ契約上ノ關係ヲ有スル貸座敷營業者ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ
 - 一 許可證面ニ異動ヲ生シタルトキ
 - 二 許可證ヲ毀損又ハ亡失シタルトキ
 - 三 廢業死亡又ハ失踪ノトキ
- 第十一條 娼妓廢業セムトスルトキハ自ラ本署又ハ支署ニ出頭シ書面又ハ口頭ヲ以テ届出ツヘシ但シ自ラ出頭スル能ハサル事由アリト認ムルトキハ代人ニ依ル届出ヲ受理スルコトアルヘシ
- 第十二條 前項ノ届出ハ娼妓未成年者ナルトキハ第一條第一項第七號ニ記載スル者亦之ヲ爲スコトヲ得
- 第十三條 本署又ハ支署ニ於テ取締上必要ト認ムルトキハ娼妓稼業ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第十四條 支那人ニシテ娼妓稼業ヲ爲サムトスル者ニ在リテハ第一條ニ規定スル各項中其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得
- 第十五條 此ノ規則又ハ此ノ規則ニ基キテ爲ス處分ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附 則

●貸座敷取締規則(明治三十九年十二月三十日署令第十三號)

此ノ規則ハ明治三十九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 遊客人名簿ハ最後記入ノ日ヨリ起算シ一箇年保存スヘシ若シ毀損亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ具シテ本署又ハ支署ニ届出ヘシ
- 第十四條 營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
- 一 店頭其ノ他屋外ニ於テ通行人ニ遊興ヲ勸メ又ハ種々ノ手段ヲ設ケ客ヲ誘引シ若ハ廣告ヲ爲シテ遊興ノ勸誘ヲ爲スヘカラス
 - 二 不當ノ代價料金ヲ請求シ又ハ客ノ求メサル飲食物ヲ供スルコトヲ得ス
 - 三 十七歳未満ノ者ニ遊興ヲ爲サシムヘカラス
 - 四 客ニ面會ヲ求ムル者アルトキハ故ナク之ヲ隠秘シ又ハ其ノ取次ヲ拒ムヘカラス
 - 五 客ニ供スル飲食器具ハ常ニ清潔ナラシムヘシ
 - 六 家屋ノ内外ハ常ニ清潔ニシ便所其ノ他不潔ノ場所ハ毎月五回以上消毒的清潔法ヲ施行スヘシ
 - 七 客室、廊下其ノ他適當ノ場所ニ唾壺ヲ設置スヘシ
 - 八 家屋内一定ノ場所ニ輕便消火器ヲ備ヘ置クヘシ
 - 九 遊興費ノ抵償トシテ客ノ所持品ヲ受取ラムトスルトキ又ハ客ノ依頼ニ依リ他ニ入質又ハ賣却セムトスルトキハ本署、支署又ハ警察官吏派出所ニ届出其ノ承認ヲ受クヘシ
 - 十 金錢ヲ浪費シ又ハ身分不相應ノ金錢物品ヲ所持シ若ハ舉動其ノ他ニ於テ不審ト認ムル客アルトキハ速ニ警察官吏に申告スヘシ
 - 十一 娼妓ニ娼妓取締規則ヲ遵守セシムルコトヲ努ムヘシ
 - 十二 健康診断ヲ受ケサル娼妓ヲシテ稼業ヲ爲サシムヘカラス

- 第十五條 營業取締上視察ノ必要アリト認ムルトキハ警察官吏ハ隨時營業場所ニ臨檢スルコトアルヘシ
- 第十六條 營業ノ許可ヲ得タル後正當ノ事由ナク六十日以上開業セサルトキ又ハ開業後百八十日以上休業シタルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第十七條 營業者ニシテ公安風俗又ハ衛生ヲ害スル虞アリト認ムルトキ又ハ徵稅ノ規則ニ背キ納金セサルトキハ營業ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第十八條 營業上ニ關シテハ家族、同居人、雇人ノ所爲ト雖營業者又ハ管理人其ノ責ニ任ス
- 第十九條 營業者ハ遊廓地域毎ニ組合ヲ設ケ規約ヲ定メ本署又ハ支署ニ届出認可ヲ受クヘシ其ノ規約ヲ改正變更セムトスルトキ亦同シ
- 組合規約ニハ役員選舉ノ方法役員ノ職務權限及組合費ノ收支其ノ他組合事務ニ關スル事項ヲ具備スヘシ
- 組合規約ハ認可後ト雖之カ取消又ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ
- 第二十條 組合ニ加入セサル者ハ貸座敷營業ヲ爲スコトヲ得ス
- 第二十一條 組合ハ貸座敷營業者中ヨリ取締一名副取締一名若ハ二名ヲ選舉シ本署又ハ支署ノ認可ヲ受クヘシ但シ認可後ト雖不適當ト認ムルトキハ其ノ認可ヲ取消シ再選ヲ命スルコトアルヘシ
- 第二十二條 取締ハ貸座敷及娼妓ニ關スル規則ノ發布改正其ノ他官ノ命令アリタルトキハ其ノ事項ヲ貸座敷營業者及娼妓ニ告知スヘシ
- 第二十三條 取締ハ貸座敷營業者及娼妓ノ名簿ヲ調製シ異同アル毎ニ加除訂正スヘシ

- 遊客人名簿ハ最後記入ノ日ヨリ起算シ一箇年保存スヘシ若シ毀損亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ具シテ本署又ハ支署ニ届出ヘシ
- 第十四條 營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
- 一 店頭其ノ他屋外ニ於テ通行人ニ遊興ヲ勸メ又ハ種々ノ手段ヲ設ケ客ヲ誘引シ若ハ廣告ヲ爲シテ遊興ノ勸誘ヲ爲スヘカラス
 - 二 不當ノ代價料金ヲ請求シ又ハ客ノ求メサル飲食物ヲ供スルコトヲ得ス
 - 三 十七歳未満ノ者ニ遊興ヲ爲サシムヘカラス
 - 四 客ニ面會ヲ求ムル者アルトキハ故ナク之ヲ隠秘シ又ハ其ノ取次ヲ拒ムヘカラス
 - 五 客ニ供スル飲食物具ハ常ニ清潔ナラシムヘシ
 - 六 家屋ノ内外ハ常ニ清潔ニシ便所其ノ他不潔ノ場所ハ毎月五回以上消毒的清潔法ヲ施行スヘシ
 - 七 客室、廊下其ノ他適當ノ場所ニ唾壺ヲ設置スヘシ
 - 八 家屋内一定ノ場所ニ輕便消火器ヲ備ヘ置クヘシ
 - 九 遊興費ノ抵償トシテ客ノ所持品ヲ受取ラムトスルトキ又ハ客ノ依頼ニ依リ他ニ入質又ハ賣却セムトスルトキハ本署、支署又ハ警察官吏派出所ニ届出其ノ承認ヲ受クヘシ
 - 十 金錢ヲ浪費シ又ハ身分不相應ノ金錢物品ヲ所持シ若ハ舉動其ノ他ニ於テ不審ト認ムル客アルトキハ速ニ警察官吏に申告スヘシ
 - 十一 娼妓ニ娼妓取締規則ヲ遵守セシムルコトヲ努ムヘシ
 - 十二 健康診断ヲ受ケサル娼妓ヲシテ稼業ヲ爲サシムヘカラス

- 第十五條 營業取締上視察ノ必要アリト認ムルトキハ警察官吏ハ隨時營業場所ニ臨檢スルコトアルヘシ
- 第十六條 營業ノ許可ヲ得タル後正當ノ事由ナク六十日以上開業セサルトキ又ハ開業後百八十日以上休業シタルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第十七條 營業者ニシテ公安風俗又ハ衛生ヲ害スル虞アリト認ムルトキ又ハ徵稅ノ規則ニ背キ納金セサルトキハ營業ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第十八條 營業上ニ關シテハ家族、同居人、雇人ノ所爲ト雖營業者又ハ管理人其ノ責ニ任ス
- 第十九條 營業者ハ遊廓地域毎ニ組合ヲ設ケ規約ヲ定メ本署又ハ支署ニ届出認可ヲ受クヘシ其ノ規約ヲ改正變更セムトスルトキ亦同シ
- 組合規約ニハ役員選舉ノ方法役員ノ職務權限及組合費ノ收支其ノ他組合事務ニ關スル事項ヲ具備スヘシ
- 組合規約ハ認可後ト雖之カ取消又ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ
- 第二十條 組合ニ加入セサル者ハ貸座敷營業ヲ爲スコトヲ得ス
- 第二十一條 組合ハ貸座敷營業者中ヨリ取締一名副取締一名若ハ二名ヲ選舉シ本署又ハ支署ノ認可ヲ受クヘシ但シ認可後ト雖不適當ト認ムルトキハ其ノ認可ヲ取消シ再選ヲ命スルコトアルヘシ
- 第二十二條 取締ハ貸座敷及娼妓ニ關スル規則ノ發布改正其ノ他官ノ命令アリタルトキハ其ノ事項ヲ貸座敷營業者及娼妓ニ告知スヘシ
- 第二十三條 取締ハ貸座敷營業者及娼妓ノ名簿ヲ調製シ異同アル毎ニ加除訂正スヘシ

第二十四條 本署又ハ支署ハ組合事務ヲ監視スル爲メ當該官吏ヲシテ組合ニ關スル文書及共有財産ノ檢閲ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第二十五條 此ノ規則又ハ此ノ規則ニ基ク處分ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二十六條 前條ノ規定ハ十二歳未満ノ者又ハ禁治産者ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス

附 則

第二十八條 此ノ規則ハ明治三十九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別記様式略ス)

●「ベスト」豫防ノ爲ニ濫褻類輸入禁止(明治三十九年一月九日署令第一號)

「ベスト」豫防ノ爲當分ノ内大阪神戸ヲ發シ又ハ同地ヲ經由シタル襪褌、古著類、古綿類、古紙類、古革皮類、古羽毛類、古敷物類、古麻袋類ノ輸入ヲ禁止ス但シ渡航者自用ノ古著類ハ檢疫官吏ニ於テ検査消毒ノ上揚陸ヲ許可ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●娼妓健康診断施行規則(明治三十九年二月一日署令第七號)

娼妓健康診断施行規則左ノ通相定ム

娼妓健康診断施行規則

第一條 娼妓ハ本署又ハ支署ノ指定シタル日時場所ニ出頭シ検査醫ノ定期健康診断ヲ受クヘシ

第二條 検査醫ニ於テ特ニ必要ト認ムル娼妓ニ對シテハ本署又ハ支署ノ指定シタル場所ニ出頭セシメ臨時健康診断ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第三條 傳染性疾患ニ罹リタルコトヲ自覺シタル娼妓ハ本署又ハ支署ニ届出テ検査醫ノ臨時健康診断ヲ受クヘシ

第四條 寄寓貸座敷ニ在ル者ハ休業中ト雖本則ニ從ヒ健康診断ヲ受クヘシ

第五條 疾病又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ健康診断ヲ受クヘキ當日出頭スルコト能ハサルトキハ疾病ノ場合ニ在リテハ診断書其ノ他ノ場合ニ在リテハ其ノ事由ヲ添ヘ即日検査所ニ届出ヘシ

検査醫ノ前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ往診スルコトアルヘシ

第六條 娼妓ハ受檢ノ都度本署又ハ支署ノ下付シタル受檢證書ニ検査醫ノ健康證印ヲ受クヘシ

第七條 傳染性疾患アリト認メラレタル者ハ直ニ本署又ハ支署ノ指定シタル病院ニ入院スヘシ但シ

第五條ノ受檢者ニシテ直ニ入院スルコト能ハスト認メラレタル者ハ其ノ輕快ヲ俟テ入院スヘシ

前項ノ入院費用ハ本人又ハ契約上ノ關係ヲ有スル貸座敷營業者ヨリ之ヲ徵收ス

第八條 本令ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●獸類取扱規則(明治三十九年二月五日署令第三號)

獸類取扱規則左ノ通相定ム

獸類取扱規則

- 第一條 牛馬羊豚ノ所有者又ハ管理人ハ左記ノ場合ニ於テハ其ノ産地、種類、牝牡、毛色、年齢、頭數ヲ記載シ即時本署又ハ支署ニ届出ツヘシ第四號及第五號ノ場合ニ於テハ仍其ノ指揮ヲ受クヘシ
 - 一 牛馬羊豚ヲ輸入シタルトキ
 - 二 牛馬羊豚ヲ賣買譲與シタルトキ
 - 三 牛馬羊豚ノ繋留所ヲ設ケ又ハ之ヲ變更シタルトキ
 - 四 牛馬羊豚ノ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ疑アルコトヲ發見シタルトキ
 - 五 牛馬羊豚斃死シタルトキ
- 第二條 疾病ニ罹リ又ハ斃死シタル牛馬羊豚ヲ遺棄スルコトヲ得ス
- 第三條 本令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス
 明治三十八年署令第九號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

● 塵芥掃除規則 (明治三十九年二月七日署令第四號)

- 塵芥掃除規則左ノ通相定ム
- 第一條 邸宅及其ノ地先道路ハ常に清潔ニ保持シ塵芥ヲ散亂セシムヘカラス

塵芥掃除規則

- 降雪ノ際ハ其ノ都度之ヲ掃除シ交通ノ妨害ト爲ラサル場所ニ集積シ置クヘシ
- 第二條 邸宅及其ノ地先道路ノ塵芥ヲ掃除セントスル場合ニ於テ地面乾燥シ土砂飛揚ノ虞アルトキハ適量ノ撒水ヲ爲シタル後ニ之ヲ行フヘシ
- 第三條 各戸又ハ數戸協同シ別記圖式ニ據リ構造セル塵芥箱ヲ設備スヘシ
- 第四條 塵芥ハ塵芥箱以外ニ之ヲ投棄スヘカラス
- 第五條 本令ノ規定ニ依ル責任者ハ居住者アル邸宅ニ在リテハ居住者又居住者ナキ邸宅ニ在リテハ其ノ管理者トス
- 第六條 本令ハ大連、旅順、金州、柳樹屯、皮子窩ノ市街地ニ之ヲ適用ス

附 則

- 第七條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス
- 第八條 本令ニ規定セル塵芥箱ハ明治三十九年三月三十一日迄ニ之ヲ設備スヘシ但シ既設ノ塵芥箱ニシテ本署又ハ支署ノ認可ヲ得タルモノハ明治三十九年六月三十日迄之ヲ代用スルコトヲ得 (別記圖式略ス)

● 賣肉取締規則 (明治三十九年二月九日署令第五號)

- 賣肉取締規則左ノ通相定ム
- 賣肉取締規則

第一條 食用ニ供スル牛馬羊豚ノ肉ハ當該官吏ノ検査ヲ受ケ其ノ檢印アルモノニ非サレハ販賣スルコトヲ得ス

野獸ハ狩獵捕獲ノモノニ非サレハ販賣スルコトヲ得ス

第二條 獸肉ヲ販賣セントスル者ハ族籍、住所、氏名、賣肉區別(牛馬羊豚野獸)ヲ記シ本署又ハ支署ニ願出許可ヲ可クヘシ廢業、轉居、改氏名者ハ賣肉ノ種類ヲ變更シタルトキハ三日以内ニ本署又ハ支署ニ届出ヘシ

第三條 馬肉販賣業ト他ノ獸肉販賣業トハ兼業スルコトヲ得ス

第四條 獸肉販賣業者ハ店頭ニ左ノ看板ヲ掲クヘシ

曲尺三尺

牛(馬羊豚野獸)肉販賣營業	
住	所
氏	名

第五條 獸肉販賣業者ニ於テ獸肉配達人ヲ使用スルトキハ左ノ標札ヲ携帯セシムヘシ

表 寸二尺曲		裏	
獸肉配達人		牛(馬羊豚野獸)肉販賣業者	
氏	名	住	所
		氏	名

第六條 獸肉置場ハ洗滌シ易キ様下部ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ周圍ハペンキ塗ト爲シ空氣ノ流通シ易キ様四方ニ窓ヲ設ケ之ヲ金網張ト爲シ蚊蠅ノ侵入ヲ防クヘシ

第七條 獸肉ハ清潔ノ麻布若ハ綿布ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第八條 獸肉ノ運搬バ蓋付ノ容器ヲ用ヒ其ノ下部ニ血受ヲ備フヘシ

第九條 獸肉置場使用器具並運搬容器ハ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ

第十條 腐敗シタル獸肉又ハ諸獸ノ肉ヲ混合シ或ハ獸名ヲ詐稱シテ販賣スルコトヲ得ス

第十一條 當該官吏ハ臨時獸肉ヲ検査シ不良ト認ムルトキハ販賣ヲ禁止シ又廢棄セシムルコトヲ得

第十二條 本令ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

本條ノ處分ヲ受ケタルモノニシテ其ノ情狀重キモノハ營業許可ノ指令ヲ取消スコトアルヘシ

附 則

●屠獸取締規則(明治三十九年二月十一日署令第六號)

本令ハ明治三十九年二月二十日ヨリ施行ス



屠獸取締規則左ノ通相定ム

屠獸取締規則

- 第一條 食用ニ供スル牛馬羊豚ハ自家用ト販賣用トヲ問ハス官立公立ノ屠獸場若ハ本署又ハ支署ノ許可ヲ得タル私立ノ屠獸場以外ニ於テ屠殺スルコトヲ得ス
- 第二條 屠獸場ヲ新設セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ本署又ハ支署ニ願出許可ヲ受クヘシ其ノ變更改修若ハ増設セントスルトキ亦同シ
 - 一 屠獸場ノ位置坪數及圖面
 - 二 構造仕様書及圖面
 - 三 落成期日
 - 四 屠獸場所用器具ノ品目及員數
- 第三條 屠獸場ノ位置ハ道路鐵道飲料ニ供スル井戸、河川、公園、人家等ヨリ六十間以上ノ距離ヲ有スル場所タルヘシ
- 第四條 屠獸場ハ土地ノ狀況ニ依リ其ノ數ヲ制限スルコトアルヘシ
- 第五條 屠獸場ノ構造及其ノ備品ハ左ノ各號ニ從フヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ之ヲ斟酌スルコトアルヘシ
 - 一 屠獸場ノ周圍ニハ土手又ハ塙塹ヲ設ケ閉鎖シ得ヘキ門戸ヲ付スヘシ
 - 二 屠獸場内ニ繋留所、生體検査所、屠室、屠肉貯藏室、汚水溜、内容物溜、廢棄所及検査官室ヲ設ケ別ニ隔離所ヲ附設スヘシ

屠獸場ノ新設又ハ變更、改修、増設工事落成シタルトキハ本署又ハ支署ニ届出検査ヲ受クヘシ

- 三 繋留所ノ地盤及溝ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ一頭毎ニ區別ヲ設ケ之ニ番號ヲ付スヘシ
- 四 生體検査所ノ地盤及之ニ附屬スル糞尿溜並溝ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ獸畜保定戒具、體尺及生體秤量器ヲ備フヘシ
- 五 屠室ハ生體、屠肉、内臟ノ出入口ヲ各別ニ設ケ地盤ヲ石ニテ築造シ勾配ヲ付シ固定ノ裝置ヲ爲シ血液等ヲ排除スヘキ溝ヲ設ケ周圍ニハ金屬又ハ石板ヲ以テ四尺以上ノ腰張ヲ爲シ水溜、内臟検査壺、屠肉懸昇器、屠肉秤量器、洗具、洗料及屠肉拭布ヲ備フヘシ
- 六 屠肉貯藏室ハ地盤ヲ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ周圍ハ漆喰又ハベンキ塗ト爲シ空氣ノ流通シ易キ様四方ニ窓ヲ設ケ之ヲ金網張ト爲スヘシ
- 七 汚水溜ハ屠室外二間以上ノ距離ヲ有スル地ニ設ケ屠室ヨリ通スル溝ト共ニ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ雨水ノ流入ヲ防クヘキ蓋ヲ設クヘシ
- 八 内容物溜ハ屠室外二間以上ノ距離ヲ有スル地ニ設ケ屠室ヘノ通路ハ幅三尺以上トシ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造スヘシ
- 九 廢棄所ハ屠獸場ノ邊隅ニ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ適當ノ蓋ヲ設クヘシ
- 十 検査官室ハ場内適當ノ位置ニ設ケ検査臺、消毒藥品其ノ他検査上必要ナル器具ヲ備フヘシ
- 十一 隔離所ノ周圍ニハ土手又ハ塙塹ヲ設ケ地盤及之ニ附屬スル糞尿溜並溝ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ周圍ハベンキ塗ト爲シ四方ニ窓ヲ設ケ飼料器具、消毒器械及消毒藥品等ヲ備フヘシ



- 一 シ検査済ノ認證ヲ受クルニ非サレハ使用スルコトヲ得ス
- 第七條 正當ノ事由ナクシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ許可ノ指令ヲ取消スコトアルヘシ
 - 一 許可ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ工事ニ著手セサルトキ
 - 二 期日ヲ經過シ落成セサルトキ
 - 三 休業三箇月以上ニ及ヒタルトキ
- 第八條 屠獸場頽破或ハ土地ノ狀況變遷ニ依リ危險若ハ衛生上有害ト認ムルトキハ改修又ハ廢場ヲ命スルコトアルヘシ
- 本署又ハ支署ニ於テ必要ト認ムルトキハ移轉ヲ命スルコトアルヘシ
- 第九條 休業若ハ廢業セントスルトキハ其ノ前日迄ニ又住所氏名ヲ變更シタルトキハ三日以内ニ本署又ハ支署ニ届出ヘシ
- 第十條 屠獸場ヲ賣買讓與又ハ貸借セントスルトキハ双方連署シ本署又ハ支署ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第十一條 屠獸場ノ管理者ハ屠畜ノ種別ニ依リ屠獸場使用料屠殺料隔離所使用料ヲ定メ本署又ハ支署ニ願出許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ
- 第十二條 正當ノ事由ナクシテ屠獸場ノ使用、屠殺若ハ隔離所ノ使用ヲ拒絶スルコトヲ得ス
- 第十三條 屠獸場ハ毎日掃除シ屠室及溝ハ屠殺ヲ終ル毎ニ之ヲ洗滌スヘシ
- 第十四條 臟、皮、骨、血液、汚水ノ類ハ毎日之ヲ取除キ停滯セシムヘカラス
- 第十五條 屠殺スヘキ獸畜ハ當該官吏ノ検査ヲ受クヘシ其ノ検査ヲ受ケサルモノハ屠室ニ牽入ルコトヲ得ス

- トヲ得ス
- 第十六條 疾病ノ疑アル獸畜ハ屠獸場内ニ牽入ルコトヲ得ス
- 第十七條 屠獸場内ニ於テ傳染病ニ罹リタル獸畜ヲ發見シタルトキハ屠獸場ノ管理者ハ當該官吏ノ指揮ヲ受ケ消毒ヲ行フヘシ
- 第十八條 獸畜ハ繫留所ニ置キ受檢準備ヲ爲シ當該官吏ノ指揮ニ從ヒ順次生體検査所ニ牽入ルヘシ
- 第十九條 屠殺ノ許可ヲ得タルモノハ順次屠室ニ牽入ルヘシ其ノ不良ニシテ許可ヲ得サルモノハ角蹄又ハ臀部ニ禁止又ハ停止ノ烙印ヲ受ケ直ニ場外ニ牽出スヘシ
- 第二十條 前條ノ屠殺禁止又ハ停止ニ係ル病獸ノ處置ハ左ノ各號ニ從フヘシ
 - 一 病獸ノ角蹄又ハ臀部ノ烙印ハ其ノ病獸健康ニ復シ當該官吏ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ消除スルコトヲ得ス
 - 二 病獸ヲ讓渡シ若ハ其ノ飼養地ヲ轉セントスルトキハ前日中ニ本署又ハ支署ニ届出ヘシ
- 第二十一條 屠殺ヲ終リタルトキハ内臟及肉ノ検査ヲ受クヘシ其ノ不良ト認ムルモノハ廢棄若ハ燒却ヲ命シ又ハ用途ヲ限リ使用ヲ許可スルコトアルヘシ
- 第二十二條 屠殺時間内ハ屠獸場ノ門戸ヲ閉鎖シ當該官吏ノ許可ヲ得タルモノノ外猥ニ屠獸場ニ出入セシムヘカラス
- 第二十三條 屠獸場内ニハ現ニ屠殺セントスルモノノ外猥ニ獸畜ヲ牽入ルヘカラス
- 第二十四條 屠殺ヲ爲サントスルモノハ前日中ニ獸畜ノ産地、種別、牝牡、毛色、年齢、頭數ヲ本署又ハ支署ニ届出ヘシ

- 第二十五條 屠肉運搬容器ハ左ノ各號ニ依リ構造シ本署又ハ支署ノ檢印ヲ受クヘシ但シ自家用ノ屠肉運搬容器ハ此ノ限ニアラス
- 一 屠肉運搬容器ハ木製ノ箱車トシ内部ヲ金屬板ニテ張り其ノ下部ニ血受ヲ備ヘ蚊蠅及塵芥ノ附著セサル様蓋ヲ設クヘシ
- 二 内臓、頭、骨、皮類ノ運搬器ハ木製ノ箱車トシ濻出物ノ漏洩ヲ防キ人目ニ觸レサル様蓋ヲ設クヘシ
- 第二十六條 運搬容器ハ使用後直ニ熱湯ヲ以テ清潔ニ洗滌スヘシ當該官吏ニ於テ不潔ト認ムルトキハ一時其ノ使用ヲ禁スルコトアルヘシ
- 第二十七條 屠殺時間ハ本署又ハ支署ノ指定スル所ニ依ルヘシ
- 第二十八條 大祀、禮節、國祭ノ日ハ屠殺ヲ行フコトヲ得ス
- 第二十九條 屠夫ハ本署又ハ支署ニ顯出鑑札ヲ受クヘシ
- 第三十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ屠夫タルコトヲ得ス
- 一 傳染性皮膚病又ハ結核病者
- 二 獸畜ノ屠殺法ヲ熟知セサル者
- 三 斃獸ヲ取扱フ者
- 第三十一條 屠夫ニシテ鑑札而ニ異動ヲ生シ又ハ鑑札ヲ毀損紛失シタルトキハ五日以内ニ書換若ハ再下付ヲ請フヘシ廢業シタルトキハ五日以内ニ鑑札ヲ返納スヘシ
- 第三十二條 屠夫ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

- 一 就業中ハ鑑札ヲ携帶スヘシ
- 二 正當ノ理由ナクシテ屠獸ノ求ヲ拒ムコトヲ得ス
- 三 屠獸ノ方法ハ當該官吏ノ指示ニ從フヘシ
- 四 屠獸場内ニテ於テハ一定ノ屠服ヲ着用シ毎週二回以上洗濯スヘシ但シ屠服ハ屠獸場以外ニ於テ着用スルコトヲ得ス
- 五 屠獸ニ從事スルトキハ長靴ヲ穿ツヘシ
- 六 衣服及用器ハ毎日屠殺著手前當該官吏ノ點檢ヲ受クヘシ
- 第三十三條 此ノ規則ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 本條ノ處分ヲ受ケタル者ニシテ其ノ情狀重キモノハ營業許可ノ指令ヲ取消シ又ハ鑑札ヲ返納セシムルコトアルヘシ
- 附 則
- 第三十四條 本令ハ明治三十九年二月二十日ヨリ施行ス
- 第三十五條 本令施行以前ニ於テ設置セル屠獸場ニシテ第五條ノ規則ニ適合セサルモノハ本署又ハ支署ニ届出明治三十九年九月三十日迄ニ其ノ設備ヲ爲スヘシ
- 關東洲鹽田規則(明治三十九年三月三十一日署令第八號)
- 關東洲鹽田規則左ノ通相定ム
- 關東洲鹽田規則

- 第一條 鹽田ヲ開設セムトスル者ハ民政長官ニ願出土地ノ貸付ヲ受クヘシ
- 第二條 前條ノ許可ヲ受ケタル者ニハ土地ヲ無償ニテ貸付シ鹽田成功ノ後其ノ使用ヲ許可ス
- 第三條 鹽田ノ使用料ハ之ヲ徵收セス
- 第四條 鹽田開設ノ爲貸付スル土地ノ面積ハ一人ニ對シ百町歩以內トス但シ既ニ貸付シタル土地ヲ成功シタル者又ハ相當ノ資力アリテ成功シ得ヘシト認ムル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 鹽田開設ノ成功期間ヲ定ムルコト左ノ如シ
 - 十町歩未滿 二年以內
 - 二十町歩未滿 三年以內
 - 五十町歩未滿 四年以內
 - 百町歩未滿 五年以內
 - 百町歩以上 七年以內
- 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ依リ法定期間内ニ成功スルコト能ハサルトキハ其ノ半期間之ヲ延期スルコトヲ得
- 第六條 第二條ニ依リ貸付シタル土地ニシテ豫定ノ如ク成功セサルトキハ其ノ未成功地ノ全部ヲ返還セシムヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ土地整理上支障アリト認ムルトキハ其ノ成功地ノ一部若ハ全部ヲ無償ニテ返還セシムルコトアルヘシ
- 第七條 前條ニ依リ貸付地ヲ返還セシメ若ハ自己ノ便宜ニヨリ貸付地ヲ返還シタル場合ニ於テ其ノ

- 土地ニ存在スル建設物其ノ他ノ物件アルトキハ指定ノ期間内ニ之ヲ撤去スヘシ若其ノ期間内ニ撤去セサルトキハ其ノ物件ハ官ノ所有ニ歸ス
 - 第八條 鹽田開設ノ許可ヲ受ケタル後天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ依ルニ非スシテ一箇年以內ニ事業ニ著手セサルトキ又ハ其ノ意思ナシト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消シ貸付ノ土地ヲ返還セシム
 - 第九條 二箇年以上引繼キ製鹽業ヲ廢止シタルトキ若ハ鹽ニ關スル法規ニ違背シタルトキハ鹽田使用ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
 - 第十條 鹽田ノ使用ハ民政長官ノ許可ヲ得テ之ヲ相續、讓渡スルコトヲ得
 - 第十一條 鹽田ヲ變更シ之ヲ製鹽以外ノ目的ニ使用セムトスルトキハ民政長官ノ許可ヲ受クヘシ
 - 第十二條 許可ヲ受ケスシテ鹽田ヲ開設シタルトキハ百町以下ノ罰金ニ處シ且其ノ土地ニ存在スル總テノ物件ヲ沒收ス
- 附 則
- 第十三條 此ノ規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 - 第十四條 既設鹽田ノ使用者ハ此ノ規則施行ノ日ニ於テ其ノ使用ヲ許可セラレタルモノト看做ス
- 既設鹽田ノ使用者ハ此ノ規則施行ノ日ヨリ一箇年以內ニ別ニ定ムル所ニ依リ民政長官ニ届出ヘシ前項ノ届出ヲ爲ササル者ハ其ノ鹽田ノ使用ヲ拋棄シタルモノト看做ス

● 關東洲鹽田規則施行細行 (明治三十九年三月二日 署令第九號)

關東洲鹽田規則施行細則左ノ通相定ム

關東洲鹽田規則施行細則

- 第一條 鹽田規則第一條ニ依リ土地ノ貸付ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ノ願書ニ設計書、圖面、戶籍謄本、財産調査及事業經歷書ヲ添ヘ民政長官ニ提出スヘシ
- 第二條 鹽田開設地ノ貸付ヲ受ケタル者事業ニ著手シタルトキハ第二號書式ニ依リ十日以内ニ民政長官ニ届出ヘシ
- 第三條 鹽田開設ノ成功期間數年ニ亘ルモノハ前年中ノ事業功程ヲ毎年一月三十一日限リ民政長官ニ提出スヘシ
- 第四條 鹽田開設地ノ貸付ヲ受ケタル者ニシテ死亡又ハ失踪シタルトキハ其ノ相續者ヨリ戶籍謄本ヲ添ヘ民政長官ニ届出ヘシ
- 第五條 貸付中ノ土地ヲ返還セムトスルトキハ第三號書式ノ願書ニ圖面ヲ添ヘ民政長官ニ提出スヘシ著手以前ニ於テ全部ヲ返還ヲ爲サムトスルトキハ同書式ニ依リ其ノ旨届出ヘシ
- 第六條 鹽田開設地ノ貸付ヲ受ケタル後豫定ノ設計方法ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ民政長官ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第七條 鹽田開設成功ノ後其ノ使用ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ第四號書式ノ願書ニ實測圖正副二通ヲ添ヘ民政長官ニ届出スヘシ
- 第八條 鹽田ノ使用ヲ許可スルトキハ許可書ニ前項實測圖ノ副本ヲ添ヘ之ヲ下付ス
- 第八條 鹽田開設地ノ貸付ヲ受ケタル者ハ其ノ土地ノ境界ニ標木ヲ建設スヘシ

鹽田規則第六條ニ依ル點檢ノ際ハ其ノ開設區域ニ標木ヲ建設スヘシ

前二項ノ標木ハ其ノ土地使用許可ノ處分ヲ了ルマテ之ヲ存置スヘシ

第九條 鹽田調査ニ關シ當事者及其ノ他ノ關係者ノ立會ヲ必要ト認メ當該官吏ヨリ通知ヲ爲シタルトキハ之ニ立會フヘシ

前項ノ場合ニ於テ立會ヲ爲ササル爲生シタル損害ハ官ニ於テ其ノ責ニ任セス

第十條 鹽田規則第五條ノ開設期間ハ貸付ノ翌月ヨリ起算ス

第十一條 左ノ場合ニ於テハ其ノ出願ヲ無効トス

一 鹽田開設出願者ニシテ第九條第一項ニ違背シタルトキ

二 出願者又ハ其ノ代理者ノ所在不明ニシテ發送ノ日ヨリ六十日ヲ經過スルモ尙指令若ハ令達等ヲ下付スルコト能サルトキ

三 願書ノ訂正ヲ命シタル後六十日ヲ經過スルモ訂正願書ヲ差出ササルトキ

第十二條 鹽田開設地ノ貸付ヲ受ケタル者ニシテ關東洲内ニ居住セサルトキハ洲内居住者中ヨリ代理者ヲ定メ民政長官ニ届出ヘシ

第十三條 鹽田ニハ別記雛形ノ標木ヲ建設スヘシ

第十四條 鹽田ノ使用ヲ相續讓渡スルトキハ相續者又ハ當事者雙方ハ其ノ事由ヲ證スヘキ願書ニ許可書ヲ添ヘ三十日以内ニ許可書ノ書換ヲ申請スヘシ

許可書ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ再下付ヲ申請スヘシ

附 則

第十五條 此ノ規則ハ鹽田規則施行ノ日ヨリ之ヲ施ス
 第十六條 鹽田規則第十四條第二項ノ届出ハ第七條ニ準據シテ之ヲ爲スヘシ
 (書式並雜形略ス)

●關東洲水産組合規則(明治三十九年三月二日
 十七日署令第十號)

關東洲水産組合規則左ノ通相定ム

關東洲水産組合規則

- 第一條 水産動物ノ採捕、養殖、製造及販賣ヲ業トスル者ハ此ノ規則ニ依リ水産組合ヲ設置スヘシ
- 第二條 組合ハ水産業ノ改良發達及水産動物ノ蕃殖保護ニ任シ且其ノ營業上ノ弊害ヲ矯正シ利益ヲ増進スルヲ以テ目的ト爲スヘシ
- 第三條 組合ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス
- 第四條 組合ノ區域ハ關東洲ノ區域ニ依ルヘシ
- 第五條 組合ハ關東洲水産組合ト稱スヘシ此ノ規則ニ依リ設置シタル者ニ非サレハ水産組合ナル名稱ヲ附スルコトヲ得ス
- 第六條 組合ノ區域内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ總テ組合ニ加入スヘシ
- 第七條 組合ヲ設置セムトスルトキハ組合會議ノ決議ヲ以テ定款ヲ定メ民政長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 第八條 定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 組合ノ名稱及事務所ノ位置
- 二 組合員ノ加入及脱退ニ關スル事項
- 三 組合員ノ權利義務ニ關スル事項
- 四 役員ノ職務權限、選任及任期ニ關スル事項
- 五 會議ニ關スル事項
- 六 處務及會計ニ關スル事項
- 七 組合費ノ分賦收入ニ關スル事項
- 八 業務ニ關スル事項
- 九 財産ニ關スル事項
- 十 違約者處分ニ關スル事項
- 十一 定款ノ變更ニ關スル事項
- 第九條 組合ニハ組長一名其ノ他必要ノ役員ヲ置クヘシ
 役員ヲ選任シタルトキハ民政長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十條 組合經費ノ豫算ハ組合會議ノ決議ヲ經テ民政長官ノ認可ヲ受クヘシ
 第十一條 組合會議ニ於テ決議シタル事項ハ其ノ都度民政長官ニ報告スヘシ但シ認可ヲ受クヘキ事項ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十二條 組合ノ事業成績及經費決算ハ毎年度後三箇月以内ニ民政長官ニ報告スヘシ
- 第十三條 民政長官ハ所屬官吏ヲシテ組合ノ業務及會計ヲ監査セシムルコトアルヘシ

第十四條 第六條ニ違背シタルモノハ之ヲ拘留又ハ科料ニ處ス

附 則

第十五條 此ノ規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 此ノ規則施行以前ニ設置シタル關東洲水産組合ハ此ノ規則施行ノ日ニ於テ此ノ規則ニ依リ設置シタルモノト見做ス

●關東洲漁業取締規則(明治三十九年三月二日 十七日 署令第十一號)

關東洲漁業取締規則左ノ通相定ム

關東洲漁業取締規則

- 第一條 左ニ掲クル漁業ヲ爲サムトスル者ハ民政長官ニ願出許可ヲ受クヘシ
 - 一 一定ノ水面ニ漁具ヲ敷設シテ爲ス漁業
 - 二 一定ノ水面ヲ區劃シテ爲ス漁業
 - 三 一定ノ曳揚場及網場ヲ有スル網漁業
 - 四 隨所ニ運用スル網漁業
 - 五 船ヲ使用スル釣漁業
 - 六 叉鈎漁業
 - 七 潜水漁業
- 第二條 前條ノ漁業ヲ許可シタルトキハ漁業鑑札ヲ下付ス

第三條 第一條ノ漁業ニシテ水産動物ノ蕃殖保護其ノ他公益ニ害アリト認ムルトキ又ハ既ニ許可ヲ受ケタル漁業ニ支障アリト認ムルトキハ之ヲ許可セズ

前項ノ場合ニ於テ既ニ許可シタルモノニ在リテハ之ヲ制限停止シ若ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第四條 漁業鑑札ハ出漁ノ際之ヲ携帯スヘシ

第五條 漁業鑑札ハ之ヲ讓渡又ハ貸付スルコトヲ得ス

第六條 漁業鑑札ヲ亡失毀損シ若ハ鑑札記載ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ再下付又ハ書換ヲ申請スヘシ

第七條 漁業ヲ廢止シタルトキ又ハ鑑札無効ニ歸シタルトキハ二十日以内ニ其ノ鑑札ヲ返納スヘシ

漁業者死亡シタルトキハ其ノ相續者又ハ家族ハ死亡ノ日ヨリ三十日以内ニ其ノ鑑札ヲ返納スヘシ

第八條 二箇年間引續キ漁業ヲ休止シタルトキハ廢業シタルモノト看做ス

第九條 漁業者ハ他人ノ漁業カ直接自己ノ漁業ヲ妨害スルニ非サレハ其ノ漁業ヲ拒ムコトヲ得ス

第十條 第一條第一號乃至第三號ノ漁業者ハ漁場標識ヲ建設スヘシ

前項ノ標識ヲ建設セル漁業區域内ニ於テ魚類ノ通路ヲ遮斷シ若ハ之ヲ散逸セシムヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 此ノ規則ニヨリ民政長官ニ提出スル書類ハ總テ關東洲水産組合ヲ經由スヘシ

第十二條 第一條ニ違背シタル者ハ之ヲ五十圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ漁具及漁獲物ヲ沒收ス

第十四條第五條第九條又ハ第十條第二項ニ違背シ若ハ漁場標識ヲ移轉シ若ハ破壞シタル者ハ之ヲ拘留又ハ科料ニ處ス

附 則

第十三條 此ノ規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第十四條 既ニ漁業ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ規則施行ノ日ニ於テ此ノ規則ニ依リ其ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ此ノ規則施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ漁業鑑札ノ下付ヲ申請スヘシ
 前項ノ但書ニ依リ鑑札ノ下付ヲ受ケル迄ハ仍鑑札ヲ携帯セスシテ漁業ヲ爲スコトヲ得
 第一項但書ノ申請ヲ爲ササルトキハ廢業シタルモノト看做ス

●魚市場規則(明治三十九年三月三十一日 署令第十二號)

魚市場規則左ノ通相定ム

魚市場規則

第一條 此ノ規則ニ於テ魚市場ト稱スルハ一定ノ場所ニ於テ競賣ノ方法ニ依リ水産物ノ委託販賣ヲ爲スモノヲ謂フ
 第二條 魚市場ヲ設立セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ民政長官ニ願出許可ヲ受クヘシ
 一 設立者ノ事業經歷書、戶籍謄本、資産證明書
 二 設立ヲ要スル事由
 三 設立地區内ニ於ケル水産物集散ノ沿革及現況
 四 一箇年ノ取扱見込額
 五 設立ノ位置及概況圖

六 設計書
 七 出資額及資本金使用ノ豫算
 八 組合組織ニ係ルモノハ其ノ定款
 九 販賣取扱ニ關スル事項
 十 手数料ノ定率
 十一 營業ノ期間
 十二 市場管理者ノ氏名
 魚市場設立ノ許可ヲ受ケタル後前項第五號乃至第十二號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ本條ニ依リ民政長官ノ許可ヲ受クヘシ
 第三條 魚市場設立ノ許可ヲ受ケタル者ハ營業保證金トシテ指定ノ金額ヲ關東洲民政署ニ供託スヘシ
 第四條 魚市場建設物ノ構造ハ官ノ指示ニ遵フヘシ
 第五條 魚市場ハ毎月五日限其ノ前月ニ於テ取引シタル水産物ノ種類、數量、及其ノ取引金額、手数料並時價ノ變動、貨物集散ノ狀況ヲ調査シ民政長官ニ報告スヘシ
 第六條 魚市場ハ毎年一月三十一日限其ノ前年度ノ收支計算及事業ノ顛末ヲ民政長官ニ報告スヘシ
 第七條 民政長官ハ所屬官吏ヲシテ魚市場ノ業務及會計ヲ監査セシムルコトアルヘシ
 第八條 魚市場ハ水産物販賣ノ委託ヲ拒ムコトヲ得ス但シ正當ノ理由アルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第九條 魚市場設立ノ地區内ニ於テ生鮮又ハ鹽藏セル水産動植物ヲ賣買セムトスル者ハ其ノ魚市場ニ於テ取引ヲ爲スコトヲ要ス

第十條 魚市場ヲ廢止シタルトキハ其ノ事由及清算ヲ明記シ民政長官ニ届出ツヘシ
 第十一條 第二條及第九條ニ違背シタル者ハ之ヲ五十圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ賣買ノ用ニ供シタル
 水産物ヲ沒收ス

附言

此ノ規則ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●關東洲小學校規則(明治三十九年三月二
十九日署令第十三號)

關東洲小學校規則左ノ通相定ム

第一章 總則

第一條 小學校ハ内地人ノ兒童ヲ教育スル所トス
 小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並其ノ生活ニ必須ナル普通ノ知識
 技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス
 第二條 小學校ハ之ヲ分テ尋常小學校及高等小學校トシ其ノ兩教科ヲ一校ニ併置スルモノヲ尋常高
 等小學校トス

第二章 教科及編制

第一節 教科

第三條 尋常小學校及高等小學ノ修業年限ハ各四箇年トス

第四條 尋常小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、體操トス
 必要ニ應シ圖書、唱歌、手工ノ一科目又ハ數科目ヲ加ヘ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルコトヲ得

前項ニ依リ加フル教科目ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得
 第五條 高等小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、日本歴史、地理、理科、圖書、唱歌、體操トシ女兒ノ爲
 ニハ裁縫ヲ加フ

必要ニ應シ手工、農業、商業、英語ノ一科目若ハ數科目ヲ加フルコトヲ得但シ數科目ヲ加フル場合
 ニ於テハ其ノ一科目ヲ學習セシム

前項ニ依リ加フル教科目ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得
 第六條 小學校ノ教科目中兒童身體ノ狀況ニ依リ學習スルコト能ハサル教科目ハ之ヲ其ノ兒童ニ課
 セサルコトヲ得

第七條 小學校ニ補習科ヲ置クコトヲ得
 補習科ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 小學校ノ教科目ヲ加除シ若ハ隨意科目ト爲シ又第四條第二項及第五條第二項ノ教科目ヲ定
 メントスルトキハ小學校長ニ於テ民政長官ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 小學校ノ教科用圖書ハ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノ及文部大臣ノ檢定シタルモノニ就
 キ民政長官之ヲ採定シ但シ修身、日本歴史、地理ノ教科用圖書及國語讀本ニ限り文部省ニ於テ著作
 權ヲ有スルモノ中ニ就キ之ヲ採定ス

第二節 教則

第十條 小學校ノ教則ハ本則第十一條乃至第十七條ニ規定スル事項ヲ除キテハ明治三十三年八月文部省令第十四號第一條乃至第十八條ノ規定ヲ準用ス

第十一條 學校長ハ冬期休業ノ前後各三十日以内ニ於テ毎日ノ教授時數ヲ減スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ教授時數ヲ減スルトキハ學校長ニ於テ各教科目ノ每週教授時數ヲ斟酌スヘシ

第十二條 尋常小學校若ハ高等小學校ニ於テ數學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制スルトキハ各學年ノ程度ニ拘ラス全部又ハ一部ノ兒童ヲ同一ノ程度ニ依リ教授スルコトヲ得

第十三條 學校長ハ一學年間ニ於テ教授スヘキ各教科目ノ教授細目ヲ定ムヘシ

第十四條 教員ハ每週教授スヘキ各教科目ノ教授案及每週教授シタル教授週録ヲ調製シ學校長ノ檢閱ヲ受クヘシ

前項ノ教授週録ハ教授案ニ附設スルコトヲ得

第十五條 各學年ノ課程ノ修了若ハ全教科ノ卒業ヲ認ムルニハ別ニ試験ヲ用ヰルコトナク兒童平素ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ムヘシ

第十六條 學校長ハ試験成績表ヲ調製シ四月五日限り民政長官ニ報告スヘシ

第十七條 學校長ハ修業年限ノ終ニ於テ尋常小學校若ハ高等小學校ノ教科ヲ終了セリト認メタル者ニハ第一號書式ノ卒業證書ヲ授與スヘシ

第十八條 學校長ハ學年末ニ於テ各學年ノ課程ヲ終了セリト認メタル者ニハ第二號書式ノ修業證書ヲ授與スルコトヲ得

第十二條ノ規定ニ依リ一學年間學習セシ者ニハ第三號書式ノ學習證書ヲ授與スルコトヲ得

第三節 學年休業日及式日

第十九條 小學校ノ學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第二十條 小學校ノ學期ハ之ヲ分テ左ノ三學期トス

第一學期 學年ノ始ヨリ夏期休業ノ前日ニ至ル

第二學期 夏期休業後ノ始業日ヨリ冬期休業ノ前日ニ至ル

第三學期 冬期休業後ノ始業日ヨリ學年末休業ノ前日ニ至ル

第二十一條 小學校ノ休業日ハ左ノ如シ

一 天皇陛下

二 皇后陛下御影拜戴紀念日

三 教育ニ關スル勅語下賜紀念日

四 祝日、大祭日

五 陸海軍紀念日

六 日曜日

六 夏期休業日 八月一日ヨリ同月三十一日ニ至ル

七 冬期休業日 十二月二十一日ヨリ翌年一月三十一日ニ至ル

八 學年末休業日 三月二十六日ヨリ同月三十一日ニ至ル

特別ノ事情アルトキハ學校長ニ於テ其ノ事由ヲ具シ民政長官ノ認下ヲ受ケ前項第六號及第七號ノ期日ノ終始ヲ變更シ若ハ其ノ日數以内ニ於テ交互變換シ又同上第七號ノ休業ヲ爲サスシテ毎朝數時間ノ教授ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ外臨時休業ヲ要スルトキハ學校長ニ於テ其ノ事由ヲ具シ民政長官ノ認可ヲ受クヘシ
天災時變其ノ他急迫ノ場合ニ際シ前項ノ認可ヲ受クル暇ナキトキハ學校長限リ施行ノ後直ニ民政
長官ニ届出ヘシ

第二十二條 紀元節、天長節、一月一日及陸海軍紀念日ニハ明治三十三年八月文部省令第十四號第二
十八條ノ規定ニ準シ職員及生徒ハ學校ニ參集シテ儀式ヲ行フヘシ御影ヲ拜戴セサル小學校ニ在リ
テハ前項第二十八條第二號ノ式ヲ關シ

第四節 編制

第二十三條 一學級ノ兒童數ハ尋常小學校ニ在リテハ七十人以下高等小學校ニ在リテハ六十人以下
トス

特別ノ事情アルトキハ前項ノ制限ヲ超過シテ各十人迄ヲ増スコトヲ得

第二十四條 尋常小學校ニ在リテハ同一學年ノ女兒ノ數一學級ヲ編制スルニ足ルトキハ男女ニ依リ
該學年ノ學級ヲ分ツヘシ第一學年及第二學年ニ在リテハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

高等小學校ニ在リテハ全校女兒ノ數一學級ヲ編制スルニ足ルトキハ男女ニ依リ學級ヲ分ツヘシ

第二十五條 修身、體操、唱歌、裁縫、手工、農業、商業又ハ英語ハ數學級ノ全部若ハ一部ノ兒童ヲ合セ
テ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得但シ裁縫、手工、農業、商業、英語ハ兒童ノ數七十人ヲ超エサル場合
ニ限ル

第二十六條 一學級毎ニ本科正教員一人ヲ置ク但シ本科正教員ノ半數以內ハ准教員ヲ以テ代用スル
コトアルヘシ

五學級以上ノ學校ニ在リテハ學校長ノ擔任スル教授ヲ補助セシムル爲前項ノ外本科正教員一人四
學級以下ノ學校ニ在リテハ准教員一人ヲ置クコトアルヘシ

前項ニ依リ置クヘキ准教員ヲ得難キトキハ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ代用スルコトアルヘシ

第二十七條 小學校ニ於テハ適宜專科正教員ヲ置クコトアルヘシ

第二十八條 教室狹隘其ノ他特別ノ事情アルカ爲本節ノ規定ニ依リ難キトキハ學校長ニ於テ其ノ事
由ヲ具シ民政長官ノ指揮ヲ受クヘシ

第三章 就學

第二十九條 兒童滿六歳ニ達シタル翌日ヨリ滿十四歳ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

第三十條 學年開始ノ前日迄ニ學齡ニ達セサル兒童ハ其ノ學年中ハ之ヲ入學セシムルコトヲ得ス

第三十一條 學校長ハ甲號表ノ様式ニ依リ學年ノ始ニ於テ學籍簿ヲ調製シ入學シタル兒童ニ就キ各
要項ヲ記入スヘシ

學籍簿ハ入學ノ兒童ニ異動ヲ生シタル都度遲滞ナク之ヲ加除訂正スヘシ

第三十二條 學校長ニ於テ入學若ハ退學ヲ許可シタルトキハ入學者ニ關シテハ其ノ兒童ノ氏名生年
月日及學年ヲ退學者ニ關シテハ氏名學年及其ノ事由ヲ翌月五日迄ニ民政長官ニ報告スヘシ

第三十三條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル兒童アルトキハ民政長官ノ認可ヲ受ケ之ニ退學ヲ命
スルコトヲ得

- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

- 三 引續キ四箇月以上闊席シ再ヒ出席スヘキ見込ナキ者
- 四 正當ノ事由ナクシテ一箇月以上闊席シタル者
- 第三十四條 學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ虞アル兒童又ハ性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨害アリト認メタル兒童ノ出席ヲ停止スルコトヲ得
- 學校長ハ前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ直ニ民政長官ニ報告スヘシ
- 第三十五條 學校長ハ乙號表ノ様式ニ依リ兒童出席簿ヲ調製シ其ノ出席闊席ヲ明ニスヘシ
- 第三十六條 學校長ハ丙號表ノ様式ニ依リ毎月末兒童出席闊席表ヲ調製シ翌月五日迄ニ民政長官ニ報告スヘシ

第四章 附則

此ノ規則ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
(書式及様式畧ス)

●關東洲公學堂規則(明治三十九年三月三十一日署令第十四號)

關東洲公學堂規則左ノ通相定ム

關東洲公學堂規則

- 第一條 公學堂ハ支那人ノ子弟ニ日本語ヲ教ヘ德育ヲ施シ並其ノ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス
- 第二條 公學堂ノ修業年限ハ六箇年トシ其ノ教科目ハ修身、日本語、漢文、算術、體操トシ女生徒ノ爲

ニ裁縫ヲ加フ

土地ノ狀況ニ依リ唱歌、手工、農業ノ一科目又ハ數科目ヲ加ヘ又裁縫ヲ闕クコトヲ得

前項ニ依リ加フル教科目ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

教科目ヲ加除シ若ハ之ヲ隨意科目ト爲サントスルトキハ學堂長ニ於テ民政長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 必要ニ應ジ公學堂ニ補習科又ハ速成科ヲ置クコトヲ得

補習科又ハ速成科ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四條 公學堂ノ教科用圖書ハ民政長官之ヲ定ム

第五條 公學堂ノ教科目中生徒身體ノ狀況ニ依リ學習スルコト能ハサルモノアルトキハ之ヲ其ノ生徒ニ課セサルコトヲ得

第六條 各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數ハ別表ニ依ルヘシ

唱歌、裁縫、手工、農業ノ一科目又ハ數科目ヲ加フルトキハ修身科ヲ除キ他ノ數科目ノ每週教授時數ヨリ各二時以内ヲ割キテ其ノ教授時數ニ充ツヘシ

第七條 土地ノ狀況ニ依リ特ニ必要ト認ムル場合ニ限リ第二條ノ修業年限及教科目ヲ増減變更スルコトヲ得

前項ニ依リ修業年限ヲ變更シ若ハ教科目ヲ増減セントスルトキハ學堂長ニ於テ左ノ事項ヲ具シ民政長官ノ認可ヲ受クヘシ

一 修業年限ノ變更又ハ教科目増減ノ事由

二 各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數

三 第二條ノ教科目以外ニ加フヘキ教科目及其ノ教科用圖書

第八條 學堂長ハ冬期休業ノ前後各三十日以内ニ於テ毎日ノ教授時數ヲ減スルコトヲ得

前項ニ依リ教授時數ヲ減スルトキハ學堂長ニ於テ各教科目ノ每週教授時數ヲ斟酌スヘシ

第九條 學堂長ハ一學年間に於テ教授スヘキ各教科目ノ教授細目ヲ定ムヘシ

第十條 教員ハ每週教授スヘキ各教科目ノ教授案及每週教授シタル教授週録ヲ調製シ學堂長ノ檢閲ヲ受クヘシ

前項ノ教授週録ハ教授案ニ附設スルコトヲ得

第十一條 學堂長ハ各學年ノ課程ノ修了若ハ全教科ノ卒業ヲ認ムル爲ニ試験ヲ行フ試験ハ別ニ時期ヲ定メス平素ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ

第十二條 試験ノ成績ハ點數ヲ以テ之ヲ評定シ一教科目ノ定點ヲ十點トス

各學期間ニ於ケル試験ノ得點ヲ平均シタルモノヲ一學年期間ノ學業成績點トス

各教科目ノ學業成績點四點以上ニシテ總平均點六點ニ達スルモノヲ及第トス

第十三條 學堂長ハ試験成績表ヲ調製シ四月五日限り民政長官ニ報告スヘシ

第十四條 學堂長ハ修業年限ノ終ニ於テ全教科ヲ修了セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

學年末ニ於テ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書ヲ授與スルコトヲ得

第十五條 公學堂ノ學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十六條 公學堂ノ學期ハ之ヲ分テ左ノ三學期トス

第一學期 學年ノ始ヨリ夏期休業ノ前日ニ至ル

第二學期 夏期休業後ノ始業日ヨリ冬期休業ノ前日ニ至ル

第三學期 冬期休業後ノ始業日ヨリ學年末休業日ノ前日ニ至ル

第十七條 公學堂ノ休業日ハ左ノ如シ

一 教育ニ關スル勅語下賜紀念日

二 祝日、大祭日

三 陸海軍紀念日

四 日曜日

五 夏期休業日 八月一日ヨリ同月二十日ニ至ル

六 冬期休業日 十二月二十八日ヨリ翌年一月三十一日ニ至ル

七 學年末休業日 三月二十六日ヨリ同月三十一日ニ至ル

特別ノ事情アルトキハ學堂長ニ於テ其ノ事由ヲ具シ民政長官ノ認可ヲ受ケ前項第五號及第六號ノ期日ノ終始ヲ變更シ又同上第五號ノ休業ヲ爲ナスンテ毎朝數時間ノ授業ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ外臨時休業ヲ要スルトキハ學堂長ニ於テ其ノ事由ヲ具シ民政長官ノ認可ヲ受クヘシ

天災時變其ノ他急迫ノ場合ニ際シ前項ノ認可ヲ受クル暇ナキトキハ學堂長限リ施行ノ後直ニ民政長官ニ届出ヘシ

第十八條 一學級ノ生徒數ハ六十人以下トス

第十九條 全校女生徒ノ數二十人以上ニ達スルトキハ男女ニ依リ學級ヲ分ツヘシ

第二十條 修身、體操、唱歌、裁縫、手工又ハ農業ハ數學級ノ全部若ハ一部ノ生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ

教授スルコトヲ得但シ生徒ノ數七十人ヲ超エサル場合ニ限ル

第二十一條 教室狹隘其ノ他特別ノ事情アルカ爲第十七條及第十八條ノ規定ニ依リ難キトキハ學堂長ニ於テ其ノ事由ヲ具シ民政長官ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十二條 公學堂ニ入學スヘキ生徒ノ年齢ハ八歳以上十八歳以下トシ學年ノ始ニ於テ入學セシムヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 學堂長ハ第一號様式ニ依リ學年ノ始ニ於テ學籍簿ヲ調製シ入學シタル生徒ニ就キ各要項ヲ記入スヘシ

學籍簿ハ入學ノ生徒ニ異動ヲ生シタル都度遲滞ナク之ヲ加除訂正スヘシ

第二十四條 學堂長ニ於テ入學若ハ退學ヲ許可シタルトキハ入學者ニ關シテハ其ノ生徒ノ氏名生年月日及學年ヲ退學者ニ關シテハ氏名學年及其ノ事由ヲ翌月五日迄ニ民政長官ニ報告スヘシ

第二十五條 學堂長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル生徒アルトキハ民政長官ノ認可ヲ受ケ之ニ退學ヲ命スルコトヲ得

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 引續キ四箇月以上出席シ再ヒ出席スヘキ見込ナキ者

第二十六條 學堂長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ虞アル生徒又ハ性行不良ニシテ他ノ生徒ノ教育ニ妨害アリト認メタル生徒ノ出席ヲ停止スルコトヲ得

學堂長ハ前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ直ニ民政長官ニ報告スヘシ

第二十七條 學堂長ハ第二號様式ニ依リ生徒出席簿ヲ調製シ其ノ出席出席ヲ明ニスヘシ

第二十八條 學堂長ハ第三號様式ニ依リ毎月末生徒出席出席表ヲ調製シ翌月五日迄ニ民政長官ニ報告スヘシ

附 則

此ノ規則ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
(教授ノ程度及毎週教授日數表並様式畧ス)

●關東洲小學校職制(明治三十九年三月三十一日署令第十五號)

關東洲小學校職制左ノ通相定ム

關東洲小學校職制

第一條 關東洲小學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

教 員

雇教員

第二條 學校長ハ各校一人トシ民政長官又ハ支署長ノ命ヲ承ケ所屬職員ヲ監督ス

學校長ハ教員ヲシテ之ヲ兼テシム

第三條 教員ハ兒童ノ教育ヲ擔任シ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第四條 雇教員ハ教員ノ職務ヲ助ク

此ノ職制ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

●關東洲公學堂職制(明治三十九年三月三十一日署令第十六號)

關東洲公學堂職制左ノ通相定ム

關東洲公學堂職制

關東洲公學堂職制ハ明治三十九年三月署令第十五號關東洲小學校職制ヲ準用ス但シ第一條ノ學校長

ハ公學堂ニ在リテハ學堂長トス

此ノ職制ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●關東洲營業稅規則(明治三十九年四月二日署令第十八號)

關東洲營業稅規則左ノ通改正ス

關東洲營業稅規則

第一條 關東洲營業稅ハ左ノ種類、課稅標準及稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

種類	課稅標準	稅率
物品販賣業	賣上金額	加算千分ノ一、半 小賣千分ノ五、半
銀行業	從業者 資本金額	每一人銀六圓 千分ノ三
	從業者	每一人銀六圓

金貨	倉庫	運送	貨物	料席	貨物	旅宿	飲食	請負	周旋	代理	兩替	製刷	寫真	煙館
業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業
年稅	年稅	年稅	年稅	月稅	年稅	年稅	年稅	年稅	年稅	年稅	年稅	年稅	年稅	月稅
資本金額	從業者	從業者	從業者	建物貨格	從業者	從業者	從業者	從業者	報償金額	報償金額	報償金額	報償金額	報償金額	收入金額
千分ノ十二	每一人銀六圓	每一人銀六圓	每一人銀六圓	千分ノ二十	每一人銀一圓	每一人銀一圓	每一人銀一圓	每一人銀一圓	千分ノ三十	千分ノ十	千分ノ十五	千分ノ十五	千分ノ十五	千分ノ二十

第二條 何等ノ名稱ヲ以テスルモ營利ノ業ニ屬シ第一條中ノ營業種類ニ類似スル業態ノモノニハ適當ト認ムル種類ニ依リ營業稅ヲ賦課ス

第三條 納稅義務者ハ年税ニ屬スルモノハ毎年一月二十日迄ニ月税ニ屬スルモノハ毎月五日迄ニ左

ノ事項ヲ記載シ所轄署ニ申告スヘシ

一 營業ノ種類

二 店舗若ハ營業場所所在地

三 課税標準

四 原籍及住所氏名

新ニ開業シタル者ハ其ノ際本條ノ申告ヲ爲スヘシ

營業者廢業シタルトキハ其ノ際所轄署ニ申告スヘシ

第四條 同一人ニシテ二種以上ノ營業ヲ爲ストキ又ハ二箇所以上ノ店舗若ハ營業場ヲ有スルトキハ

各別ニ營業税ヲ課ス但シ課税標準トナルヘキモノヲ共通シテ使用スルトキハ其ノ一ニ就テ計算ス

其ノ税率異ナルトキハ重キニ從フ

關東洲ノ内外ニ涉リ店舗若ハ營業場數箇所アルトキ資本ヲ區分セサルモノハ關東洲ニ於ケル店舗

若ハ營業場ニ於テ使用スル資本金額ヲ見積リ營業税ヲ課ス

第五條 課税標準ハ年税ニ屬スルモノハ毎年一月一日ノ現在ニ依リ月税ニ屬スルモノハ其ノ月一日

ノ現在ニ依リ左ノ區分ニ從ヒ計算ス

一 賣上金額、收入金額、請負金額、報價金額

年税ニ屬スルモノハ一箇年間ノ見込金額月税ニ屬スルモノハ一箇月間ノ見込金額トス

二 資本金額

會社ニ在リテハ拂込株式金額、出資金額其ノ他資本ノ爲ニスル借入金額、積立金額並積立金ノ性

質ヲ有スル資産金額トス

一個人ニ在リテハ其ノ借入ニ係ルト否トヲ問ハス直接ニ營業ノ用ニ供スル固定資本及運轉資本

ノ總額トス

三 建物賃賃價格

店舗其ノ他營業用ノ土地建物ノ借料ニ相當スルモノトス但シ住居ノ家屋其ノ他直接ニ營業ニ使

用セサルモノアルモ同一區域内ニ在リテ自己ノ所用ニ係ルモノハ營業用トシテ計算ス

借家ニ非サル場合ニ於テハ他ノ借家ノ借料ニ照準シテ建物賃賃價格ヲ定ム無償ノ借家ニ就テモ

亦同シ

四 從業者

名義ノ何タルヲ問ハス總テ營業ニ從事スル者ハ從業者トシテ計算ス但シ營業者ノ家族ヲ除ク

第六條 第三條ノ申告ヲ爲ササルトキ又ハ其ノ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ民政長官其ノ課税標準

ヲ決定ス

第七條 營業税ノ納期ハ年税ニ在リテハ左ノ三期トシ月税ニ在リテハ其ノ月二十五日迄トス但シ廢

業スルトキハ即納トス

第一期 (年額三分ノ一) 三月三十一日迄

第二期 (同) 上) 八月三十一日迄

第三期 (同) 上) 十二月三十一日迄

- 第八條 新ニ營業ヲ開始シタルトキハ開業ノ月ヨリ營業稅ヲ徵收ス
- 第九條 營業者廢業シタルトキハ廢業ノ月迄營業稅ヲ徵收ス
- 第十條 第三條ノ申告事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄署ニ申告スヘシ
- 第十一條 納稅義務者他ノ所轄署管内ニ店舗若ハ營業場ヲ移轉シタルトキハ十日以内ニ左ノ事項ヲ記載シテ移轉地所轄署ニ申告スヘシ
 - 一 店舗若ハ營業場ノ前所在地
 - 二 第三條ノ申告事項
 - 三 當期又ハ當月迄ノ納稅濟否
- 第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル納稅義務者ハ納稅管理人ヲ定メ連署ヲ以テ所轄署ニ申告スヘシ
 - 一 店舗其ノ他營業場所在地ノ所轄署管外ニ居住スル者
 - 二 滿一箇月以上ニ渉ル旅行又ハ不在ノ者
 - 三 民政長官ニ於テ必要ト認ムル者
- 第十三條 營業者ハ帳簿ヲ調製シ營業ニ關スル事項ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ
- 第十四條 當該官吏ハ納稅義務者ノ家宅其ノ他ノ場所ニ就キ營業ニ關スル帳簿物件ヲ調査スルコトヲ得
- 第十五條 第三條、第十條ノ申告ヲ爲サス若ハ虛偽ノ申告ヲ爲シ又ハ申告ヲ怠リタル者及第十四條ノ調査ヲ拒ミタル者ハ銀五十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ脱稅ヲ爲シタル者ハ稅金十倍ニ相當スル罰金ニ處ス第十一條、第十二條ノ申告ヲ爲サス又ハ其ノ申告ヲ怠リタル者及第十三條ノ記載ヲ爲サ

ス又ハ其記載ヲ怠リ若ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ銀一圓以上ノ科料ニ處ス

附 則

- 第十六條 此ノ規則ハ明治三十九年五月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十七條 此ノ規則施行ノ際ニ限り年稅ニ屬スルモノニ在リテハ第三條ノ申告ハ五月二十日迄ニ之ヲ爲シ課稅標準ハ五月一日ノ現在ニ依リ之ヲ計算スヘシ
- 第十八條 明治三十九年分ニ限り第一期ノ納期ハ六月三十日迄トス
- 第十九條 此ノ規則ニ牴觸スル規定ハ此ノ規則施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

訓 令

●關東洲民政署分課規程(明治三十八年七月)

(官房、庶務部、財務部、司法委員)
 (明治三十八年七月二十九日訓令第三號及同年十二月二十六日訓令第十九號ヲ以テ本令中改正)

關東洲民政署分課規程左ノ通相定ム

關東洲民政署分課規程

- 第一條 官房及各部ニ係ラザル其所管ノ事務ヲ分掌セシム
- 第二條 係ニ各事務ノ主任ヲ置キ其分擔事務ヲ處理セシム
- 第三條 官房ニ秘書係文書係ヲ置ク
- 第四條 秘書係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 機密ニ關スル事項

- 二 職員ノ進退及身分ニ關スル事項
 - 三 叙位叙勳ニ關スル事項
 - 四 長官官印及署印ノ管守ニ關スル事項
 - 五 恩給扶助及諸手当ニ關スル事項
 - 六 人馬ノ統計報告ニ關スル事項
 - 七 儀式典禮ニ關スル事項
 - 八 官房中他ノ主管ニ屬セサル事項
- 第五條 文書係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 文書ノ接受發送ニ關スル事項
 - 二 署令、訓令、告示、告諭及内訓等ノ查閱發布ニ關スル事項
 - 三 統計報告ニ關スル事項
 - 四 記録ノ編纂及保管ニ關スル事項
 - 五 圖書ノ保管ニ關スル事項
 - 六 宿直ニ關スル事項
- 第六條 庶務部ニ地方係、殖産係、土木係ヲ設ク
- 第七條 地方係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 地方行政及地方經濟ニ關スル事項
 - 二 官有財産及外國人ノ財産ニ關スル事項

- 三 市區計劃及公園其他地理ニ關スル事項
 - 四 兵事及戶籍ニ關スル事項
 - 五 渡航者ノ居留營業及旅行ニ關スル事項
 - 六 賑恤救済及慈善ニ關スル事項
 - 七 教育ニ關スル事項
 - 八 宗教ニ關スル事項
 - 九 他ノ主管ニ屬セサル事項
- 第八條 殖産係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 商工及度量衡ニ關スル事項
 - 二 森林原野ニ關スル事項
 - 三 鑛山ニ關スル事項
 - 四 水産ニ關スル事項
 - 五 農業及畜産ニ關スル事項
- 第九條 土木係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 土木ニ關スル事項
 - 二 營繕ニ關スル事項
 - 三 土地ノ測量及地圖ノ調製ニ關スル事項
- 第十條 財務部ニ主計係、會計係、理財係、稅務係ヲ置ク

第十二條 主計係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 豫算編成配賦及決算ニ關スル事項
- 二 出納官吏ノ監督及諸計算書ノ下検査ニ關スル事項
- 三 會計法規ニ關スル事項

第十三條 會計係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 出納ニ關スル事項
- 二 物品ノ出納及購買ニ關スル事項
- 三 廳舎宿舍ノ小破修繕ニ關スル事項
- 四 備入ノ命免監督ニ關スル事項
- 五 廳中取締ニ關スル事項
- 六 部中他係ニ屬セサル事項

第十四條 理財係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 貨幣ニ關スル事項
- 二 銀行ノ管理監督ニ關スル事項
- 三 輸出入ニ關スル事項
- 四 一般金融ニ關スル事項

第十五條 稅務係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 租稅ニ關スル事項

第十六條 稅外諸收入ニ關スル事項

- 一 徵收ニ關スル事項

第十七條 警務部ニ警務係、保安係、衛生係、監獄係ヲ置ク

- 一 警察區劃ニ關スル事項
- 二 巡查ノ配置勤務及身分ニ關スル事項
- 三 物品會計ニ關スル事項
- 四 會議及事務規定ニ關スル事項
- 五 警備、警衛ニ關スル事項
- 六 部中他係ニ屬セサル事項

第十八條 保安係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 集會、結社ニ關スル事項
- 二 出版ニ關スル事項
- 三 演劇講談ノ仕組ニ關スル事項
- 四 渡航者取締ニ關スル事項
- 五 營業及市場ノ取締ニ關スル事項
- 六 運輸交通ノ取締ニ關スル事項
- 七 建築及危險物ノ取締ニ關スル事項
- 八 風俗取締ニ關スル事項

- 九 制札ニ關スル事項
- 十 遺失物理藏物漂流物ニ關スル事項
- 十一 前各號ノ外一般取締ニ關スル事項
- 十二 司法警察ニ關スル事項
- 十三 留置人ノ看守及護送ニ關スル事項
- 十四 警務上ノ機密文書ニ關スル事項
- 十五 部印部長印ノ管守ニ關スル事項
- 第十六條 衛生係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 傳染病ノ豫防檢疫ニ關スル事項
 - 二 清潔法執行ニ關スル事項
 - 三 醫藥取締ニ關スル事項
 - 四 種痘及檢徴ニ關スル事項
 - 五 墓地火葬場及屠宰ニ關スル事項
 - 六 前各號ノ外公衆衛生ニ關スル事項
- 第十七條 監獄係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 監獄戒護ニ關スル事項
 - 二 在監人ノ名籍刑期其他身分ニ關スル事項
 - 三 在監人送達書類及給與領置差入品ニ關スル事項

●警察官吏腕章(明治三十八年七月二日(官房、庶務部、財務部、司法委員、支署)訓令第二號)

警察官吏ノ腕章左ノ通相定ム

警察官吏腕章

名	稱	地	質	製	式	形	狀
腕	章	黒	絨	金線二條ヲ附ス	圖ノ如シ	衣ノ左腕ニ附著ス	

(圖ハ略之)

●支署派出所規程(明治三十八年七月三日(官房、庶務部、財務部、司法委員、支署)訓令第四號)

支署派出所規程左ノ通相定ム

支署派出所規程

- 第一條 支署ノ派出所ヲ設置セントスルトキハ支署長ハ左ノ事項ヲ記シ事由ヲ具シテ民政長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 一 位置、名稱及區域
 - 二 區域内ノ鄉村名、面積及戸口
 - 三 掌理事務ノ項目
 - 四 派出員ノ官職別及人員

前項ノ派出所ヲ廢止シ又ハ第一號第三號及第四號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ
 第二條 前條ノ派出所ヲ設置又ハ廢止シ若ハ第一號第三號及第四號ノ事項ヲ變更シタルトキハ直ニ
 其年月ヲ報告スヘシ

●支署分課規程(明治三十八年七月三) (官房、庶務部、財務部、
 警務部、司法委員、支署)

支署分課規程左ノ通相定ム

支署分課規程

- 第一條 支署ニ庶務係、財務係、警務係ヲ置ク
- 第二條 庶務係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 地方行政ニ關スル事項
 - 二 他係ニ屬セサル事項
- 第三條 財務係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 經理ニ關スル事項
 - 二 理財ニ關スル事項
 - 三 租稅其ノ他諸收入ニ關スル事項
- 第四條 警務係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 警察ニ關スル事項
 - 二 監獄ニ關スル事項

三 衛生ニ關スル事項

●關東洲民政署處務規程(明治三十八年八月二) (官房、庶務部、財務
 部、警務部、司法委員)

關東洲民政署處務規程左ノ通相定ム

關東洲民政署處務規程

- 第一條 凡ソ本署ニ到達スル公文書ハ之ヲ官房文書係ニ接受シ文書係主任ハ其ノ月日及記號ヲ本書
 ニ附記シ件名又ハ要旨ヲ發受件名簿ニ登記シタル上官房主事ノ命ヲ受ケテ之ヲ各部ニ配付スヘシ
 人民ノ出頭提出スル願届書ノ類ハ各主務部ニ於テ前項ノ手續ニ準シ直接之ヲ收受スヘシ
 民政長官宛ノ親展文書ハ封緘ノ儘之ヲ官房主事ニ差出スヘシ
- 第二條 各部ニ於テ文書ノ配付ヲ受ケ又ハ直接收受シタルトキハ當該部長ハ直ニ各主任ニ處分方ヲ
 授ケ之ヲ處理セシムヘシ
- 第三條 凡ソ決裁ヲ受クヘキ文書ハ之ヲ官房文書係ニ回附シ文書係主任ハ其ノ文例書式又ハ字句ノ
 當否等ヲ點檢シ官房主事ニ差出スヘシ
 報告其ノ他民政長官ニ供關スヘキモノモ亦前項ノ例ニ準ス
- 急施ヲ要シ又ハ機密ニ係ル文書ハ前項ノ手續ニ依ラサルコトヲ得
- 第四條 各部ノ提按ニシテ他部ニ關涉スルモノハ決裁前當該各部ニ合議スヘシ
- 第五條 至急ノ處分又ハ機密ノ取扱ヲ要スル文書ハ主務部ニ於テ「急」又ハ「秘」ノ記號ヲ付スヘシ
- 第六條 急施ヲ要シ又ハ機密ニ係ルモノノ外決裁濟ノ文書ニシテ署名又ハ長官名ヲ以テ發スヘキモ

ノハ官房文書係ニ於テ淨書校正シ主任檢印ノ上發受件名簿ノ記號ト照校シ發送スヘシ
 發送ノ文書ニシテ民政署印又ハ民政長官印ヲ要スルモノハ官房主事ニ就キ鈐印ヲ求ムヘシ
 發送濟ノ文書ハ之ヲ主務部ニ回付スヘシ
 第七條 前條文書ノ發送ハ決裁ノ都度直ニ之ヲ取計フヘシ若シ文書幅狭シタルトキハ前後緩急ノ順序ニ從フヘシ
 第八條 收受發送ノ文書ニハ本署ノ符記番號ヲ標記ス番號ハ毎年之ヲ更新ス
 第九條 凡ソ公文ノ印刷ニ付スヘキモノハ別ニ定ムル所ノ印行手續ニ依リ公文ニ添付シテ發送スヘキ圖表其ノ他ノ書類ハ主務部ニ於テ之ヲ淨書調製シ文書係ニ回付スヘシ
 第十條 發送文書ニ「親展」又ハ「至急」ノ符記ヲ要シ若ハ書留郵便ニ付スヘキモノハ主務部ニ於テ其ノ旨ヲ回議按ニ朱記スヘシ
 第十一條 公文ノ淨書ハ楷行二體ヲ限リ明瞭ニ記スヘシ文按ヲ草スル亦同シ
 若シ文按中ノ字句ヲ加削シ又ハ改正スルコトアルトキハ主任者之ニ檢印スヘシ
 第十二條 處分濟文書ハ各主務部ニ於テ保存シ翌年二月之ヲ文書係ニ回付スヘシ
 第十三條 凡ソ文書ハ之ヲ收受スル毎ニ簿冊ニ記入シ受領者之ニ檢印シ且其ノ月日ヲ明ニスヘシ
 第十四條 各部ニ於テ配付ヲ受ケタル文書ヲ他部ニ移サントスルトキハ一旦之ヲ官房文書係ニ送付スヘシ
 第十五條 各部長ハ其ノ部内ノ屬又ハ警部一人ヲ文書主任トナシ文書授受ノ責ニ任セシム
 第十六條 凡ソ公文書類ハ公務ノ外民政長官ノ許可ヲ得スシテ之ヲ他人ニ示スコトヲ得ス

第十七條 本規程ニ於テ各部又ハ各部長ニ關スル規定ハ官房、官房主事及司法委員ニ之ヲ準用ス

●民事及刑事事件報告方(明治三十八年八月二日(旅順支署) 十九日訓令第七號)

自今別紙表式ニ依リ毎月五日迄ニ其ノ前月中ニ取扱ヒタル民事及刑事事件ヲ報告スヘシ
 (表式ハ略ス)

●警察官吏派出所名稱位置及受持區域(明治三十八年九月二日(警部務) 十六日訓令第八號)

直轄内ニ警察官吏派出所ヲ設置シ警察事務ヲ執行セシム其ノ名稱位置及受持區域左ノ通相定ム

警察官吏派出所名稱位置及受持區域

名稱	位置	受持區域
浪速町警察官吏派出所	浪速町遼東ホテル向角	浪速町一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、羽前町、羽後町、吉野町、大山通一丁目、二丁目、愛宕町、駿河町、佐渡町、信濃町、美濃町、岩代町、西通磐城町
西公園町警察官吏派出所	公園西北角	近江町、若狹町、西公園町、薩摩町、播磨町、但馬町、越後町
吾妻橋警察官吏派出所	監部通吾妻橋際	寺内通、加賀町、摩耶町、紀伊町、周防町、石見町、龍田町、東郷町、敷島町、武藏町、隱岐町、飛彈町、常陸町、監部通、奥町通一丁目、二丁目

大山通警察官 吏派出所	大山通四丁目	大山通三丁目、四丁目、乃木町、安房町、尾張町、伊賀町、河内町、和泉町、兒玉町、志摩町、山城町、甲斐町、西濱町、相模町
小岡子警察官 吏派出所	小岡子村	
臭水屯警察官 吏派出所	臭水屯村ノ内沙河口警察官吏派出所受持區域ヲ 除キ一四	

●明治三十八年第二期豫算(明治三十八年十月十一日訓令第九號)(財務)

明治三十八年第二期(自明治三十八年十月至三十九年三月)豫算別冊ノ通相定ム但シ別冊ハ別ニ頒ツ

●藝妓酌婦及雇婦女取締規則施行心得(明治三十八年十月十八日訓令第十號)(警務部)

藝妓酌婦及雇婦女取締規則施行ニ付左ノ通心得ヘシ

- 第一條 藝妓酌婦ノ營業許可又ハ規則第二條ノ雇婦女ノ認可ヲ願出タルトキハ規則第一條及第二條ノ各事項ヲ具備シ且左ノ各號ニ抵触セサル者ニ限り別記第一號第二號ノ様式ニ基キ許可證又ハ認可證ヲ下付スヘシ
- 一 居住届出ヲ爲ササル者

二 公安風俗及衛生ニ害アリト認ムル者

三 藝妓ノ從業事實アルモノニシテ酌婦ノ願出ヲ爲シ又ハ酌婦ノ從業事實アルモノニシテ雇婦女ノ願出ヲ爲シタル者

第二條 前條ニ依リ許可認可ヲ與ヘントスルトキハ別記第三號様式ニ依ル藝妓酌婦及雇婦女名簿ニ登載シ許可證又ハ認可證ト契印ヲ爲シ異動アル毎ニ名簿ノ加除訂正ヲ爲スヘシ

藝妓酌婦及雇婦女ノ願出ニ關スル書類ハ別ニ編冊シ置クヘシ

第三條 規則第一條第一項ノ健康診斷書ヲ作成スル醫師ハ本署又ハ支署ニ勤務スル醫師又ハ囑託醫タルコトヲ要ス

第四條 規則第九條ノ健康診斷ヲ行ヒタルトキハ診斷名簿ニ其ノ住所氏名年齢及職業ヲ登載シ診斷毎ニ其ノ狀況ヲ記載シ經過ヲ明ニスヘシ

第五條 規則第十一條又ハ第十二條第一項ノ處分ヲ爲シタルトキハ本署ハ支署ニ支署ハ他ノ支署ニ通知スヘシ

第六條 支署ニ於テ前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ狀ヲ具シ民政長官ニ報告スヘシ
(別記様式略ス)

●關東洲地租規則施行方心得(明治三十八年十月三十一日訓令第十一號)(支務部)

關東洲地租規則施行方左ノ通相定ム

關東洲地租規則施行方心得

- 第一條 地租規則第九條ノ申告用紙ハ第一號様式ニ依リ村長ニ送付シ其ノ取纏メヲ爲サシムヘシ
- 第二條 前條ノ申告書ハ編綴シテ土地臺帳ニ充用ス
- 第三條 土地臺帳ニハ第二號様式ノ合計ヲ付シ之ニ依リ納額告知書ヲ發スヘシ
- 第四條 土地業主ヨリ異動ノ申告アリタルトキハ其ノ時々土地臺帳ヲ訂正スヘシ
- 第五條 各村ノ地租納額ハ毎年十月一日ノ現在ニ依リ之ヲ定ムヘシ
- 第六條 納額告知書ニハ第三號様式ニ依リ金額、納期日、納付場所ヲ記載シ之ヲ村長ニ向ケ發スヘシ
- 第七條 村長ノ徵收シタル税金ハ指定ノ納期日後二日以内ニ前條ノ納額告知書ヲ添へ出納官吏ニ送付セシムヘシ前項ノ場合ニ於テ徵收未了ノ分アルトキハ其ノ金額ハ村長ヲシテ負擔セシムヘシ
- 第八條 出納官吏ハ第四號様式ノ徵收簿ヲ備へ徵收額ノ整理ヲ爲スヘシ
- 第九條 支署長ハ毎年十二月十日迄ニ其ノ徵收額ヲ民政長官ニ報告スヘシ

●關東洲雜種稅規則取扱規程(明治三十八年十月二日(財務部)第十五日訓令第十二號)

關東洲雜種稅規則取扱規程左ノ通相定ム

- 第一條 關東洲雜種稅規則第五條第六條第七條ノ申告ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其ノ申告事項ヲ是認シタルトキハ雜種稅臺帳ニ登記シ之ヲ整理スヘシ

- 第二條 納稅義務者ヨリ申告シタル課稅標準其ノ他ニ不當ト認メタル事項アルトキハ其ノ旨本人ニ通告シテ相當ノ訂正ヲ爲サシメ前條ノ取扱ヲ爲スヘシ
- 前項ノ通告ニ應セサルトキハ關東洲雜種稅規則第十條ニ依リ直ニ其ノ稅額ヲ決定シ前項ノ取扱ヲ爲スヘシ
- 第三條 納稅義務アリト認ムル者關東洲雜種稅規則第五條ノ申告ヲ爲ササルトキハ便宜ノ方法ヲ以テ其ノ申告方ヲ催告スヘシ
- 前項ノ催告ニ應セサルトキハ前條第二項ニ據ルヘシ
- 第四條 雜種稅臺帳ハ第一號様式ニ依リ設備スヘシ
- 第五條 車ニハ納稅票(第二號様式)ヲ下付シ轆ノ左方見易キ箇所ニ釘付セシムヘシ
- 納稅票ハ解撤申告ノ際返納セシムヘシ
- 第六條 關東洲雜種稅規則第七條ニ依リ營業場所移轉ノ申告アリタルトキハ直ニ該事項ヲ轉出地ノ所轄署ニ通報シ其ノ回報ヲ竣チテ臺帳ヲ整理スヘシ
- 第七條 轉出地ノ所轄署前條ノ通報ヲ受ケタルトキハ臺帳ニ轉出ノ整理ヲ爲シ同時ニ左ノ事項ヲ回報スヘシ
- 一 關東洲雜種稅規則第五條第一號乃至第四號ニ該當スル事項
- 一 臺帳削除ノ年月日
- 第八條 納稅義務消滅ノ申告アリタルトキハ事實ヲ調査シ相當ノ處理ヲ爲スヘシ
- 第九條 關東洲雜種稅規則第十條ニ依リ稅額ヲ決定スル場合ニ於テハ營業ノ狀態又ハ物件ノ存否ヲ

査察スヘシ

第十條 關東洲雜種稅規則第十條ニ依リ稅額ヲ決定シタルトキハ第三號樣式ニ依リ之ヲ納稅義務者ニ通告スヘシ

第十一條 雜種稅ニ關スル申告書ハ毎月種目毎ニ區分編纂シテ之ヲ保存スヘシ
(樣式略ス)

●公課徵收規則施行細則(明治三十八年十月二日訓令第十三號)(支務部)

公課徵收規則施行細則左ノ通相定ム

公課徵收規則施行細則

第一條 公課ノ納額十錢以上ナルトキハ軍用手票ヲ以テ徵收スヘシ

第二條 公課ヲ徵收セムトスルトキハ納額告知書ヲ以テ金額、納期、納付ノ場所ヲ納人ニ告知スヘシ

納人ヲシテ即納ヲ爲サシムル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ其ノ金額ヲ告知スヘシ

第三條 納額告知書ハ別記第一號樣式ニ依リ調製シ使丁ヲ以テ送達スヘシ

第四條 納額告知書ニ記載スル納期日ハ發付ノ日ヨリ七日以内ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ

第五條 現金領收證書ハ別記第二號樣式ニ依ルヘシ

第六條 出納官吏ハ別記第三號樣式現金出納簿及第四號樣式ニ依ル現金出納補助簿ヲ調製シ收入金ヲ整理スヘシ

第七條 徵收金ハ雜部保管金ノ取扱ニ準シ金庫ニ委託保管ヲ爲スヘシ

第八條 現金領收證書及納額告知書第一接續ノモノハ各收入科目ニ分ケ編纂シ出納官吏ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第九條 公課徵收規則第五條ニ依リ督促ヲ爲ストキハ五日以内ニ於テ適宜期限ヲ指定シテ別記第五號樣式ニ依ル督促狀ヲ發付スヘシ

第十條 公課徵收規則第六條ニ依リ滯納者ノ財産ヲ差押ユルトキハ其ノ徵收スヘキ金額ヲ限度トシ換貨ニ便利ナル財産ヲ選擇スヘシ

第十一條 差押財産ヲ公賣セムトスルトキハ公賣期日ノ十日以前ニ左ノ事項ヲ公告スヘシ

一 滯納者ノ居所氏名

二 滯納ニ係ル收入科目金額事由

三 公賣財産ノ種類、品名、數量

四 公賣ヲ爲スヘキ場所、日時

五 其ノ他特種ノ事情

第十二條 差押財産ヲ公賣セムトスルトキハ豫定價格ヲ定メ入札、競賣又ハ其ノ他公平ニシテ適當ト認メタル方法ヲ以テ執行スヘシ

第十三條 公賣物件ノ買受價格豫定價格ニ達セサルトキ又ハ買受人ナキトキハ更ニ公告シテ再公賣ニ付スヘシ

再公賣ニ付スルモ納買受人ナキトキハ事由ヲ具シ指揮ヲ受クヘシ

第十四條 滯納處分終了シタルトキハ五日以内ニ別記第六號様式ニ依ル計算書ヲ調製シ之ヲ滯納者ニ交付スヘシ

第十五條 別記第七號様式收入日計表ヲ調製シ計算上ノ便ニ資スヘシ

第十六條 別記第八號様式ニ依ル徵收簿ヲ調製シ公課ノ調定額、收入額、缺損額、未收入額ヲ整理スヘシ

第十七條 別記第九號様式ニ依ル收納簿ヲ調製シ一人別徵收額ヲ整理スヘシ

第十八條 出納官吏ハ毎月別記第十號様式ニ依ル現金出納仕譯書ヲ調製シ翌月三日限り本署ハ民政長官ニ支署ハ支署長ニ提出スヘシ

第十九條 支署長ハ毎月徵收簿ニ依リ別記第十一號様式ニ係ル徵收報告書ヲ調製シ出納官吏現金領收濟報告書及出納官吏現金出納仕譯書ヲ添付シ翌月五日限り民政長官ニ提出スヘシ
(別記様式ハ別ニ頒ツ)

●料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業取締規則
施行心得(明治三十八年十月二日 警務部 十五日訓令第十四號)

料理店、飲食店、宿屋、下宿屋、貸席、待合茶屋、引手茶屋營業取締規則施行ニ付左ノ通心得ヘシ

第一條 別記様式ニ依リ規則第一條ノ種類ニ基ク營業者名簿ヲ備ヘ開廢其ノ他異動アル毎ニ加除訂正スヘシ

前項ノ名簿ハ便宜之ヲ一冊ニ編綴スルコトヲ得

第一項ノ願届ニ關スル書類ハ別ニ編冊シ置クヘシ

第二條 警察官吏ハ毎月一回以上各營業場所ニ臨檢シ規則第二條乃至第七條ニ規定スル事項ノ異動又ハ第八條第十二條乃至第十四條ニ規定スル事項ニ違背ナキヤ否ヲ視察シ其ノ概況ヲ營業者名簿ニ備考欄ニ摘記スヘシ

第三條 支署ニ於テ營業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消シタルトキハ其ノ狀ヲ具シ民政長官ニ報告スヘシ

第四條 營業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消シタルトキハ本署ハ支署ニ支署ハ他ノ支署ニ通知スヘシ

第五條 支署ニ於テ規則第十九條ノ組合規約ヲ認可シ又ハ取消變更ヲ爲サントスルトキハ民政長官ニ稟申シ其ノ認可ヲ受クヘシ
(別記様式略ス)

●旅順支署管内ノ車輛ニ對シ雜種稅規則適用方(明治三十八年十月二日 旅順支署 十五日訓令第十五號)

關東洲雜種稅規則制定相成候處其ノ署管内ノ車輛ニ對シテハ明治三十九年度分ヨリ之ヲ適用スル儀ト心得ヘシ

●本署直轄内北沙河口外二十四箇村貸地規程施行方心得

本署直轄内北沙河口外二十四箇村貸地規程施行方左ノ通相定ム
(明治三十八年十月二日 庶務部 十五日訓令第十六號)

本署直轄内北沙河口外二十四箇村貸地規程施行心得

- 第一條 北沙河口外二十四箇村貸地料徴收ノ手續ハ關東洲地租規則第六條、第七條第二項、第八條ノ規定ヲ準用スヘシ
- 第二條 督促手續及滯納處分ニ就キテハ公課徴收規則施行細則第十條乃至第十四條ノ規定ヲ準用シ他ハ一般公課徴收ノ規定ニ依ルヘシ

●徴收未了ノ地租ハ村長ノ負擔タルヘキ件(明治三十八年十一月八日訓令第十七號) (村長本署)

今般關東洲地租規則制定施行候ニ付テハ其ノ村内ニ於ケル地租ハ當署ノ納額告知ヲ待チ指定期限迄ニ徴收ヲ終リ該期限後二日以内ニ之ヲ當署出納官吏ニ送付スヘシ若シ其期限迄ニ徴收ヲ了セサル分アルトキハ事由ノ如何ヲ問ハス凡テ村長ノ負擔トス

●營業稅臺帳(明治三十八年十一月十五日訓令第十八號) (財務部)

營業稅臺帳様式別紙ノ通相定ム
本令ハ明治三十九年一月一日ヨリ施行ス
(様式略ス)

●林木伐採取締方(明治三十八年十二月二十二日訓令第二十號) (庶務部、警務部、支署)

今般告示第三十五號ヲ以テ管内保林ノ必要上樹木伐採ノ禁令發布候ニ就テハ一般人民ハ官ノ趣旨ノ

存スルトコロヲ示シ尙ホ之カ取締方ニ關シテハ相當ノ處置ヲ採リテ嚴重ニ勵行セラルヘク時歲末ニ際シ管内ノ内地商民其ノ他駐在各部隊等ニ於テモ松飾等ノ必要上自然林木伐採ノ弊可有之ニ付右取締方特ニ注意セラヘシ

●關東洲民政署巡查教習所規程(明治三十八年十二月十一日) (警務部)

關東洲民政署巡查教習所規程左ノ通相定ム

關東洲民政署巡查教習所規程

- 第一條 初メテ採用シタル巡查ニ職務上必要ナル學科及實務ヲ教習スル爲巡查教習所ヲ設ク
- 第二條 巡查教習所ノ職員左ノ如シ
 - 主任 一人 警務部警務係主任ヲ以テ之ニ充ツ
 - 教官 若干人 警部尉技手中ヨリ之ヲ命ス
 - 舍監 一人 警部中ヨリ之ヲ命ス
 - 助手 若干人 巡查部長又ハ巡查中ヨリ之ヲ命ス
- 前項ノ外其ノ必要ニ應シ教習事務ヲ囑託スルコトアルヘシ
- 第三條 主任ハ警務部長ノ命ヲ承ケ所務ヲ統理ス
- 第四條 教官ハ警務部長ノ命ヲ承ケ巡查教習生ノ教習ヲ擔任ス
- 第五條 舍監ハ警務部長ノ命ヲ承ケ巡查教習生ノ取締ニ任シ兼テ會計事務ヲ掌理ス
- 第六條 助手ハ上官ノ指揮ヲ受ケ巡查教習生ノ教習ヲ補助ス

第七條 巡查教習生ノ教習期間ハ一箇月以上トス
 警察官又ハ司獄官タリシ經歷ヲ有シ又ハ相當ノ學術技能アリト認ムル者ニ對シテハ教習期間ヲ短縮シ又ハ教習ノ一部若ハ全部ヲ省略スルコトヲ得
 第八條 教習期ノ終ニ於テ試験ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ニアラサレハ實務ニ就カシムルコトヲ得ス
 第九條 教習試験ニ合格シタル者ニハ卒業證書ヲ與ヘ尙ホ其ノ成績優等ニシテ品行方正ナル者ニハ賞狀ヲ附與スルコトアルヘシ
 卒業證書及賞狀ハ別記様式ニ依ル
 第十條 此ノ規程ニ定ムルモノノ外必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム
 (別記様式略ス)

● 巡查及巡捕配置定員 (明治三十八年十二月十日) (警務部) (明治三十九年四月十三日訓令) (令第一號ヲ以テ本令中改正)
 巡查及巡捕配置定員左ノ通相定ム但シ直轄及支署管内ノ配置ハ警務部長又ハ支署長之ヲ定メ報告ス
 (シ)

巡查及巡捕配置定員表

官 署	巡 査				計 巡 捕
	巡 査 部 長 内	勤 外	勤 特	務 合	
警 務 部	一 四	八	七 四	四	一 〇 〇
					四 〇

旅 順 支 署	一 七	五	五 三	三	七 〇	一 五 〇
金 州 支 署	一 七	五	一 〇 三	五	一 三 〇	三 三
總 計	四 〇	一 八	一 三 〇	一 二	三 〇 〇	一 二 二

● 娼妓取締規則施行手續 (明治三十九年一月) (警務部)

娼妓取締規則施行手續左ノ通相定ム

第一條 娼妓稼業ノ願書ヲ受理シタルトキハ娼妓取締規則第一條ノ各項ヲ具備スルヤ否ヤヲ調査シ
 差支ナシト認メタルトキハ別記第一號様式ノ娼妓稼業許可證ヲ下付シ別記第二號様式ノ臺帳ニ記
 載スヘシ
 第二條 娼妓取締規則第三條ニ依リ娼妓ノ遊廓地域外ニ出行ヲ許可スルトキハ別記第三號様式ノ娼
 妓外出許可證ヲ交付シ歸廓シタルトキハ返納セシムヘシ
 第三條 娼妓取締規則第八條ノ届出ヲ受理シタルトキハ事實ヲ調査シ差支ナキモノハ認可ノ指令ヲ
 下付シ臺帳ヲ訂正スヘシ
 第四條 娼妓取締規則第十條第一號及第二號ノ届出ヲ受理シタルトキハ事實ヲ調査シ差支ナシト認
 メタルトキハ許可證ノ書換又ハ再下付ヲ爲シ其ノ旨臺帳ニ記載シ第三號ノ場合ニ在リテハ其ノ旨
 ヲ朱記シテ臺帳ヲ削除スヘシ
 第五條 娼妓廢業ノ届出ヲ受理シタルトキハ其ノ事實ヲ確メ臺帳ヲ削除スヘシ

口頭ニ依ル届出アリタルトキハ事實ヲ聞取り調書ヲ作成シ之ヲ讀聞カセタル上臺帳ヲ削除スヘシ
 代人ニ依ル届出ハ本人ノ自由意思ニ出テタルコトヲ確メタル上ニ非サレハ受理スヘカラス
 娼妓取締規則第十一條第二項ノ届出ヲ受理シタルトキハ其ノ旨娼妓ニ通告スヘシ
 第六條 支署ニ於テ娼妓取締規則第十二條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ具シテ報告スヘシ
 第七條 支那人ニシテ娼妓稼業ヲ爲サムトスル者ニ在リテハ娼妓取締規則第一條第一項第四號第五
 號第六號第七號第九號第十號ヲ省略スルコトヲ得
 (別記様式略ス)

●貸座敷取締規則施行手續(明治三十九年二月(警務部)十一月訓令第二號(支署))

貸座敷取締規則施行手續左ノ通相定ム

- 貸座敷取締規則施行手續
- 第一條 貸座敷取締規則第二條ノ願書ヲ受理シタルトキハ事實ヲ調査シ差支ナシト認メタルトキハ許可ノ指令ヲ下付シ別記様式ノ臺帳ニ記載シ支署ニ在リテハ之ヲ報告スヘシ
 - 第二條 左ニ掲クル者ハ貸座敷營業ヲ許可スヘカラス
 - 一 強竊盜、詐欺取財、贓物ニ關スル罪、幼者ヲ略取誘拐スル罪ノ前科アル者及此等ノ者ト同居スル配偶者
 - 二 他人ニ名義ヲ貸スノ事實アリト認ムル者
 - 第三條 貸座敷取締規則第三條ニ依リ管理人認可ノ申請アリタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ差支ナシ

ト認メタルトキハ認可ノ指令ヲ下付シ臺帳ニ記載スヘシ

前條第一號ニ該當スル者ハ管理人タルコトヲ認可スヘカラス

第四條 貸座敷取締規則第四條ノ届出ヲ受理シタルトキハ臺帳ヲ加除訂正シ支署ニ在リテハ其ノ旨報告スヘシ

第五條 貸座敷取締規則第八條ニ依リ使用人雇入ノ届出ヲ受理シタルトキハ身元ヲ調査シ第二條第一號ニ該當シ未タ改換ノ狀ナキ者及素行不良ノ者ナルトキハ解雇セシムヘシ

第六條 遊客人名簿ハ其ノ調製ノ始ニ於テ檢印シ濫ニ變改スルコトヲ得サラシムヘシ

第七條 貸座敷ニハ隨時警察官ヲシテ臨檢セシメ主トシテ左ノ事項ヲ視察セシムヘシ

- 一 娼妓取締規則及貸座敷取締規則ニ違反スル者ノ有無
- 二 娼妓ニシテ體質又ハ疾病等ニ因リ稼業ニ耐ヘサル者若ハ他人ノ虐待ヲ受クル者ノ有無
- 三 娼妓衛生上ノ設備及注意ノ周否
- 四 遊客人名簿ノ記載事項

第八條 支署ニ於テ貸座敷取締規則第十六條及第十七條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ具シテ報告スヘシ

第九條 貸座敷營業者組合規約ノ届出アリタルトキハ其ノ條項ヲ調査シ差支ナシト認メタルトキハ認可ノ指令ヲ下付スヘシ

支署ニ於テ前項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ規約書寫ヲ添ヘ之ヲ報告スヘシ其ノ取消又ハ變更ヲ命シタルトキ亦同シ

第十條 組合取締副取締認可ノ申請アリタルトキハ人物ヲ調査シ差支ナシト認メタルトキハ認可ノ指令ヲ下付スヘシ
支署ニ於テ前項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ旨報告スヘシ其ノ再選ヲ命シタルトキ亦同シ
(別記様式略ス)

●大連火葬場火葬取扱手續(明治三十九年二月三) (警務)
(十五日訓令第三號)

大連火葬場火葬取扱手續左ノ通相定ム

- 第一條 大連火葬場火葬取扱手續
第一條 屍體ノ火葬ヲ願出タル者アルトキハ火葬認許證及火葬料受領證ヲ檢査シ屍體受領書ヲ交付スヘシ
- 死者軍人軍屬ナルトキハ其ノ證明書ヲ併セ檢査スヘシ
- 第二條 火葬ハ屍體受領シタル當日日没後日出前ニ之ヲ行フヘシ
- 第三條 遺骨ヲ拾納セントスル者アルトキハ屍體受領證ヲ檢査シ拾納セシムヘシ
火葬出願人ニ於テ大連火葬場規程第四條ノ時間ニ遺骨ヲ收納セサルトキハ之ヲ納骨器ニ納メ死者ノ氏名、火葬出願人ノ住所氏名、火葬ノ日時等ヲ明記シ納骨所ニ保存スヘシ
- 前項ノ遺骨ハ納骨ノ日ヨリ起算シ三十日以内ニ交付ヲ請フ者ナキトキハ合葬ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第四條 屍體又ハ遺骨ハ鄭重ニ之ヲ取扱フヘシ
- 第五條 火葬場事務所ニハ別記様式ノ火葬簿ヲ備ヘ必要ノ事項ヲ記入整理スヘシ

(別記様式ハ別ニ頒ツ)

●關東洲小學校並關東洲公學堂職員服務心得(明治三十九年四月一日訓令第四號)

(庶務部、支署、小學校、公學堂)

關東洲小學校並關東洲公學堂職員服務心得左ノ通相定ム

- 第一條 職員ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ヲ奉戴シ誠實ニ其職務ニ服スヘシ
- 第二條 職員ハ始業時間前ニ出校シ終業時間後ニ退學スヘシ
- 第三條 職員出校シタルトキハ出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第四條 職員疾病其ノ他ノ事故ニ依リ關勤スルトキハ其ノ事由ヲ具シ始業時間前ニ學校ニ届出ヘシ
前項ノ關勤五日ヲ超ユルトキハ其ノ事故ニ關スルモノハ日數ヲ具シ疾病ニ關スルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ民政長官又ハ支署長ニ届出ヘシ但シ疾病十日以上ニ涉ルトキハ十日毎ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出ルヲ要ス
- 第五條 職員轉地療養又ハ私事ノ故障ニ依リ關勤若ハ旅行セントスルトキハ其ノ日數及事由ヲ具シ民政長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ疾病ニ關スルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添ユルヲ要ス
- 第六條 職員喪ニ丁リタルトキハ死亡者トノ續柄ヲ具シ民政長官又ハ支署長ニ届出ヘシ
- 第七條 學校長若ハ學堂長轉任又ハ退職ヲ命セラレタルトキハ五日以内ニ事務ヲ引繼キ連署ヲ以テ民政長官ニ届出ヘシ

學校長若ハ學堂長以外ノ職員前項ノ場合ニ於テハ三日以内ニ事務ヲ引繼キ學校長ニ届出ヘシ
第八條 學校長若ハ學堂長不在ノトキハ上席教員其ノ職務ヲ代理スヘシ

附 則

本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施用ス

●關東洲民政署巡查採用規則(明治三十九年四月五日訓令第五號) (警務)

關東洲民政署巡查採用規則左ノ通相定ム

關東洲民政署巡查採用規則

- 第一條 巡查ハ身體検査及學術試験ヲ經テ採用スルモノトス但シ左ノ各號ノ一ニ該ル者ハ學術試験ヲ省略スルコトアルヘシ
 - 一 滿一箇年以上巡查タリシ經歷ヲ有シ退職後滿五箇年以内ノ者
 - 二 巡查精勤證書ヲ有スル者
 - 三 陸軍現役滿期又ハ戰時召集ヲ解除セラレタル下士(陸兵科ハ上等兵)以上ノ者若ハ下士適任證書ヲ有スル者
- 四 判任文官タリシ者又ハ文官任用令第三條ニ依リ判任文官タル資格ヲ有スル者
- 第二條 巡查ノ身體検査ハ左ノ各號ニ適合スル者ヲ以テ合格トス
 - 一 體質善良ニシテ較著ナル疾患ナキ者
 - 二 身體諸機關完具シ且其ノ機能健全ニシテ劇務ニ堪エ得ル者

- 三 身幹五尺一寸以上胸圍約身長ノ半ニシテ呼吸縮張ノ差一寸以上ノ者
- 四 視力及聽力共ニ完全ナル者
- 五 言語明瞭ニシテ充分ノ發聲ニ堪ユル者
- 六 容貌姿勢醜惡ナラサル者
- 第三條 巡查ノ學術試験ハ左ノ各號ニ適合スル者ヲ以テ合格トス
 - 一 刑法刑事訴訟法及警察法規ノ大要ニ通スル者
 - 二 本邦ノ歴史及地理ノ大要ニ通スル者
 - 三 假名交リノ論文及普通往復文ヲ作り得ル者
 - 四 加減乗除ヲ爲シ得ル者
 - 五 普通ニ楷書及行書ヲ書キ得ル者
- 第四條 刑事事務ノ巡查ハ前條ノ試験ヲ經スシテ採用スルコトヲ得但シ學術試験ヲ經ルニ非サレハ普通警察事務ニ従事セシムルコトヲ得ス
- 第五條 巡查志願者ハ品行方正年齢二十一歳以上四十歳未滿ニシテ左ノ各號ニ牴觸セサル者タルコトヲ要ス
 - 一 重罪ノ刑又ハ重禁錮ノ刑ニ處セラレ若ハ同上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シ單ニ監視ニ附セラレタル者若ハ輕禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期後五箇年ヲ經過セサル者
 - 二 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者
 - 三 巡查看守懲罰例又ハ文官懲戒令ニ依リ官職ヲ免セラレ爾後滿二箇年ヲ經過セサル者



- 四 身分不相應ノ負債アル者又ハ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復権ヲ得サル者
- 五 豫戒命令ヲ受ケタル者
- 六 酒癖又ハ暴行ノ癖アル者
- 第六條 巡査志願者ヨリ徵スヘキ文書左ノ如シ
 - 一 巡査志願書(別記第一號書式ニ依ル)
 - 二 履歷書(別記第二號書式ニ依ル)
 - 三 戸籍吏ノ作リタル戸籍謄本
 - 四 市區町村長ニ於テ第五條ニ抵觸セサルコトヲ證明シタル證書
- 第七條 巡査ニ採川スヘキ者ト定リタルトキハ別記第三號書式ノ誓書ヲ徵スルモノトス
(別記書式略ス)

●關東洲民政署警察彙報規程(明治三十九年四月)(警務部)

關東洲民政署警察彙報規程左ノ通相定ム

關東洲民政署警察彙報規程

- 第一條 警察彙報ハ警察ニ關スル法令、例規其ノ他必要ノ事項ヲ輯録シ毎月一回以上警務部ニ於テ發刊スルモノトス
- 第二條 警察彙報ハ警察官署及警察官吏派出所ニ配付ス
- 第三條 警察官吏及警察事務ニ從事スル職員ハ警察彙報ヲ購讀スルノ義務アルモノトス

第四條 警務部及支署ニ警察彙報資料擔任者ヲ置クヘシ

第五條 支署ニ於ケル警察彙報資料擔任者ハ毎月蒐集タル警察彙報資料ヲ翌月三日迄ニ警務部ヘ送付スヘシ

第六條 警察彙報ニ登載スル事項ハ左ノ如シ但シ左ノ各號ニ該當スルモノト雖不必要ト認ムルトキハ登載セサルコトアルヘシ

- 一 法律
- 二 勅令
- 三 軍令
- 四 府令
- 五 署令
- 六 訓令
- 七 告示
- 八 内訓
- 九 指令
- 十 通達
- 十一 警察職員ノ任免賞罰辭令
- 十二 恩給給助
- 十三 警察會議

- 十四 新聞、雜誌、出版物
- 十五 政談、集會
- 十六 馬賊ノ情況
- 十七 捜査及其ノ解除
- 十八 遺失物埋藏物及漂流物
- 十九 衛生及檢疫
- 二十 水火震災
- 二十一 統計諸表
- 二十二 前各號ノ外必要ノ事項

●關東洲民政署警察官吏服務規程(明治三十九年四月)(警務部)

關東洲民政署警察官吏服務規程左ノ通相定ム

第一條 警察官吏ハ官吏服務紀律ニ依ルノ外本規程ヲ遵守スヘシ

第二條 警察官吏ハ法律命令及上官ノ指示訓達ニ基キ嚴正忠實ニ其ノ職務ヲ執行スヘシ

第三條 警察官吏ハ危害ヲ除去シ公共ノ安寧秩序ヲ保持スルヲ以テ職任トス故ニ平素諸般ノ事項ニ對シ周到ナル注意ヲ爲シ此ノ目的ヲ遂行スルコトヲ努ムヘシ

第四條 上官ノ命令ハ必ス之ニ服從シ誠實ニ遵行スルノ義務アルモノトス

上官ニ對シ職務上ノ意見ヲ上申セントスルトキハ能ク禮節ヲ守リ穩ニ陳述スヘシ其ノ所見ノ異ナルヲ口實トシ論争スルコト得ス

第五條 下班ハ上班ヲ尊重シ上班ハ下班ヲ慈愛シ以テ上下ノ分限及公私ノ區分ヲ明確ニシ互ニ補翼指導シ以テ報効ヲ圖ルヘシ

第六條 同僚ハ一心同體ト心得長短相扶ケ親切ヲ以テ互ニ非違ヲ戒メ友義ヲ盡スヘシ

第七條 凡ソ職務ヲ行フニハ大事ニ嚴ニシテ小事ニ寬ナルヲ以テ本旨トス然レトモ其事體ト時機トニ應ジ濫ニ苛察ニ涉リ又ハ緩漫ニ失スルコトナキヲ要ス

第八條 非常事變ニ際シテハ殊ニ剛毅活潑ニ其ノ職任ヲ盡シ苟モ卑怯失體ノ所爲アルヘカラス

第九條 人民ニ接遇スルニハ人種ノ如何ヲ問ハス溫和懇切ヲ旨トシ其ノ敬禮ヲ行フ者ニハ必ス之ニ答禮スヘシ然レトモ能ク公私ノ區別ヲ正シ苟モ倨傲又ハ狎昵ニ涉ル所爲アルヘカラス

第十條 人ヲ制止シ又ハ説諭スルニ當リテハ忍耐沈著ヲ旨トシ假令不遜ノ行爲アリト雖意ニ介スルコトナク丁寧ニ諭示シ決シテ怒氣ヲ含ミ論争スルカ如キコトアルヘカラス

第十一條 凡ソ職務ヲ執行スルニ當リ言語ノ通セサル場合ハ其ノ事情ヲ詳悉シ彼我ノ意思ヲ徹底スルコト能ハサルハ免レ難キ所ナルヲ以テ殊ニ慎重ノ注意ヲ爲シ粗瀆ノ處置ナキヲ要ス

第十二條 職務上見聞シタル事項ニシテ機密ニ屬スルモノハ他ニ漏洩スルコトヲ得ス其ノ一私人ニ關スルモノト雖亦同シ

第十三條 職務上ニ係ル諸申告ハ誠實ヲ旨トシ虚飾ナキヲ要ス

- 第十四條 職務ノ内外ヲ問ハス耳目ニ觸レタル事項ハ幼童婦女ノ談話ト雖等閑ニ附セス苟モ警察上參考トナルヘキモノハ速ニ上官ニ申告スヘシ
- 第十五條 職務上ニ關スル事項タルト否トヲ問ハス新聞紙又ハ雜誌ニ投書スルコトヲ得ス其ノ學術上ニ關スル所見ヲ掲載セントスルトキハ豫メ原稿ヲ上官ニ差出シ認下ヲ受クヘシ
- 第十六條 行狀ハ自己ノ品位ヲ有テ一般ノ信憑ヲ受クル基本タリ故ニ平常品行ヲ正シクシ其ノ身分ニ應シ交際ヲ慎ミ節約ヲ守リ又能ク一家ノ輯睦ヲ圖リ苟モ他人ノ指斥ヲ受クルカ如キ所爲アルヘカラス
- 第十七條 職務上ニ關シ私ニ金品ノ贈與又ハ酒食ノ饗應ヲ受クルコトヲ得ス
- 第十八條 營利ヲ目的トスル事項其ノ他訴訟事件等ニ關係シ又ハ人民ヨリ金品ヲ借用シ若ハ貸借上ノ保證人ト爲ルコトヲ得ス
- 第十九條 飲酒ハ攝生ノ爲適度ニ之ヲ用ユルハ妨ナシト雖醉態ヲ現シ素行ヲ紊スカ如キコトナキヲ要ス公會又ハ上官ノ認許シタル場合ノ外同僚會飲スルコトヲ得ス
- 第二十條 職務ノ内外ヲ問ハス政治ノ得失ヲ論評シ又ハ人ヲ是非シ毀譽褒貶ニ涉ルカ如キ言語ヲ弄スルコトヲ得ス
- 第二十一條 用語ハ簡潔明瞭ヲ旨トシ動作ハ活潑整肅ナルヲ用ス
- 第二十二條 部内ノ狀況、地理、住民ノ種類及其ノ意向、生業ノ模様並官署、學校、病院、會社、教會、各種團體ノ位置、構成等ハ常ニ之ヲ調査記憶シ何時ニテモ答辯ニ差支ナキコトヲ要ス
- 第二十三條 所轄内ヲ分テ各其ノ擔任區域ヲ定ムルハ職務ノ周到ヲ期スルニ在リ故ニ其ノ受持區内

- ノ事故ヲ他ヨリ摘發セラレルカ如キ不覺ナキコトニ努ムヘシ
 - 第二十四條 職務上必要ナル法令其ノ他學術技藝ハ勉テ之ヲ講究シ殊ニ支那語其ノ他ノ外國語ハ練習熟達スルコトヲ要ス
 - 第二十五條 凡ソ廳舎及宿舎内ノ亂雜ナルハ事務ノ不整理ト紀律ノ弛廢ニ因ルコト多シ常ニ意ヲ用テ之ヲ整頓スヘシ
 - 第二十六條 職務中ハ勿論非番又ハ休暇ニテ外出スル場合ト雖常ニ其ノ行先ヲ詳ニシ何時ニテモ上官ノ召集ニ差支ナカラシムヘシ
 - 第二十七條 妻ヲ娶リ又ハ養子ト爲リ若ハ入夫セントスルトキハ婦又ハ養家若ハ入夫先及媒介人ノ住所、氏名、職業ヲ詳記シ豫メ民政長官ノ認可ヲ受クヘシ
 - 第二十八條 過失錯誤ハ人ノ免レサル所ナルヲ以テ若シ其ノ失誤アリタルコトヲ自覺シ又ハ注意ヲ受ケタルトキハ徒ニ辯疏ヲ事トシ又ハ之ヲ隱蔽スルカ如キ卑劣ノ所爲アルヘカラス
- 關東洲民政署警察配置及勤務程規(明治三十九年四月十七日訓令第九號)(警務部)
- 關東洲民政署警察配置及勤務程規左ノ通相定ム
- 第一章 配置
- 第一條 管内便宜ノ地ニ警務部出張所又ハ支署出張所ヲ設ケ所要ノ警察職員ヲ配置シ警察事務ヲ掌理セシム但シ其ノ掌理セシムヘキ事項ハ別ニ之ヲ定ム

第二條 本署或支署直轄及出張所轄内ノ數區ニ別テ本署及支署所在地ニ警察官吏派出所其ノ他ノ地ニ警察官吏駐在所ヲ設ケ警察官吏派出所ニハ巡查ヲ交代勤務セシメ警察官吏駐在所ニハ巡查ヲ駐在セシム但シ土地ノ状況ニ因リ警察官吏駐在所ニハ巡查部長ヲ駐在セシムルコトアルヘシ警察官吏駐在所ニハ其ノ必要ニ應シ巡捕ヲ配屬ス

支署所在地ニシテ警察官吏派出所ヲ設クルノ必要ナキトキハ支署在勤ノ巡查ヲシテ其ノ區域ヲ分擔セシムヘシ

第三條 一又ハ數警察官吏駐在所ノ受持區域ヲ以テ一監視區トシ監督一人ヲ置ク

監督ハ巡查部長ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 監視區監督ハ本署、支署又ハ出張所ニ在勤シ第四章ノ規定ニ依リ區内ヲ監視監督スヘシ

第五條 警察職員ノ配置定員ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 職務

第六條 警務部出張所支署及支署出張所所在勤ノ主任警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ内外ノ事務ヲ掌理シ其ノ統一ヲ圖リ其ノ他ノ警部ハ上官及主任警部ノ指揮ヲ受ケ内外ノ事務ヲ處理スヘシ

第七條 巡查部長ハ巡查以下ノ監督ヲ補助シ其ノ他上官ノ命ニ依リ服務スヘシ

第八條 巡查及巡捕ハ上官ノ命ヲ承ケ左ノ各號ニ依リ服務スヘシ

一 内勤巡查ハ書記、計算、調度、統計其ノ他ノ庶務ニ從事シ時宜ニ依リ外勤ノ事務ヲ補助ス

二 外勤巡查ハ警備、警衛、警邏、巡察、交通、戸口調査、犯罪捜査、諸取締其ノ他諸般ノ勤務ニ服ス

三 特務巡查ハ犯罪捜査其ノ他上官ノ命ニ依リ特別ノ勤務ニ服ス

四 巡捕ハ巡查ノ職務ヲ補助ス

第九條 外勤巡查ニハ各其ノ受持管區ヲ指定シ必要ニ應シ巡捕ヲ附屬セシム

外勤巡查ハ管區内ニ於ケル諸般ノ執行務ニ從事シ其ノ責ニ任ス但シ警邏又ハ二人以上ヲ要スル事項ハ共同ノ任務トス

第十條 巡查二人以上ヲ配置シアル警察官吏駐在所ニ在リテハ首席巡查其ノ甲乙二部ニ分チ勤務スル警察官吏駐在所ニ在リテハ各部首席巡查ヲ以テ取締トシ所内ノ取締ニ任ス但シ其ノ勤務ハ一般巡查ニ同シ

第十一條 巡查數人同時ニ職務ヲ執行スル場合ニ於テ監督者在ラサルトキハ首席巡查之ヲ指揮スヘシ

第三章 勤務

第一節 通則

第十二條 警察官吏ノ出勤時刻ハ一般官廳ノ出勤時刻ヨリ三十分間前トス

第十三條 警部ハ一般官廳ノ例ニ依リ退署スルコトヲ得但シ處分ヲ要スル事件アルトキハ時間ニ拘ラス之ヲ處理スヘシ

第十四條 巡查部長ハ日勤又ハ隔日勤務トシ日勤者ハ輪番宿直スヘシ

第十五條 内勤巡查ハ日勤トシ輪番宿直スヘシ

第十六條 特務巡查ハ一定ノ勤務時間ヲ設ケス上官ノ命ニ依リ勤務スヘシ

第十七條 警務部出張所、支署及支署出張所所在勤ノ外勤巡查ハ常務及豫備勤務トシ常務ハ甲乙二部

ニ分チ隔日勤務トス

第十八條 常務ハ警備、警衛、警邏、査察、檢疫、衛生、臨檢、諸般ノ執行務其ノ他ノ勤務トス

第十九條 豫備勤務ハ外勤員ノ缺勤ニ際シ其ノ補助勤務ニ服シ缺勤者アラサルトキハ適宜前條ノ勤務又ハ他ノ雜務ニ服スヘシ

第二十條 警察官吏派出所員ノ勤務ハ通常警邏警備ノ二種トシ一時間毎ニ交代シ二時間繼續ノ後一時間ノ休憩トス

第二十一條 隔日勤務ノ者ハ非番當日午前中戸口調査營業視察諸般ノ取調其ノ他ノ雜務ニ服スヘシ

第二十二條 警察官吏駐在所員ノ勤務ハ日勤トシ特ニ必要アル場合ノ外豫備員ヲ置カサルモノトス

第二十三條 日勤者ハ毎日八時間以上隔日勤務者ハ十四時間以上實務ニ服スヘシ但シ内勤ニ従事スル日勤者ノ勤務時間ハ事務ノ都合ニ因リ一般官廳ノ例ニ依リ退署スルコトヲ得

第二十四條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ遲參又ハ缺勤セントスルトキハ出勤時刻前ニ書面ヲ以テ届出ツヘシ

疾病ノ爲缺勤スルコト五日以上ニ涉ルトキハ五日毎ニ醫師ノ診斷書又ハ診斷簿ヲ添へ届出ツヘシ但シ轉地療養又ハ官立病院ニ入院中ハ此ノ限ニ在ラス

醫師ノ在ラサル地ニ在勤スル者ハ上官ノ認許ヲ經テ診斷書ヲ添へサルコトヲ得

第二十五條 勤務中疾病其ノ他ノ事故ニ因リ缺勤セントスルトキハ上官ノ認許ヲ受クヘシ

第二十六條 出張又ハ缺勤セントスルトキハ其ノ擔任事務ノ急ヲ要シ若ハ期限アルモノハ處分ノ見

込ヲ附シ上官ニ申告スヘシ

第二十七條 上官在署中ハ退署時刻ニ至ルモ退散スルコトヲ得ス但シ特ニ許可シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 非常事變其ノ他臨時勤務ヲ要スル場合又ハ上官ノ命アルトキハ時間ニ拘ラス勤務スヘシ

第二十九條 休暇非番其ノ他勤務時間外ト雖他出セントスルトキハ合宿者ニ在リテハ其ノ行先ヲ外出簿ニ記入シ散宿舎ニ在リテハ其ノ行先ヲ家族又ハ同僚ニ告知シ晝クヘシ其ノ一里以上ノ地ニ赴カントスルトキハ上官ノ認許ヲ受クルコトヲ要ス

第三十條 轉勤ヲ命セラレタルトキハ速ニ事務ノ引繼ヲ爲シ受命ノ日ヨリ警部ハ五日以内巡査部長以下ハ三日以内ニ出發赴任スヘシ但シ特命アル場合若ハ止ヲ得サル事故ノ爲認許ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 警務部出張所、支署、支署出張所及警察官吏派出在所ニハ別記第一號様式ノ勤務表ヲ備へ置キ勤務ニ服シタルトキハ内勤員ヲ除クノ外相當欄内ニ捺印スヘシ

前項ノ勤務表ハ警務部出張所、支署及支署出張所所在地在勤者ノ分ハ翌日其ノ他ハ翌月五日迄ニ所屬署又ハ出張所ニ進達シ檢閲ヲ受クヘシ

第二節 警邏

第三十二條 警邏ハ一定ノ線路ニ由リ警察上諸般ノ注意査察ヲ爲スモノトス

第三十三條 警邏線路ハ左ノ三種トス

- 一 所在地警邏線路 本署、支署、出張所及警察官吏駐在所所在地及其ノ附近ノ地ニシテ一時乃至二時間ノ行程ヲ限度トシ之ヲ定ムヘシ
- 二 村落警邏線路 往復三里以上一日以内ノ行程ヲ限度トシ之ヲ定ムヘシ
- 三 宿泊警邏線路 一日ノ行程ヲ以テ往復スルコト能ハサル線路ヲ謂フ
- 第三十四條 警務部出張所、支署出張所及警察官吏駐在所勤者ハ總員ヲ通シ左ノ各號ニ依リ警邏スヘシ
 - 一 本署所在地警邏線路 毎日六周以上
 - 二 支署及支署出張所所在地警邏線路 毎日四周以上
 - 三 駐在所所在地警邏線路 毎日二周以上
 - 四 村落警邏線路 毎日一回以上
 - 五 宿泊警邏線路 毎月一周以上
- 第三十五條 警察官吏派出所勤者ハ總員ヲ通シ左ノ各號ニ依リ警邏スヘシ
 - 一 派出所所在地警邏線路
 - （三人以上勤務） 十二回以上
 - （二人勤務） 八回以上
 - （一人勤務） 一周以上
 - 二 村落警邏線路 毎月六周以上
- 第三十六條 所在地警邏線路ハ警邏度數ノ三分ノ一以上村落警邏線路ハ警邏度數ノ五分ノ一以上夜間ニ於テ之ヲ爲スヘシ

- 第三十七條 警邏一周ト稱スルハ警邏線路全部ヲ巡行スルヲ謂ヒ一回ト稱スルハ一警邏線路ヲ巡行スルヲ謂フ
- 第三十八條 市街ニシテ雜沓ヲ極メ又ハ通行危險等ノ虞アル場所若ハ特別ノ事情アルトキハ立番ヲ以テ警邏ニ代フルコトヲ得
- 第三十九條 警邏線路中樞要ノ場所ニハ別記第二號様式ノ警邏票ヲ備ヘ置キ警邏ノ都度之ニ捺印スヘシ
 - 前項ノ警邏票ハ警務部出張所、支署、支署出張所及警察官吏派出所所在地ノ分ハ五日毎ニ其ノ他ハ毎月最終警邏ノ際之ヲ取纏メ所屬署又ハ出張所ニ進達シ檢閲ヲ受クヘシ
- 第三節 交通
- 第四十條 警務部出張所、支署、支署出張所及警察官吏駐在所間ニ於テハ其ノ狀況ヲ互報シ執務上ノ便宜ヲ圖ル爲交通ヲ行フヘシ
- 第四十一條 交通ハ別テ定期交通及臨時交通トス
 - 定期交通ハ毎月二回以上トシ臨時交通ハ其ノ必要ニ應ジ之ヲ行フモノトス
- 第四十二條 定期交通ハ隣接警察官吏駐在所間ノ中央地點ニ於テ警務部出張所、支署又ハ支署出張所ニ接近スル警察官吏駐在所ハ警務部出張所、支署又ハ支署出張所ニ於テ之ヲ行フ
- 冬季又ハ土地ノ狀況ニ依リ前項ノ規定ニ依ルヲ不便トスルトキハ適宜ノ地點ニ於テ之ヲ行フコトヲ得
- 第四十三條 定期交通ハ其ノ時刻ヲ誤ラス交通點ニ會合シ三十分以内ニ要務ヲ處辨シ歸途ニ就クヘシ

第四十四條 交通ノ際ハ勤務時間ノ都合ニ依リ警邏戸口調査營業視察其ノ他ノ要務ヲ執行スヘシ

第四章 監督巡視

第四十五條 監督官ハ常ニ部下ヲ督勵指導シ警察事務ノ舉否ニ付其ノ責ニ任ス

第四十六條 監督官ハ紀律ノ張弛服務ノ勤怠處務ノ整否及法令ノ實施、其ノ他部内ノ狀況ヲ視察スル爲巡視ヲ爲スヘシ

第四十七條 警務部出張所、支署及支署出張所駐在勤ノ主任警部ハ毎年二周以上其ノ所轄内ヲ巡視スルノ外毎月三回以上所在地ヲ巡視スヘシ

第四十八條 警務部出張所、支署及支署出張所駐在勤ノ警部(主任警部ヲ除ク)ハ全員ヲ通シ所在地ヲ毎日所在地外ヲ毎月各一周以上巡視スヘシ

第四十九條 警務部出張所、支署及支署出張所駐在勤ノ巡查部長ハ所在地ハ全員ヲ通シ其ノ他ハ各自左ノ各號ニ依リ巡視スヘシ但シ宿泊線路ノ巡視ハ二箇月毎ニ一回以上トス

一 本署所在地
派出所及其ノ經路
各警邏線路
 毎日二周以上
 毎日一周以上

二 支署所在地
派出所及其ノ經路(派出所アラサルトキ)
ハ主ナル經路
 毎日一周以上
 毎日一周以上

三 出張所所在地

同上

四 所在地外擔任監視區
駐在所及其ノ經路
各警邏線路
 毎月二周以上
 毎月一周以上

第五十條 警察官吏駐在所ニ駐在スル巡查部長ハ左ノ各號ニ依リ巡視スヘシ

一 駐在地
 毎日一周以上

二 駐在在外
各駐在所及其ノ經路
各警邏線路
 毎月二周以上
 毎月一周以上

監視區内ノ警察官吏駐在所一箇所ナルトキハ駐在地ハ毎日一周以上駐在在外ハ各警邏線路ヲ毎月二周以上巡視スヘシ但シ宿泊線路ノ巡視ハ毎月一回以上トス

第五十一條 巡視ノ際ハ執行務ノ成績ヲ監査スル爲隨時實地ニ臨檢スヘシ

第五十二條 巡視ノ際ハ其ノ巡視シタル經路ニ配置シタル巡邏票及警察官吏駐在所ノ日誌並勤務表ニ檢印スヘシ但シ日誌ニ檢印スルトキハ其ノ巡視シタル月日時ヲ記入スルコトヲ要ス

職務上注意又ハ指示シタル事項ハ訓授録又ハ日誌ニ記載シ捺印スヘシ

第五十三條 警部及巡查部長ハ各自監督日誌ヲ調製シ巡視シタル日時經路巡視ノ狀況其ノ他日常監督ニ關スル事項ヲ記載シ上官ノ檢閱ヲ受クヘシ

監督日誌ハ機密ノ取扱トス

第五十四條 警部及巡查部長ハ其ノ巡視シタル度數ヲ翌月三日マテニ警務部長又ハ支署長ニ報告ス

支署長ニ於テ受領シタル巡視報告書ハ檢閲ノ上翌月十日マテニ警務部長ニ移送スヘシ
附 則

土地ノ狀況ニ依リ此ノ規程ニ依ルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ具シ民政長官ノ認可ヲ受クヘシ
此ノ規程ハ明治三十九年四月十七日ヨリ施行ス
(別記様式ハ別ニ之ヲ頒ツ)

●關東洲民政署警察處務細則(明治三十九年四月十八日勅令第十號)(警務部)

關東洲民政署警察處務細則左ノ通相定ム

第一章 通則

- 第一條 民政署警務部出張所、支署及支署出張所ニ於テ管掌スル警察事務ハ別ニ規定アルモノノ外此ノ細則ニ依リ處理スヘシ
- 第二條 警察事務ハ其ノ必要ニ應ジ晝夜ヲ別タス之ヲ處理スヘシ
- 第三條 凡ソ事務ヲ處理スルニハ専ラ敏捷ヲ旨トシ其ノ期限ヲ誤リ又ハ機宜ヲ失スルコトナキヲ要ス
- 第四條 上官ノ命シタル期限内ニ處理スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ申出テ指揮ヲ受クヘシ
- 第五條 左ニ掲クル事項ハ主任警部親ラ掌理スヘシ但シ警務部長又ハ支署長親ラ處理スヘキモノハ

此ノ限ニ在ラス

- 一 高等警察ニ關スル事項
- 二 職員ノ進退賞罰ニ關スル事項
- 三 警察費及衛生費ノ經理並調度ニ關スル事項
- 四 其ノ他機密又ハ重要ナル事項
- 五 警部ニアラサル者支署長代理タルトキハ支署長ニ於テ特ニ命シタル場合ノ外機密ニ屬スル文書ハ封緘ノ儘主任警部ニ交付シ處理セシムヘシ
- 第六條 前條以外ノ事務ハ左ノ各號ニ依リ主任警部ニ於テ次席警部以下ノ擔任ヲ定メ警務部長又ハ支署長ニ報告スヘシ
- 第七條 第一分掌 警務ニ關スル事項
- 第八條 第二分掌 保安ニ關スル事項
- 第九條 第三分掌 衛生ニ關スル事項
- 第十條 第四分掌 司法警察及違警罪即決ニ關スル事項
- 第十一條 第六條 前條ニ依リ分掌ヲ定ムト雖事務ノ緩急ニ因リ互ニ之ヲ共助シ確實ニ其ノ進捗ヲ圖ルコトヲ要ス

第二章 處務

第十二條 凡ソ文書及事件ハ主任警部之ヲ接受シ内勤巡查ヲシテ別記第一號様式ノ收發件名簿ニ登錄セシメ親ラ處理スヘキモノノ外處分ノ方案ヲ示シ其ノ分掌者ニ配付シ認印ヲ徴スヘシ但シ親展文

書ハ別記第二號様式ノ文書送付簿ニ記載シ封緘ノ儘宛名ノ者ニ送付シ受領者ノ認印ヲ受ク
 第八條 親展文書ノ送付ヲ受ケタル者ハ別ニ收發件名簿ヲ備ヘ置キ前條本文ノ例ニ準シ之ヲ處理ス
 第九條 電報又ハ外國語ヲ以テ記載シタル文書ハ之ニ譯文ヲ附シ前二條ノ例ニ依リ處理スヘシ
 第十條 收受文書又ハ事件ニ金員又ハ物品ノ添屬スルモノハ別記第三號様式ノ金品收受簿ニ其ノ種
 類員數ヲ明記シ受領者ノ認印ヲ受クヘシ
 第十一條 人民ヨリ提出シタル諸願届書等ニシテ誤謬又ハ不備ノ廉アリト雖主意ニ相違ナキモノハ
 之ヲ受理シ若シ訂正ヲ要スルトキハ懇切ニ其ノ廉ヲ指示シ本人自書スルコト能ハサルトキハ代書
 スル等事ニ害無キ限リハ成ルヘク便宜ヲ與フヘシ
 第十二條 口頭ヲ以テ願届ヲ爲ス者アルトキハ特ニ本人ヨリ書面ヲ徵スル必要アル場合ノ外其ノ供
 述ヲ録取シ本人ヲシテ署名捺印セシメタル上前數條ノ例ニ依リ處理スヘシ
 第十三條 警務部出張所又ハ支署出張所ニ於テ受理シタル文書又ハ事件ハ其ノ所限リ處理スヘキモ
 ノノ外必要ノ調査ヲ遂ケ速ニ警務部又ハ支署ニ送致スヘシ
 第十四條 諸願届ニシテ急ヲ要セサルモノ及本人ヲシテ本署、支署又ハ出張所ヘ出頭セシムルノ必
 要ナキモノハ便宜警察官吏駐在所又ハ巡回中ノ警察官吏ニ於テ之ヲ接受スルコトヲ得
 第十五條 警察官吏駐在所ニ於テ前條ノ願届ヲ接受シタルトキハ日誌ニ其ノ件名及差出人ノ住所氏
 名ヲ登記シ其ノ文書ノ欄外ニ接受年月日ヲ記シ取扱者認印ノ上便宜ノ方法ヲ以テ警務部(大連市
 内ニ在リテハ警務部出張所)支署又ハ支署出張所ニ送致スヘシ但シ其ノ事件ニ依リ必要ト認ムル

トキハ意見書ヲ附シ又ハ實地臨檢ノ上實況書ヲ添付スルコトヲ要ス
 第十六條 各分掌ニ於テ文書又ハ事件ノ配付ヲ受ケタルトキハ即時處分案ヲ具シ關係書類ヲ添付シ
 關係係及分掌ニ合議ノ上主任警務部ヲ經テ決裁ヲ受クヘシ但シ急ヲ要スル事件ハ合議ヲ省略スルコ
 トヲ得此ノ場合ニ於テハ處分後關係係又ハ分掌ニ回覽スルコトヲ要ス
 第十七條 凡ソ文案ハ原議用紙ニ起草スルヲ例トス但シ輕易又ハ定例アルモノハ成ルヘク其ノ文書
 ノ餘白又ハ欄外ニ起草スルコトヲ要ス
 第十八條 諸願届諸表其ノ他ノ文書ニシテ添申ヲ要セサルモノハ其ノ文書ノ餘白又ハ欄外ニ接受又
 ハ發送年月日及番號ヲ記入シ支署長又ハ出張所主任警務部捺印ノ上進達スヘシ
 第十九條 本署、支署及出張所間ニ於ケル照會等ニシテ原書ノ保存ヲ要セサルモノハ其ノ餘白又ハ
 欄外ニ回答文ヲ記載シ返付スヘシ
 第二十條 送達先ノ同一ナル文書ハ成ルヘク合封スヘシ其ノ親展封書ヲ普通文書ニ合封シタルトキ
 ハ其封皮ニ親展書在中ト朱書スヘシ
 第二十一條 支署ヨリ進達スル文書ハ特ニ民政長官ノ親展ヲ要スルモノノ外警務部長又ハ警務部ニ
 送付スヘシ
 第二十二條 警察事務ニ關スル文書ハ總テ其ノ封皮ニ(警)印ヲ捺捺スヘシ其ノ親展文書ニハ(警)
 印ノ外(關)印ヲ捺捺シ高等警察ニ關スル文書ニハ(密)印ヲ捺捺スヘシ
 第二十三條 文書ヲ發送セントスルトキハ收發件名簿ニ登錄シ原議ト正本ニ契印スヘシ但シ電報ハ
 原議ト賴信紙ニ契印シ發送ノ後收發件名簿ニ登錄スルモノトス

第二十四條 電話ヲ以テ送達スル照會應答ハ電報ニ倣ヒ文案ヲ作り之ヲ朗讀シ受語者ハ之ヲ石板又ハ木板等ニ錄取シ互ニ照合ノ上別記第四號様式ノ受話用紙ニ改寫シ第七條ノ例ニ依リ處理スヘシ

第二十五條 事ノ輕易ナルモノ又ハ特ニ急ヲ要スル電報及電話ハ發送(送話)後ニ於テ文案ヲ作り若ハ之ヲ省略シ單ニ其ノ要領ヲ收發件名簿ニ登錄スルコトヲ得

第二十六條 主任警部ハ隨時收發件名簿ニ就キ事件ノ結末ヲ檢閲シ既決事件ニハ相當欄内ニ檢印スヘシ

第二十七條 警務部出張所、支署、支署出張所及警察官吏源出駐在所ハ別記第五號様式ノ日誌ヲ備ヘ置キ日日發生セル事件ノ要領ヲ記載シ執務上ノ參照ニ供スヘシ

第三章 文書整理

第二十八條 文書ハ警務部出張所、支署及支署出張所ニ在リテハ文書擔任者ヲシテ之ヲ整理セシメ警察官吏源出駐在所ニ在リテハ取締之ヲ整理スヘシ

機密又ハ會計ニ關スル文書ハ其ノ取扱者ニ於テ整理スヘシ

第二十九條 文書ノ種目及保存期限ハ別表ニ依ル但シ登載スヘキ事項又ハ編綴スヘキ文書ナキモノハ設備スルヲ要セス

法令ノ結果ニ因リ設備又ハ廢止ヲ要スルモノハ別表ニ追加若ハ削除セラレタルモノト見做ス

前項ニ依ルニアラスシテ別表以外ノ種目ヲ設ケントスルトキハ認可ヲ受クヘシ

第三十條 文書ハ其ノ事件結了マテ其ノ取扱者ニ於テ之ヲ保管シ結了ノ上終局ノ文書ヲ初葉トシ關

係文書ハ月日ノ順序ヲ正シテ之ヲ添屬シテ假綴スヘシ

第三十一條 假綴シタル文書ハ翌年二月會計ニ關スル文書ハ金庫閉鎖後ニ至リ主任警部又ハ警察官吏源出駐在所取締ニ於テ更ニ之ヲ檢閲シ別記第六號様式ニ依リ本綴トシ一定ノ場所ニ保存スヘシ

第三十二條 第二類ノ文書ハ各種一箇年又ハ一箇年度官報ハ一箇月分ヲ一冊トス但シ執務ノ便宜ニ依リ各分掌別トシテ其ノ紙數多キモノハ厚サ約三寸ヲ程度トシ之ヲ數冊ニ分チ其ノ少キモノハ保存期限ノ等シキモノニ合綴シ若ハ數年襲用スルコトヲ得

前項ニ依リ一種ヲ數冊ニ分チタルトキハ表紙ニ符號何冊ノ内一冊ヲ朱記シ數種ヲ合綴シタルトキハ種目ノ表紙ニ列記シ其ノ第一類ニアリテハ尙口座ヲ分チ見出シヲ付スヘシ

第三十三條 從タル文書ハ主タル文書ニ合綴スヘシ其ノ主從ノ別ナクシテ事件相關聯スルモノハ各別ニ編綴スヘシト雖將來參照ヲ要スルモノト認ムルトキハ欄外ニ關係文書ノ所在ヲ朱記スルヲ要ス

第三十四條 文書ノ索引ハ別記第七號様式ニ依リ其ノ編首ニ添付スヘシ索引ニ記載シタル文書ヲ拔取り又ハ變更シタルトキハ其ノ事由ヲ記入スヘシ

第三十五條 簿冊目錄ハ別記第八號様式ニ依リ之ヲ調製シ簿冊又ハ處分ノ都度之ニ記載スヘシ

第三十六條 文書ノ保存期限ハ其ノ事件ノ完結シタル翌年一月ヨリ起算ス

第三十七條 保存期限ノ經過シタル文書ハ其ノ目錄ヲ作り警務部長又ハ支署長ノ決裁ヲ經テ適宜ノ處置ヲ爲スヘシ

保存期限ノ經過シタル文書ト雖必要ト認ムルトキハ尙保存スルコトヲ得

第三十八條 本章ノ規定ハ高等警察及司法警察事務ニ關スル文書ニ之ヲ適用セス

附 則

此ノ細則ニ定ムルモノノ外ハ本署又ハ支署處務細則ニ依ル
(別記様式並文書種目表ハ別ニ之ヲ頒ツ)

●關東洲營業稅規則取扱規程(明治三十九年四月二日(財務省) 支署)

關東洲營業稅規則取扱規程左ノ通相定ム

關東洲營業稅規則取扱規程

- 第一條 營業稅規則ニ依リ納稅義務アリト認ムル營業者ニ對シテハ其ノ課稅標準ヲ調査シ之ヲ營業稅調查臺帳ニ登載スヘシ
- 第二條 營業稅課稅標準ハ會社ニ在リテハ貸借對照表營業報告等ニ依リ一個人ニ在リテハ店舖若ハ營業場ノ位置、貨物ノ集散、顧客出入ノ狀況、從業者ノ多寡、使用建物ノ大小廣狹、建造物及器具機械ノ種類精粗、所有船車ノ員數等ニ依リ勘案調査スルモノトス
- 第三條 營業稅課稅標準ノ調査ハ年稅ニ屬スルモノハ毎年一月二十日迄二月稅ニ屬スルモノハ毎月五日迄ニ結了スヘシ
- 第四條 營業稅課稅標準ノ調査ヲ結了シタルトキハ豫定稅額表ヲ調製シ民政長官ニ提出スヘシ但シ月稅ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 調査シタル課稅標準ニシテ他管内ニ於テ合算納稅スヘキモノニ付テハ其ノ事項ヲ第三條ノ

期限内ニ納稅地ノ所轄署ニ通報スヘシ

第六條 納稅義務ヲ有スル營業者ニ對シテハ申告期以前ニ於テ申告書付注意書ヲ配付スヘシ

前項ノ營業者申告期迄ニ申告セサルトキハ便宜ノ方法ヲ以テ一應申告方ノ催告ヲ爲スヘシ

第七條 營業稅規則第三條ノ申告アリタルトキハ課稅標準ヲ營業稅調查臺帳ニ對照シテ其ノ當否ヲ

査覈シ差異アルモノハ調査額ヲ以テ決定額トシ營業稅規則第六條ニ依リ其ノ課稅標準ヲ決定スヘシ但シ調査額ヲ審案シテ變更ノ必要アリト認ムルモノハ適當ト認ムル額ヲ以テ決定スルコトヲ

得

申告ヲ爲ササル者ニ對シテハ調査額ヲ以テ決定額トシ其ノ課稅標準ヲ決定スヘシ

第八條 課稅標準ノ決定ハ年稅ニ屬スルモノニ在リテハ一月三十日月稅ニ屬スルモノニ在リテハ其

ノ月十日以前ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ營業稅規則第三條第二項ノ場合ハ隨時之ヲ爲スヘシ

第九條 課稅標準ノ決定ヲ爲シタルトキハ速ニ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

第十條 營業稅賦課額確定シタルトキハ營業稅額表ヲ調製シ民政長官ニ提出スヘシ

業月數ヲ乘シテ十二分シ其ノ年ノ課稅額ト爲スモノトス

前項ノ稅金ハ之ヲ三分シ各納期ニ於テ徵收スヘシ開業ノ納期後ニ在ルモノハ其ノ經過シタル納期

ニ屬スル分ハ開業ノ際即時之ヲ徵收スヘシ

月稅ニ屬スルモノニシテ納期後開業シタルトキハ即時之ヲ徵收スヘシ

第十一條 廢業ノ申告アリタルトキハ事實ノ明確ナルモノヲ除クノ外便宜ノ方法ニ依リ之カ事實ヲ

- 精査シタル上處理スヘシ
- 第十二條 營業稅規則第九條ノ場合ニ於テハ年稅ニ屬スルモノニ在リテハ其ノ年ノ營業稅額ニ廢業迄ノ營業月數ヲ乘シテ十二分シ其ノ年ノ課稅額ト爲スモノトス
 - 第十三條 營業稅規則第十一條ノ申告アリタルトキハ舊店舖若ハ營業場ノ所轄署ヨリ課稅上必要事項ノ通報ヲ求メ之ヲ處理シ臺帳登錄濟ノ上ハ其ノ旨通報スヘシ
 - 第十四條 前條ノ場合ニ於テ未納ノ稅金アルトキハ轉入地所轄署ニ於テ其ノ稅金ヲ徵收スヘシ
 - 第十五條 營業稅ニ關スル書類ハ左ノ區分ニ從ヒ年稅ニ屬スルモノハ每年月稅ニ屬スルモノハ毎月之ヲ分類整理スヘシ
 - 一 課稅標準ノ申告額ヲ是認シタルモノ
 - 一 申告ノ課稅標準ヲ不相當ト認メ決定シタルモノノ決議書類
 - 一 課稅標準ノ申告ヲ爲ササル者ニ對シ課稅標準ノ決定ヲ爲シタル決議書類
 - 一 廢業ニ關スル書類
 - 一 轉出入ニ關スル書類
 - 一 營業稅規則第十條ニ據ル申告書類
 - 一 納稅管理人申告
 - 第十六條 營業稅ニ關スル帳簿通知書等ハ左ノ様式ニ依リ調製スヘシ
 - 一 營業稅調查臺帳 第一號様式

- 一 營業稅豫定額表 第二號様式
 - 一 營業稅臺帳 第三號様式
 - 一 營業稅額表 第四號様式
 - 一 營業稅課稅標準決定通知書 第五號様式
 - 一 申告書付注意書 第六號様式
- (様式略ス)

● 巡査巡捕被服屬具支給規程 (明治三十九年四月二日 第十六日訓令第十二號) (警務部、財)

巡査巡捕被服屬具支給規程左ノ通相定ム

巡査巡捕被服屬具支給規程

第一條 巡査及巡捕ニ支給スル被服屬具ハ給與品及貸與品ノ二種トス

第二條 給與品ノ名稱、員數及使用期限左ノ如シ

名稱	巡査ニ給與スル員數	巡捕ニ給與スル員數	使用期限
帽	一箇	一箇	一年
日覆	一箇	一箇	一年
夏衣袴	一著 <small>拜命當年二著 翌年以後一著</small>	一著 <small>拜命當年二著 翌年以後一著</small>	一年
冬衣袴	一著	一著	二年
外套雨覆附	一著	一著	二年

下襟	二	筒	四	月
手著	二	組	六	月
夏肌著	二	著	一	年
冬肌著	二	著	一	年
靴下	一	足	六	月
長靴	一	足	六	月

第三條 貸與品ノ名稱及員數左ノ如シ

帽	巡査ニ貸與スル員數	巡捕ニ貸與スル員數
刀	一	一
刀	一	一
手	一	一
捕	一	一
警	一	一

第四條 防寒被服、寢具、蚊帳ハ必要ニ依リ貸與スルコトアルヘシ但シ寢具、蚊帳ハ獨身者ニ限ル

但シ長靴ハ拜命ノ際現品一足ヲ支給シ其ノ使用期限ノ終リタル後ハ代價渡トス

下襟	自六月	每月額四錢
手著	自五月	每月額六錢
夏肌著	自五月	每月額三十錢
冬肌著	自五月	每月額三十錢
靴下	自五月	每月額二十錢
長靴	自五月	每月額九十錢

第五條 刑事專務ノ巡查ニ限リ帽、夏衣袴(一著分)冬衣袴、外套ヲ代價渡ト爲シ左ノ月額ヲ以テ月末之ヲ支給スルコトヲ得

帽	自六月	每月額十錢
夏衣袴	自五月	月額八十錢
冬衣袴	自五月	月額八十錢
外套	自五月	每月額六十錢

第六條 新任、退職、休職、死亡等ノ場合ニ於ケル給與品ノ代價渡ハ其月ノ現日數ニ依リ日割ヲ以テ支給スヘシ但シ厘位ヲ生シタルトキハ之ヲ切り捨ツルモノトス

第七條 被服着用ノ時期ハ左ノ區別ニ依ルヘシ但シ寒暖ノ程度ニ應シ紳縮スルコトヲ得

夏衣袴及日履 自六月一日起至九月三十日



冬 衣 袴

自十月一日起至五月三十一日

第八條 貸與品及使用期限ノ終ラサル給與品ハ退職、休職、轉職、死亡等ノ場合ハ之ヲ返納セシムヘシ

第九條 返納ニ係ル給與品ヲ交付スル場合ハ前使用ノ期間及現品ノ狀況ニ依リ適宜使用期限ヲ定ムヘシ

第十條 故意又ハ過失、怠慢ニ因リ貸與品又ハ使用期限ノ終ラサル給與品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任セシムヘシ

第十一條 貸與品又ハ使用期限ノ終ラサル給與品ヲ亡失毀損シタル者アルトキハ警務係主任ハ本人ノ手續書及之ヲ現認セシ監督者又ハ同行者ノ報告書ヲ徴シ其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ付シ警務部長又ハ支署長ニ具申スヘシ

第十二條 警務部長又ハ支署長ハ前條ノ場合ニ於テ辨償ノ責ニ任セシムヘキモノト認ムルトキハ一件書類ヲ添ヘ之ヲ民政長官ニ具申スヘシ但シ必要ト認ムルトキハ豫メ本人又ハ遺族若ハ其ノ代理者ヨリ相當價格ヲ假納セシムルコトヲ得

第十三條 警務部長又ハ支署長ハ第十一條ノ場合ニ於テ故意又ハ過失、怠慢ニ出テタルモノニ非ラスト認ムルトキハ辨償ヲ免除シ之ヲ民政長官ニ報告スヘシ

第十四條 本令ニ依ル支給金額ハ銀計算トス

第十五條 本令ハ明治三十九年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

本令ハ明治三十九年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 本令施行ノ際既ニ現品ヲ以テ支給シタル第四條ノ給與品ニ對シテハ其ノ使用期限ヲ終ルマテハ代價渡ヲ爲スコトヲ得ス
第十七條 警務部長ハ當分ノ内在庫品ノ都合ニ依リ第四條ノ給與品ヲ適宜現品ヲ以テ支給スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ前條ニ準ス
第十八條 本令施行前ニ於テ給與品ノ未渡ニ係ルモノアルモ本令施行前ニ溯リ其ノ代價渡ヲ請求スルコトヲ得ス

◎告示

●大連灣出入船舶及渡航者規則(明治三十八年八月二十八日陸軍省告示第十七號)

大連灣出入船舶及渡航者規則左ノ通相定ム

大連灣出入船舶及渡航者規則

第一條 本規則ハ大連灣ニ出入セムトスル船舶及同地渡航者ニ關スル事項ヲ規定スルモノトス

第二條 出入船舶ハ日本船舶ニ限ル

第三條 渡航者及出入船舶ノ船員ハ日本臣民ニ限ル但シ陸軍大臣又ハ大連灣ヲ管轄スル軍衙ニ於テ特ニ認許シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 左ニ掲タル者ハ渡航スルコトヲ得ス

一 豫戒令施行中ノ者
二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者及家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得

サル者
 三 剝奪公權者及停止公權者
 四 一定ノ生業ナキ者
 第五條 渡航者ハ上陸後直ニ本籍地若ハ居住地ノ地方官廳ニ於テ調製セル身元證明書及戸籍謄本ヲ添ヘ關東洲民政署ニ届出ツヘシ
 第六條 出入船舶及渡航者ハ大連灣ヲ管轄スル軍衛ノ規則及命令ヲ遵守スヘキモノトス
 大連灣ヲ管轄スル軍衛ハ必要ニ應ジ船舶ノ出入及渡航者ノ上陸ヲ禁シ船舶若ハ渡航者ヲ抑留シ又ハ之ニ退去ヲ命スルコトアルヘシ

附 則
 明治三十八年一月陸軍省告示第一號大連灣出入船舶及渡航商人規則ハ之ヲ廢止ス
 前項規則ニ依リ許可ヲ受ケ未タ渡航セサル者ハ其ノ許可證ヲ以テ第五條ノ身元證明書ニ代フルコトヲ得

●關東洲民政署開設ノ件(明治三十八年六月二十三日告示無號)

今般本長官ハ上官ノ奏請ヲ經テ當大連ニ來任シ關東洲即普蘭店ヨリ皮子窩ニ至ル以南ノ地方ヲ管轄スヘキニ付民政署ヲ大連市ニ置キ金州、旅順ニ支署ヲ設ケ從前ノ軍政署事務ヲ以テ新設ノ各署ニ引繼キ地方事務ヲシテ滯滞ナカラシム依テ一般人民ハ我朝廷ノ生命財產ヲ庇護セラルルノ誠意ヲ仰體シテ各其本業ニ安シ決シテ心得違無之様特ニ申聞置ク

モノナリ

●大連商品陳列館規則(明治三十八年七月三十日告示第二號)

大連商品陳列館規則左ノ通相定メ明治三十八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

大連商品陳列館規則

- 第一條 本館ヲ大連商品陳列館ト稱ス
- 第二條 本館ヲ大連市ニ置ク
- 第三條 本館ハ關東洲民政署民政長官之ヲ監督シ商品ヲ陳列シ即賣セシムルヲ以テ目的トス
- 第四條 關東洲又ハ其ノ以北ニ於テ居住營業ノ許可ヲ得未タ店舗ヲ有セサル内地商人ニ非サレハ本館陳列人タルヲ得ス
- 第五條 本館ニ商品ヲ陳列セントスル者ハ書面ヲ以テ關東洲民政署民政長官ニ願出ヘシ
前項ノ書面ニハ營業許可書店舗開設ノ目論見書及陳列スヘキ商品ノ原產地又ハ内地ニ於ケル住所所在地ノ商業會議所又ハ同業組合ノ價格證明書ヲ添附スヘシ但シ此規則施行ノ際ニ限リ官ノ許可ヲ得タル者ハ此ノ限ニアラス
- 第六條 陳列ノ許可ヲ受ケタル者ハ直ニ館長指定ノ場所ニ其ノ商品ヲ陳列シ及店舗開設ノ準備ヲナスヘシ
- 第七條 陳列人ニシテ店舗ヲ開設シタルトキハ直ニ其ノ商品ヲ本館ヨリ撤去スヘシ
- 第八條 危險ノ虞アルモノ、風俗ニ害アルモノ、其ノ他公安ニ害アリト認ムルモノ又ハ他ノ商品ヲ汚

第四條 貸下ノ許可ヲ受ケタル者ハ許可ノ日ヨリ五日以内ニ販賣店ニ在リテハ二箇月分附屬地ニ在リテハ四箇月分ノ貸下料ニ相當スル金額ヲ保證金トシテ納付シ貸下料ハ毎月五日迄ニ當月分ヲ納付スヘシ

第五條 貸下期間ハ滿一箇年トシ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル但シ必要ニ應ジ臨時許可スルコトアルヘシ此場合ニ於テモ亦其期間ハ三月三十一日ニ終ルモノトス

第六條 貸下ヲ受ケタル者ハ之ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス又販賣店ニ在リテハ現狀ニ變更ヲ來スヘキ何等ノ施設ヲ爲スコトヲ得ス又附屬地ニ在リテハ露店ヲ設クルノ外一切ノ永久的設備ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 市場貸下料、市場營業ノ種目、開場ノ時間及取締ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第八條 本規程又ハ本規程ニ基キテ定メタル事項ニ違反シタル者ハ貸下ノ許可ヲ取消シ損害ヲ賠償セシムルコトアルヘシ

前項賠償金ハ保證金ヲ以テ之ニ充テ尙不足アルトキハ之ヲ追徴ス

第九條 本市場ニ於テ販賣スル商品ハ左ノ五種類トス

- 一 雜貨
- 二 魚類
- 三 野菜
- 四 鳥獸肉
- 五 日用食料品

第十條 販賣店ハ貸下許可ノ日ヨリ一週間内ニ開店セサル時ハ貸下ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十一條 販賣店又ハ附屬地ノ貸下區劃ヲ返納セントスル者ハ速ニ貸下料ヲ完納シ返納願ヲ差出スヘシ

●大連市市場貸下料(明治三十八年八月)(明治三十九年四月十二日告示第(四)日告示第五號)(二十二號ヲ以テ本告示中改正)

大連市市場貸下料左ノ通相定ム

大連市市場貸下料

販賣店 一區劃ニ付 一 一箇月銀十五圓
二 一箇月銀十圓

但シ隣接袋區合併ノ區劃ニ限リ別ニ一箇月銀五圓ヲ加フ

附屬地 一區劃ニ付 一 一箇月銀二圓

●大連市市場設置竝開始ノ件(明治三十八年八月)(四日告示第六號)

大連市市場ヲ信濃町ニ設置シ明治三十八年八月十五日ヨリ之ヲ開始ス同市場販賣店又ハ附屬地ノ貸下ヲ受ケントスル者ハ來ル八月十三日迄ニ本年告示第四號大連市市場貸下規程第二條ノ願書ヲ提出シテ許可ヲ受クヘシ

●常盤公園內地區貸下規程(明治三十八年八月)(四日告示第七號)

常盤公園内地區貸下規程左ノ通相定ム

常盤公園内地區貸下規程

第一條 園内地區ノ貸下ヲ受ケテ營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シテ關東洲民政署ニ願出ツ

ヘシ

一 貸下地區ノ番號

二 使用期限

三 營業ノ種目

四 建造物ノ平面圖及建築材料

五 願入ノ氏名、年齢、原籍、住所及職業

六 代理人ヲ以テ營業ヲ爲サシムル者ニ在リテハ代理人ノ氏名、年齢、原籍、住所、職業及代理委任

狀

第二條 前條ノ許可ヲ受ケタル者ハ貸下料ヲ納付スヘシ

第三條 地區割ハ別紙附圖ノ示ス所ニ依ル但シ地區以外ト雖モ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第四條 地區貸下料及營業ノ種目ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第五條 地區貸下期間ハ六箇月ヲ以テ最短期限トス但シ常設ニアラサル興行物ニ在リテハ此ノ限ニ

アラス

第六條 地區貸下料ハ許可ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ二箇月分ヲ前納シ三箇月目ヨリ其ノ月五日

迄ニ當月分ヲ納付シ前條但書ノ場合ニ在リテハ地區貸下ノ許可ヲ受ケタル當日之ヲ完納スヘシ、

第七條 既に納付シタル地區貸下料ハ如何ナル事由アルモ之ヲ還付セス

第八條 左ノ場合ハ園内ヨリ徹退ヲ命ス

一 官ニ於テ必要ヲ生シタルトキ

二 許可ヲ取消シタルトキ

三 本規程又ハ本規程ニ基キテ規定シタル事項ニ違背シタルトキ

第九條 貸下地區ハ一人一地區ニ限ルモノトス但シ營業ノ種目ニ依リ特ニ一人一地區以上ヲ貸下ク

ルコトアルヘシ

第十條 貸下ヲ受ケタル地區ハ他ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十一條 園内營業者ハ警察及營業ニ關スル一般ノ規定ヲ遵守スヘシ

第十二條 園内營業者ハ各借地區毎ニ一個以上ノ街燈ヲ點スヘシ

第十三條 園内營業者ハ各自ノ借地區ハ勿論隣接セル空地及遊歩地區ハ共同掃除ニ任スル義務アル

モノトス

第十四條 園内營業者ハ園内ノ風致ヲ損セサルコトニ注意シ且草木ノ生育ヲ害スルカ如キ所爲アル

ヘカラス

第十五條 第八條ノ各號ニ該當シタルトキ若ハ貸下期間ノ滿了又ハ借受人ノ便宜ニ依リ借下地ヲ返

納セントスルトキハ地形ヲ原狀ニ復セシメ其ノ旨届出テ關東洲民政署ノ指揮ヲ受クヘシ但シ許可

ヲ得テ地區内ノ建造物ヲ他ニ讓與シタル場合ハ此ノ限ニアラス

●常盤公園内地區貸下料(明治三十八年八月)

常盤公園内地區貸下料左ノ通相定ム

常盤公園内地區貸下料

- 一 一坪一箇月ニ付銀二十錢
- 二 常設ニアラサル興行物ハ一坪一日ニ付銀五錢

●常盤公園内地區貸下開始(明治三十八年八月)

明治三十八年八月十一日ヨリ常盤公園(舊松林公園)内地區ノ貸下ヲ開始ス之カ貸下ヲ受ケントスル者ハ來ル八月八日迄ニ本年告示第七號常盤公園内地區貸下規程第一條ニ依ル願書ヲ提出シテ許可ヲ受クヘシ

●大連市市場取締規程(明治三十八年八月)

大連市市場取締規程左ノ通相定ム

大連市市場取締規程

- 第一條 市場營業者ハ警察及營業ニ關スル一般ノ規定及關東洲民政署ノ命令ヲ遵守スヘシ
- 第二條 市場營業者ハ各自ノ借地區ハ各自ニ其ノ附近地及道路ハ共同ニテ小破修繕及掃除ニ任シ且構内設置ノ軒燈ニ點火スル義務アルモノトス

第三條 市場開閉ノ時間ハ日出ヨリ日没マテヲ例トス

第四條 市場營業者ハ内地人清國人各別ニ一名宛ノ市場取締人ヲ選舉スヘシ

市場取締人ニ當選シタル者ハ遲滞ナク關東洲民政署ニ届出ツヘシ

第五條 市場取締人ハ各自營業人ニ關シ市場一般ノ取締ヲ爲スノ外官衙ノ命令ヲ傳達シ及官衙ニ對スル申請届出其ノ他諸般ノ事務ヲ周旋シ且官衙ヨリ市場ノ狀況ニ關シ取調ヲ命セラレタルトキハ遲滞ナク之ヲ報告スヘシ

第六條 市場取締人ノ任期ハ三箇月トス但シ重選ヲ妨ケス

第七條 市場營業者必要ニ依リ組合規約等ヲ設クル場合アルトキハ豫メ關東洲民政署ニ届出許可ヲ受クヘシ

●大連市私用苦力及馬車賃(明治三十八年八月)

私用ノ爲メ大連市ニ於テ雇傭スル苦力及馬車賃左ノ通相定ム

大連市私用苦力及馬車賃

- 一 苦力 一人一日 銀五十五錢以下
- 一 馬車 一輛一日 銀三四以下

前項ニ違反シ雇入レヲ爲シタル者及其ノ雇入レニ應シタル者ハ違警罪目ニ依リ處分ス

●大連市ヲ號地區割改正(明治三十八年八月)

(明治三十八年八月二日告示第十二號)

大連市チ號(信濃町浪速町磐城町及岩代町間)地區割ヲ別紙圖面ノ通改正ス但シ別紙圖面ハ本署庶務部ニ就キ閱覽スヘシ

●大連市ム、ウ、キ、ノ、才號地區割(明治三十八年九月一日告示第十三號)

大連市中左記ノ箇所地區割別紙圖面ノ通相定ム但シ別紙圖面ハ本署庶務部ニ就キ閱覽スヘシ
大連市越後町攝津町近江町能登町間ム號地區ノ一部
同 能登町攝津町近江町對馬町間ウ號地區ノ一部
同 近江町越後町能登町若狹町間非號地區ノ一部
同 近江町能登町對馬町若狹町間ノ號地區ノ全部
同 近江町對馬町壹岐町若狹町間才號地區ノ全部

●貨物輸入陸揚其ノ他ニ關スル證明手数料(明治三十八年九月一日告示第十四號)

貨物輸入陸揚其ノ他ニ關スル證明手数料左ノ通相定ム

種別
貨物輸入陸揚證明 手数料額
一件ニ付銀一圓
其ノ他ノ證明 一件ニ付銀五十錢

●大連市第三區タ號地區割改正(明治三十八年九月十日告示第十五號)

大連市第三區タ號(美濃町信濃町及浪速町四丁目間)地區割別紙圖面ノ通改正ス但シ別紙圖面ハ本署庶務部ニ就キ閱覽スヘシ

●大連市第三區ヨ號地區割改正(明治三十八年九月十一日告示第十六號)

大連市第三區ヨ號(信濃町伊勢町吉野町三丁目及浪速町四丁目間)地區割別紙圖面ノ通改正ス但シ別紙ハ本署庶務部ニ就キ閱覽スヘシ

●大連市第三區ナ號地區割改正(明治三十八年十月八日告示第十九號)

大連市第三區ナ號(西通二丁目佐渡町越後町但馬町間)地區割別紙圖面ノ通改正ス但シ別紙圖面ハ本署庶務部ニ就キ閱覽スヘシ

●大連市第三區ラ號地區割(明治三十八年十月八日告示第二十號)

大連市第三區ラ號(但馬町越後町近江町間)地區割別紙圖面ノ通相定ム但シ別紙圖面ハ本署庶務部ニ就キ閱覽スヘシ

●本署直轄內北沙河口外二十四箇村貸地規程(明治三十八年十月十一日告示第二十二號)

本署直轄內北沙河口外二十四箇村貸地規程左ノ通相定ム
本署直轄內北沙河口外二十四箇村貸地規程



第一條 本署直轄内北沙河口外二十四箇村借地人ハ貸地臺帳記載ノ定額ニ依リ貸地料ヲ納ムヘシ
 第二條 貸地料收納ノ期限ハ毎年五月十一月ノ兩期トシ各貸地料ノ半額ヲ納付セシム
 村長ハ右期限後二日以内ニ村内ノ貸地料金ヲ取纏メ之ヲ官ニ完納スルノ責アルモノトス
 借地人中貸地料滞納者アリ又ハ貸地料金額ニ缺損アル場合ハ當該村長及各借地人連帶シテ之ヲ完納スヘシ
 第三條 借地人貸地料滞納ノ場合ハ官ハ何時ニテモ之ヲ取上ケ又ハ他人ニ貸下クルコトアルヘシ
 第四條 借地人ハ貸下地ヲ他ニ轉貸シ又ハ賣買讓與質入書入等ヲ爲スコトヲ得ス
 第五條 借地人ハ官ノ許可ヲ得スシテ地目ノ變換ヲ爲スコトヲ得ス
 第六條 借地荒地成ノ場合ハ速ニ村長ヨリ之ヲ本署ニ届出ツヘシ
 第七條 借地人死亡並相續等ノ事由ヲ生シタルトキハ村長ハ新舊借地人ノ姓名ヲ具ニシ之ヲ本署ニ届出ツヘシ
 第七條 村長ハ貸地料ノ徵收ニ關シ名義ノ何タルヲ問ハス借地人ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス
 第八條 明治三十八年度ニ限リ十二月ヲ以テ貸地料金額ヲ納付セシム
 第九條 此ノ規程中ノ北河口外二十四箇村ノ村名ハ別表ニ依ル
 (別表)
 本署直轄内北沙河口外二十四箇村村名表
 村名

北沙河口、馬欄屯、南沙河口、台山前、下甸子、李家屯、鄭家屯、三椿柳、車家駝、北甸子、香爐礁、馬家溝、王家屯、劉家屯、大嶺前、傅家庄、老虎灘、轉山頭、棒樺島、北崗子、南崗子、商家屯、黃家屯、小崗子、寺兒溝、

●大連市第三區ト號地區劃改正(明治三十八年十月十日 告示第二十三號)

大連市第三區ト號(岩代町磐城町信濃町間)地區劃別紙圖面ノ通改正ス但シ別紙圖面ハ本署庶務部ニ就キ閱覽スヘシ

●大連旅順間鐵道乘車及貨物輸送規程廢止(明治三十八年十月二日 告示第二十五號)

明治三十八年九月告示第十七號ハ本月二十日限廢止ス

●旅順口港則、軍罰規則並大連灣港則平和克復後繼續施行(明治三十八年十月二十日 告示第二十六號)

旅順口港則、軍罰規則並大連灣港則ハ平和克復後ト雖繼續施行セララル旨其ノ筋ヨリ通知アリタリ

●大連商品陳列館開館(明治三十八年十月二十日 告示第二十七號)

大連商品陳列館ハ來ル十一月一日ヨリ開館ス但シ本年告示第二號大連商品陳列館規則第四條及第七條ノ規程ニ拘ラス陳列ヲ許可スルコトアルヘシ

●大連商品陳列館陳列料(明治三十八年十月二十)

大連商品陳列館陳列料左ノ通相定ム

大連商品陳列館陳列料

一區 一箇月ニ付 銀八圓

●大連市ク、ヤ號地區割(明治三十八年十月三)

大連市中左記ノ箇所地區割別紙圖面ノ通相定ム但シ別紙圖面ハ本署庶務部ニ就キ閱覽スヘシ

- 一 越後町、能登町、西公園町、若狹町間ク號地區
- 一 能登町、對馬町、西公園町、若狹町間ヤ號地區

●大連市第三區リ號地區割改正(明治三十八年十月三)

大連市第三區リ號(信濃町、岩代町、磐城町及西通二丁目間)地區割別紙圖面ノ通改正ス但シ別紙圖面ハ本署庶務部ニ就キ閱覽スヘシ

●大連市第三區カ號地區割改正(明治三十八年十一月)

大連市第三區カ號(美濃町、信濃町及浪速町四丁目)地區割別紙圖面ノ通改正ス但シ別紙圖面ハ本署庶務部ニ就キ閱覽スヘシ

●大連市第二區ハ號地區割改正(明治三十八年十一月十)

大連市第二區ハ號(吉野町浪速町大山通羽前町間)地區割別紙圖面ノ通改正ス但シ別紙圖面ハ本署庶務部ニ就キ閱覽スヘシ

●大連市第三區ヘ號地區割改正(明治三十八年十一月十)

大連市第三區ヘ號(伊勢町磐城町岩代町及浪速町間)地區割別紙圖面ノ通改正ス但シ別紙圖面ハ本署庶務部ニ就キ閱覽スヘシ

●樹木伐採禁止(明治三十八年十二月十)

山地ノ林木路傍ノ竝木並寺廟公園苗圃墓地ノ内外等ニ生育スル一切ノ樹木ハ其ノ官有タルト民有タルトヲ問ハス官ノ許可ヲ得スシテ之ヲ伐採スルコトヲ嚴禁ス

●各戸門標掲出方(明治三十八年十二月二)

大連市居住者ハ各戸ニ門標ヲ掲出スヘシ但シ其ノ雛形ハ左ノ如シ
(雛形略ス)

●大連市第三區ハ號地區割改正(明治三十八年十二月二)

大連市第三區ハ號(浪速町三丁目大山通一丁目駿河町愛宕町及伊勢町間)地區割別紙圖面ノ通改正ス但シ別紙圖面ハ本署庶務部ニ就キ閱覽スヘシ

●遊廓地設定並命名(明治三十八年十二月二日告示第三十八號)

大連市外東南溝ニ於ケル別紙圖面ノ地區ヲ遊廓地ト定メ之ヲ逢坂町ト稱ス但シ圖面ハ本署庶務部ニ就キ閱覽スヘシ

●大連市第二區乙號地區割改正(明治三十八年十二月二日告示第三十九號)

大連市第二區乙號(浪速町二丁目大山通二丁目奥町一丁目及愛宕町間)地區割別紙圖面ノ通改正ス但シ別紙圖面ハ本署庶務部ニ就キ閱覽スヘシ

●大連市第三區口號地區割改正(明治三十八年十二月二日告示第四十號)

大連市第三區口號(吉野町伊勢町浪速町大山通間)地區割別紙圖面ノ通改正ス但シ別紙圖面ハ本署庶務部ニ就キ閱覽スヘシ

●軍用手票ノ交換受入及内地向ケ爲替價格(明治三十九年一月一日告示第一號)

明治三十九年一月一日以降軍用手票ノ交換受入及内地向ケ爲替ノ受入ハ其ノ價格ヲ九十六錢トシ軍人軍屬ニ對スル分ハ凡テ從前ノ通トスル旨其ノ筋ヨリ通知アリタリ

●大連市第三區ニ號地區割改正(明治三十九年一月七日告示第二號)

大連市第三區ニ號(西通一丁目伊勢町駿河町佐渡町間)地區割別紙圖面ノ通改正ス但シ別紙圖面ハ本署庶務部ニ就キ閱覽スヘシ

●鐵嶺ニ於テ土地家屋借受方ノ件(明治三十九年一月十三日告示第三號)

關總副政第六四號關東總督府管内渡航者旅行取締規則ニ據リ旅行スル者ニシテ他日鐵嶺ニ居住スルノ目的ヲ以テ土地家屋ヲ借受ケントスル者ハ鐵嶺居住本邦人取締規定第二章第八條ノ趣旨ニ準シ鐵嶺軍政署ニ届出テ承認ヲ受クルコトニ定メタル旨鐵嶺軍政署ヨリ通知アリタリ

●撫順ニ本邦人ノ居住營業許可(明治三十九年一月十五日告示第四號)

本月十日ヨリ撫順ニ本邦人ノ居住營業ヲ許可スルコトニ定メラル

●本邦人ニシテ新民ニ居住營業ノ件(明治三十九年一月十五日告示第五號)

本邦人ニシテ新民ニ居住營業ヲ爲サムトスル者ニ限リ自今新民軍務官ニ於テ認可ヲ與フルコトニ定メラル

告示

一五二

●小崗子遊廓地域(明治三十九年一月)

大連市外小崗子村ニ於ケル別紙圖面ノ地域ヲ小崗子遊廓ト稱シ支那人ニ限り貸座敷營業ヲ許可ス但シ地域ハ別ニ標木ヲ以テ指定シ圖面ハ本署警務部ニ就キ閱覽スヘシ

●大連市内五箇所ニ掘抜井戸ヲ設ケ公衆ノ使用許可(明治三十九年一月)

大連市内隱岐町奥町信濃町(二箇所)ノ五箇所ニ掘抜井戸ヲ設ケ公衆ノ使用ヲ許可シタリ

●横濱正金銀行牛莊支店ニ於テ一覽拂手形發行ノ件(明治三十九年一月)

軍用手票ノ回收整理ニ關シ左ノ通關東總督ヨリ告示セラレタリ
横濱正金銀行ハ從來上海天津牛莊等ニ於テ諸般取引ノ便利ノ爲メ銀ト引換ヘキ一覽拂手形ヲ發行シ來リシカ右ハ各種ノ公納其他商業上銀貨同様ニ使用セラレ流通回滑ニシテ金融ノ疏通ニ資スル處多ク大ナリシハ業ニ已ニ普テク人ノ知ル所ナリ茲ニ滿洲ノ地戰争ノ區トナリシニ際シ日本軍隊ハ主トシテ軍用手票ヲ使用セシヲ以テ横濱正金銀行牛莊支店ニテハ一時一覽拂手形ノ發行ヲ見合ハセシモ今ヤ平和回復シ滿洲ハ茲ニ全ク安靖ニ歸シ商務モ亦正ニ舊日ノ旺盛ヲ見ントス而シテ漸次軍隊ノ裁撤セララルニ從ヒ軍用手票モ亦之ト伴フテ交換回收セララルヘキヲ以テ横濱正金銀行牛莊支店ハ再ヒ一覽拂手形ヲ發行シ舊ノ如ク商務ノ便ニ供シ益々滿洲貿易ノ發達ニ資スル所アラントス右一覽拂手形

ハ日本政府ノ認許ヲ得テ發行シ銀貨ヲ準備シ隨時交換ノ用ニ供スルモノナルヲ以テ汝等人民ハ之ヲ信用シ軍用手票ト同一ニ公私一般ノ取引ニ受授通用シテ毫モ疑アルヘカラス若シ夫レ奸誦ノ徒妄リニ浮説ヲ流布シ流通ヲ妨害シ以テ利ヲ博セントスルモノアラハ立トコロニ嚴罰ニ處シテ決シテ假借セサルヘシ各遵奉シテ違フ勿レ特ニ示ス

●殘留財產調査ノ爲渡航者取締規則(明治三十九年一月)

關東總督府管内殘留財產調査ノ爲渡航者取締規則左ノ通定メラレタリ

殘留財產調査ノ爲メ渡航者取締規則

- 第一條 關東洲其他關東總督管轄内各地退去ノ際同地ニ殘留シタル私有財產ノ所有者又ハ其代理人ニシテ陸軍省ノ渡航許可證ヲ携帶シ大連又ハ旅順ニ渡航スル者ハ本規則ニ依リ其財產ノ調査處分又ハ搬出ヲ爲スコトヲ得
- 第二條 渡航者中旅順ニ財產ヲ殘留シタル者ハ同地民政支署ニ其他ノ各地ニ財產ヲ殘留シタル者ハ大連民政署ニ對シ到着後二十四時間内ニ本人及ヒ伴行者ノ國籍、氏名、年齢、職業、住所及其宿所並ニ渡航ノ事由ヲ記載シタル書面ニ陸軍省ノ渡航許可證寫ヲ添ヘ届出ツヘシ
- 第三條 渡航者ハ大連又ハ旅順ノ市内ニ滞在スヘク財產ノ調査上市外ニ出ツルノ必要アルトキハ民政署又ハ民政支署ノ許可ヲ受クヘシ
- 第四條 退去ノ際保管者ヲ定メテ殘留シタル私有財產ニシテ軍需ニ收集保存シアルモノハ其所有者

告示

一五三

又ハ代理人ニ於テ本規則發布ノ日ヨリ八ヶ月以内ニ同財産ノ交付ヲ願出ル者ニ限リ民政署又ハ民政支署ニ於テ之ヲ還附ス

第五條 前條ノ願書ニハ日本文ヲ以テ其財産ノ品目性質數量及價格並ニ殘留ノ場所及月日ヲ詳記シ旅順ニ在リテハ同地民政支署ニ大連其他ニ在リテハ民政署ニ提出スヘシ但シ渡航者ニシテ財産所有者ノ代理人ナルトキハ本人ノ委任狀ヲ願書ト共ニ提出スヘク同委任狀其他原文ノ提出ヲ要スルモノハ日本文ノ翻譯ヲ添附スヘシ

前項ノ場合ニ於ケル用語ハ止ムヲ得サルモノハ英語又ハ佛語ト爲スコトヲ得

第六條 殘留財産ノ處分及搬出ニ就テハ總テ軍衙ノ指揮命令ヲ遵守スヘシ

第七條 殘留財産ノ調査處分若クハ搬出ニ要スル滞在期間ハ一ヶ月ヲ超ユルヲ得ス但シ時宜ニ依リ民政長官ハ其期間ヲ伸張スルコトアルヘシ

●軍票ノ價格ハ時價ニ依ルノ件(明治三十九年二月一日告示第十號)

軍票ヲ以テスル本邦向ケ爲替及交換ノ受入價格ハ自今時々ノ相場ニ依ルコトニ定メラレタリ但シ軍人軍屬ニ對スル分ハ從前ノ通九十錢トス

●殘留財産ノ調査處分及搬出ニ關スル手續(明治三十九年二月二日告示第十一號)

殘留財産ノ調査處分及搬出ニ關スル手續左ノ通定メラル

殘留財産ノ調査處分及搬出ニ關スル手續

第一條 本規則ハ關東總督府管内ニ於テ調査處分又ハ搬出ヲ爲サムトスル殘留物件ノ所有者又ハ其代理人並殘留物件ヲ搬出スル爲旅順又ハ大連ニ渡航スル船舶及乗組員ニ之ヲ適用ス

第二條 殘留物件ノ調査處分又ハ搬出ヲ爲サムトスル者ハ其所有者又ハ代理人ヨリ豫メ日本文ヲ以テ同物件ノ品目、數量及價額並殘留ノ場所及年月日ヲ詳記シタル書面ヲ旅順ニ在リテハ同地、民政支署、大連ニ在リテハ民政署ヲ經テ整理委員長ニ提出スヘシ

前項ノ書面ハ已ムヲ得サレハ日本文ニ代フルニ英文又ハ佛文ヲ以テスルコトヲ得

第三條 陸軍省ノ許可ヲ得タル船舶ニシテ旅順ニ入港シタルトキハ旅順口鎮守府及同地、民政支署ニ、大連ニ入港シタルトキハ大連灣防備隊及民政署ニ對シ到着後二十四時間以内ニ船舶所有者若ハ船長ヨリ渡航ノ目的、船名、船籍、噸數、船員其他乗組員ノ名簿、發航及歸航ノ港灣並發航ノ年月日ヲ記載シタル書面ニ陸軍省ノ渡航許可證寫ヲ添エ届出テ其指揮ヲ受クヘシ

第四條 前條船舶ノ船員ニシテ碇泊期間内ニ上陸セムトスル者ハ其氏名、年齢、職務、上陸ノ目的及期間ヲ記載シタル願書ヲ旅順ニ在リテハ旅順口鎮守府ニ、大連ニ在リテハ大連灣防備隊ニ提出シ其許可ヲ受クヘシ

第五條 陸軍省ノ許可ヲ得殘留物件搬出ノ爲渡航シタル船舶ハ其目的以前ニ該船舶ヲ使用スルコトヲ得ス但シ民政官衙ニ於テ特ニ許可シタルモノハ此限ニアラス

第六條 殘留物件ノ所有者又ハ其代理人ニ於テ同物件ノ調査處分ヲ爲サムトスルニ當リテハ整理委

員及民政官衙ノ指揮ヲ受クヘシ

第七條 殘留物件ノ搬出ハ民政官衙ニ於テ特ニ許可シタル場合ヲ除クノ外大連灣又ハ旅順港ヨリ爲スヘキモノトス

第八條 鐵道ニヨリ殘留物件ヲ其所在地ヨリ搬出セムトスルトキハ同物件ノ重量、容積及所要ノ車輛數ヲ民政官衙ニ届出テ其指揮ヲ受クヘシ

第九條 殘留物件搬出ノ場合ニ於テハ豫メ其物件ノ目錄ニ通テ民政署又ハ民政支署ニ提出シテ檢査ヲ受クルコトヲ要ス

第十條 殘留物件ヲ搭載シテ出港セムトスル船舶ハ同船舶ノ所有者若ハ船長ニ於テ出港ノ前日正午迄ニ旅順ニ在リテ、旅順口鎮守府及同地民政支署ニ、大連ニ在リテハ大連灣迄防備隊及民政署ニ其出港ノ日時ヲ届出ツヘシ

第十一條 定期船ニ依リ殘留物件ヲ搬出セムトスル者ハ豫メ其船舶ノ碇泊港及船名ヲ民政署又ハ民政支署ニ届出ツヘシ

第十二條 殘留物件搬出ノ場合ニ於テ整理委員ハ何時ニテモ船舶内其他物件ノ所在地ニ至リテ物件ヲ點檢シ船員其他ノ關係者ヲ尋問シ書類ノ提示ヲ命シ其他必要ノ處分ヲナスコトヲ得

第十三條 渡航船舶及乘組員其他殘留物件ノ調査處分又ハ搬出ヲ爲サムトスル者ハ前諸條ノ外關東總督府及旅順口鎮守府管内ニ施行ノ規則命令ヲ遵守スヘキモノトス

附 則
本規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大連火葬場設置(明治三十九年二月二十三日告示第十二號)

大連火葬場ヲ老虎灘會大嶺前村(元大連兵站司令部火葬場附近)ニ置キ明治三十九年三月一日ヨリ開場ス但シ其ノ事務ハ當分ノ内本署警務部衛生係ニ於テ之ヲ行フ

●大連火葬場規程(明治三十九年二月二十三日告示第十三號)

大連火葬場規程左ノ通相定ム

大連火葬場規程

第一條 屍體ヲ火葬セントスル者ハ本署ニ火葬料ヲ納付シ其ノ受領證ニ埋葬認許證ヲ添ヘ大連火葬場事務所ニ願出屍體受領證ヲ受クヘシ

第二條 屍體ハ日出前日没後ハ之ヲ受領セス

第三條 遺骨ヲ拾納セントスルトキハ屍體受領證ヲ大連火葬場事務所ニ差出シ事務員ノ指揮ヲ受クヘシ

第四條 遺骨ハ屍體受領證ヲ受ケタル翌日日出ヨリ正午迄ノ間ニ拾納スヘシ

前項ノ時間ニ拾納セサルトキハ火葬場事務員ヲシテ之ヲ行ハシムルコトアルヘシ

第五條 火葬料ハ左ノ等級ニ依リ之ヲ徵收ス但シ官廳公署ニ勤務スル者又ハ軍人軍屬及其ノ家族タルノ證明アル者ハ二割ヲ減ス

告示

前項ノ證明ハ所屬長官又ハ部隊長ノ證明書ヲ以テスヘシ

- 一等 銀二十圓
- 二等 銀十五圓
- 三等 銀 十圓

●關東洲小學校名稱位置(明治三十九年三月三十一日告示第十五號)

關東洲小學校ノ名稱位置左ノ通相定メ明治三十九年四月ヨリ授業ヲ開始ス

- | | |
|-----------|-----|
| 名 稱 | 位 置 |
| 大連尋常高等小學校 | 大 連 |
| 旅順尋常高等小學校 | 旅 順 |

●關東洲公學堂名稱位置(明治三十九年三月三十一日告示第十六號)

關東洲公學堂ノ名稱位置左ノ通相定メ授業ヲ繼續ス

- | | |
|-------|-----|
| 名 稱 | 位 置 |
| 大連公學堂 | 大 連 |
| 旅順公學堂 | 旅 順 |

一五八

●遺棄兵器材料買収(明治三十九年三月三十一日告示第十七號)

日露會戰地ニ於テ遺棄シタル兵器材料(砲彈、空襲炎、工具、裝具等)ニシテ人民ニ於テ集收シタルモノハ相當代價ヲ以テ買収スヘキニ付拾得者ハ速ニ民政署又ハ支署ニ提供スヘシ但シ未發砲彈ノ如キ最モ危險ナル物件ハ之ヲ移動スルコトヲ得ス

●東公園内危險物格納(明治三十九年四月十日告示第十九號)

當市東公園南方小池附近標杭設置ノ箇所へ危險物ヲ格納セシ旨其ノ筋ヨリ通知アリタルニ付左ノ二項ヲ注意スヘシ

- 一 標杭以內ニ立入ラサルコト
- 二 附近ニ於テ焚火ヲ爲ササルコト

●大連市ニ電話交換局開設(明治三十九年四月十日告示第二十二號)

明治三十九年七月ヨリ大連市ニ電話交換局ヲ開設セラルヘク其ノ使用料ハ一個ニ付一箇月銀七圓ナ

告示

一五九

リ加入希望ノ者ハ別記書式ニ依リ加入料一個ニ付銀二十圓ヲ本署財務部ヘ納付シ受領證ヲ添ヘ庶務部ニ申込ムヘシ
(別記書式略ス)

●大連商品陳列館開館時間(明治三十九年四月十日)

(五日告示第二十三號)

大連商品陳列館開館時間ハ明治三十九年四月十六日ヨリ午前八時ヨリ午後十時迄トス

●豫備後備補充兵役者居住届出方(明治三十九年四月十日)

(七日告示第二十四號)

當管内居住者ニシテ豫備後備補充兵役ニ在ル者ハ別記書式ニ據リ本月二十八日迄ニ關東洲民政署(支署管内ニ居住スル者ハ支署ヲ經由シ)ニ届出テ爾後管外ニ移住スル者及新ニ居住スル者ハ其ノ都度届出ツヘシ
(別記書式略ス)

◎告諭

●炭酸瓦斯中毒ノ件(明治三十八年十一月一日告示第一號)

(十一月一日告示第一號)

防寒ノ爲室内ニ於テ多量ノ木炭ヲ燃燒シ炭酸瓦斯中毒ノ爲人事不省ニ陥リ甚タシキニ至リテハ一命ヲ失ヒタル例尠カラス今ヤ近寒ノ候ニ向ヒ防寒ノ必要迫ルト雖モ墻壁障戸ヲ修理シ衣服履具ニ意ヲ用ヒ適宜ノ燃料ヲ使用シ且時々障戸ヲ開キ換氣法ヲ行ヒ室内ヲ密閉シテ多量ノ木炭ヲ燃燒スルカ如キ危険ヲ避クルヲ要ス殊ニ就眠中ニ於テハ其ノ危険一層怖ルヘキモノアリ是等不測ノ禍害ヲ蒙ラサル様各自注意スヘシ

●軍用手票ニ關シ人民ニ注意ノ件(明治三十八年十一月一日告示第二號)

(十一月一日告示第二號)

軍用手票ト通貨及同銀トノ交換ハ將來ト雖引續キ施行セラルヘキハ勿論ニ有之候處今ヤ軍隊凱旋ノ期ニ際シ萬一奸黠ノ徒輩アリテ私利ヲ圖ランカ爲交換ノ停止又ハ軍票價格低落等ノ慮説ヲ流布シ其ノ買占ヲ行ハントスルモノナキヲ保セス斯ノ如キハ素ヨリ法ノ禁スル所ニシテ犯ス者ハ嚴罰ニ處セラルヘシ地方人民タルモノ此ノ際ニ是等慮説ニ惑ハサルルコトナク從來ノ如ク意ヲ安シテ之カ受授ヲ回滿ニセシコトヲ望ム

●滿洲在住ノ内地商民ニ對シ注意ノ件(明治三十八年十二月十二日告示第三號)

(十二月十二日告示第三號)

近來我國力ノ發展ニ伴ヒ内地商民ノ續々滿洲各地ニ入込ム者多キハ國家ノ爲洵ニ慶スヘキ現象ナリト雖モ中ニ奸黠ノ徒アリテ我國威ノ餘力ヲ藉リテ無智ノ清人ヲ誑騙シ都邑形勝ノ地ニ到リ價ヲ定メテ土地ヲ強買スルノ弊アリト聽ク抑モ個人交通ノ範圍ニ屬スル任意ノ買賣取引ハ素ヨリ其自由ニシテ官ノ干渉スヘキ限ニアラスト雖擅ニ官ノ名ヲ冒シ又ハ脅迫威力ヲ用ヒテ清人生活ノ資源ヲ侵スカ

如キコトアラシカ我政府本來ノ趣旨ニ反スルノミナラス延テ日清兩國ノ國交ヲ阻害スルニ至ルヘシ
 如斯ハ容易ナラサル儀ニシテ嚴然タル法條ノ存スルアリ相當ノ制裁ハ免ルヘキニアラスト雖此ノ際
 洲内在住ノ内地商民タルモノ宜シク上憲施政ノ趣意ヲ體シテ各右ノ如キ非行ナカラムコトヲ期スヘ
 シ

●木炭ヲ用井室内保温ノ際注意ノ件(明治三十八年十二月十九日告諭第四號)

木炭ヲ用井室内保温ノ場合ニ於ケル注意方ニ付テハ本年十一月一日告諭第一號ヲ以テ告諭ノ次第モ
 有之候處爾來尙炭酸瓦斯中毒ニ罹ル者頻々ニシテ危險渺カラサルヲ以テ此ノ際一層該告諭ノ趣旨ニ
 留意シ且置煖爐又ハ火鉢ヲ用井室内トキハ先ツ室外ニ於テ充分木炭ヲ赤化セシメタル後ニ非サ
 レハ室内ニ入レサル様各自注意スベシ

●汽車輸送荷物ニ關スル件(明治三十九年三月二十九日告諭第一號)

從來公衆荷物ニシテ停車場並汽車輸送途中ニ於テ往々紛失スルモノアリ其ノ原因多クハ梱包ノ粗漏
 等荷主ノ不注意ニ起ルモノノ如シ自今荷物ヲ鐵道ニ托送セントスル者ハ左ノ事項ニ注意スヘシ
 一 荷物ノ梱包ヲ充分堅固ニシ貨物ノ脱出シ或ハ竊取セラルルヲ防クコト
 二 汽車中或ハ集積場中ハ荷主ニ於テ可成監視者ヲ附スルコト
 三 汽車ヨリ荷物卸下ノ後ハ可成速ニ之ヲ受領シ多時日間集積所ニ留殘セサルコト
 四 汽車ニ積載或ハ汽車ヨリ卸下ノ際ハ荷主ニ於テ監視ヲ充分ニ爲スコト

◎決裁

●關東洲民政署事務管掌規程(明治三十八年六月二十三日總長官廳決裁)

- 第一條 關東洲民政署ニ官房、庶務部、財務部、警務部及司法委員ヲ置ク
- 第二條 官房ニ主事ヲ庶務部、財務部及警務部ニ部長ヲ置キ各主管ノ事務ヲ掌ラシム
- 第三條 官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 秘書ニ關スル事項
 - 二 文書ニ關スル事項
- 第四條 庶務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 地方行政ニ關スル事項
 - 二 土木及營繕ニ關スル事項
 - 三 殖産ニ關スル事項
 - 四 他ノ主管ニ屬セサル事項
- 第五條 財務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 主計及會計ニ關スル事項
 - 二 稅務ニ關スル事項
 - 三 臨時財政調査ニ關スル事項
- 第六條 警務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 警務ニ關スル事項
 - 二 監獄ニ關スル事項
 - 三 衛生ニ關スル事項
- 第七條 司法委員ハ裁判及勸解ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第八條 民政署ノ事務ヲ分掌セシムル爲管内樞要ノ地ニ支署ヲ置ク

●營業及旅行ノ件(明治三十八年七月四日民政長官決裁)

營業及旅行許可手續ニ關シテハ陸軍大臣ノ許可ヲ要セサルニ至ル迄警務部ニ於テ之ヲ主管シ庶務部
 (總テ合議スル事尙財務部及憲兵ヘ通知事項ハ警務部ニ於テ掌理スルコトニ決定スル事
 尙ホ娼妓營業許可等ノ如キハ陸軍大臣ノ許可以外ノモノナルモ庶務部ヘ合議スル事

●廳舍及宿舍ノ保管及設備ニ關スル件(明治三十八年八月十四日民政長官決裁)

廳舍及宿舍ノ保管及設備ニ關スル事務ハ財務部ヲシテ之ヲ掌ラシム

附 錄

◎軍 令

●軍罰規則(明治三十八年三月二十七日軍令第三號)

- 第一條 軍港規則其他司令長官ノ發スル軍令ニ違犯シタルモノハ軍罰ニ處ス
- 第二條 左ニ記載シタルモノヲ以テ軍罰トス
- 一 死
 - 二 笞
 - 三 追放
 - 四 資産沒收
 - 五 罰金
- 第三條 軍罰ハ犯狀ニヨリ罰目中其一ヲ科シ又ハ二以上ヲ併科ス
- 第四條 軍令違犯ノ未遂及豫備ノ所爲ハ既遂ト同シク論ス
- 第五條 軍令違犯者ノ教唆者及從犯ハ正犯ト同シク論ス
- 第六條 軍令違犯者アルコトヲ知リテ之ヲ隱匿シタルモノハ軍罰ニ處ス
- 第七條 軍令違犯者ニシテ事發覺前自首シタルトキハ軍罰ノ全部又ハ一部ヲ免スルコトヲ得
- 第八條 軍令ニ違犯シタル者ハ内外人ヲ問ハス總テ軍罰處分會議ニ於テ處斷ス

◎令達其ノ他

●遼東守備軍管區露國租借地内土地家屋及營造物管理規則

(明治三十八年
令達第五號)

遼東守備軍管區露國租借地内土地家屋及營造物管理規則左ノ通り相定ム

第一條 遼東守備軍管區内露國租借地ニ在ル官有ノ土地家屋及營造物(海軍ニ屬スルモノヲ除ク)ハ總テ遼東守備軍經理部長ノ管理ニ屬ス但シ要塞ノ防禦營造物及之レニ屬スル土地竝ニ家屋ハ當該要塞司令官鐵道線路鐵道ニ屬スル衛工場竝ニ之レニ屬スル敷地ハ野戰鐵道提理ニ管理ニ屬ス

第二條 遼東守備軍經理部長ノ管理スル土地家屋及營造物ニシテ軍用ニ供スヘキモノハ其地ノ兵站司令官保管及供用ヲ掌ルモノトス

第三條 兵站司令官ハ土地家屋及營造物ノ長期間使用ノ見込アルモノハ圖面ヲ添ヘ使用者タル軍隊官衙ノ長ニ交付シ軍隊官衙ノ長ハ直接保全ノ責ニ任スルモノトス

第四條 民有ノ土地家屋及營造物ニシテ其所有主不明又ハ既ニ居住者ナキモノハ其地ノ軍政委員之ヲ管理シ其軍用ニ屬スルモノハ兵站司令官之ヲ保管スルモノトス

第五條 官有及前條ノ民有ノ土地家屋及營造物ニシテ一時軍用ニ供スル必要ナキモノハ軍政委員之ヲ保管セシム

第六條 軍政委員ハ前條ノ家屋及營造物ヲ人民ニ貸下クルコトヲ得貸下方法ハ別ニ之ヲ定ム但シ本文ノ場合ニ在テハ豫メ遼東守備軍司令官ノ認可ヲ受クルモノトス

第七條 總テ土地家屋及營造物ノ修繕等ヲ要スルトキハ保管者ヨリ管理者ニ管理者ハ遼東守備軍司令官ニ申出テ認可ヲ經テ行フモノトス但シ小修繕等ハ管理者ニ於テ直ニ行フコトヲ得又使用者ハ自カラ修繕模樣替等一切行フコトヲ得ス

第八條 管理者ハ其管理スル土地家屋及營造物ノ原簿ヲ備フ可シ

第九條 露國租借地外ニ於ケル露國官有ノ土地家屋及營造物ニ在テモ前各條ニ準シ取扱フモノトス

●拘留及科料ノ即決ニ關スル規則(明治三十八年三月三十一日令達第一〇號)

拘留及科料ノ即決ニ關スル規則左ノ通相定ム

第一條 遼東守備軍行政規則第五條ニ規定スル第一類ノ地域内ニ在ル軍政委員附憲兵長及憲兵分屯所長又ハ其代理者ハ其管轄地内ニ於テ起リタル十日以内ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ノ刑ニ該當スヘキ帝國居留民及視察者ノ犯罪ヲ即決ス

第二條 即決ノ言渡ハ被告人ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ取調ヘ直チニ之ヲ爲スヘシ

第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ス

第四條 即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所犯罪ノ場所年月日時罪名及刑名及其言渡ヲ爲シタル官吏ノ官氏名年月日ヲ記載スヘシ

第五條 科料ノ言渡ヲ爲シタルトキハ同日中ニ其金額ヲ納入セシムヘシ若シ納入セサルトキハ壹圓ヲ一日ニ折算シテ被告人ヲ留置ス其壹圓ニ滿タサルモノト雖トモ之ヲ一日ニ計算ス

前項留置ノ日數ハ之ヲ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

第六條 拘留ノ刑ニ處シタル者ハ言渡書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ當該地方ノ監獄ニ送致シ刑ヲ執行セシムヘシ

遼東守備軍軍政會計假規程(明治三十八年四月一日令達第一二號)

遼東守備軍軍政會計假規程左ノ通之ヲ定ム

會計假規程

第一章 總則

第一條 遼東守備軍露國租借地内^{管口ヲ}地方行政ニ係ル會計事務ハ當分ノ内此假規程ニ依ル但シ此假規程ニ明文ナキモノハ現行會計諸法規ヲ準用スヘシ

第二條 總テ露國租借地内^{管口ヲ}行政上ノ收支ハ歲入歲出外ノ取扱トス

第三條 會計期間ハ毎年四月一日ヨリ九月三十日ニ至リ及十月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル各半年度ヲ以テ一期トス

第四條 毎期出納期限ハ當該期經過後一ヶ月以内整理期限ハ同シク二ヶ月以内トス但シ出納期限後當該期所屬ノ收入又ハ支出アルトキハ現期ノ收入又ハ支出ニ立ツヘシ各期ノ剩餘金亦之ニ準ス

第二章 豫算

第五條 總テ收入及支出ハ豫算書ヲ調製シ之ヲ收入及支出ノ標準ト爲スヘシ但シ其ノ期ノ經費ハ其ノ期ノ收入ヲ以テ支辨スルモノトス

第六條 軍政委員ハ其ノ所管ニ係ル收入及支出ヲ精査シ豫算概定書(様式第一號甲乙)ヲ調製シ之ヲ

各期二ヶ月前迄ニ軍政長官ニ提出スヘシ

第七條 豫算中ニハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲メ第一豫備金及豫算外必要ノ費用ニ充ツル爲メ第二豫備金ヲ設クヘシ

豫算外行政上ノ負擔トナルモノハ豫算概定書ニ其ノ金額理由ヲ明記スヘシ

第八條 軍政長官ハ豫算概定書ヲ審査決定シ軍政長官部及軍政署毎ニ收入支出豫算書ヲ調製シ各期

一ヶ月前迄ニ軍司令官ノ認可ヲ受ケ軍政委員ニ下附シ軍經理部長ニ送附スヘシ但シ軍政長官部ノ經費ハ軍政長官ノ定ムル所ニ依リ各軍政署ノ負擔トス又第二豫備金ハ軍政長官部ノ豫算ニ組入ルヘシ

經理部長ハ認可済豫算ニ付軍司令官ヨリ大本營ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 軍政委員豫算ニ追加ヲ要スルモノアルトキハ追加豫算概定書(様式第一號甲乙)ヲ調製シ之ヲ軍政長官ニ提出スヘシ

第十條 軍政長官前條ノ追加豫算概定書ヲ受ケタルトキハ第八條ニ準シテ取扱フヘシ軍司令官ノ報告亦同シ

第十一條 收入及支出豫算科目ハ別ニ之ヲ定ム

第三章 收入支出

第十二條 租稅其他收納金ハ出納官吏之ヲ受領シ納人ニハ現金ト引換ニ軍政委員ノ檢印シタル受領證書ヲ交付スヘシ

第十三條 總テ現金ハ金庫ニ委託保管トナスヘシ但シ金庫ノ設ケナキ地ニ於テハ軍政委員管守法ヲ

定ハヘシ又献納金及軍事上特別ノ目的ニ出テタル罰款金ハ軍金櫃部ノ保管ニ移スヘシ
 軍政長官部ノ經費ニ充ツヘキ現金及第二豫備金ニ屬スヘキ現金ハ軍政長官ノ定ムル所ニ依リ毎月
 各軍政署ノ收入金ノ内ヨリ前項但書末項ニヨリ移算スヘシ
 第十四條 總テ仕拂ハ大藏大臣所定ノ引出切符ヲ用ユルヲ例トス但シ金庫ノ設ケナキ地ニ於ケル仕
 拂ハ現金ヲ以テスヘシ
 金庫所在地ニアル軍政委員ハ小口仕拂ノ爲メ出納官吏ニ百圓以内ノ現金ヲ所持セシムルコトヲ得
 第十五條 仕拂ハ軍政長官部及軍政署毎ニ行ヒ其仕拂額ハ收入現在金高ヲ超過スルコトヲ得ス
 支出豫算中各自ノ金額ヲ流用セントスルトキハ軍政長官ノ認可ヲ經ヘシ
 第十六條 軍政長官以下各員ノ俸給諸給其ノ他ノ諸給與ハ臨時軍事費所屬トシ軍政長官部及軍政署
 限リ任用スル臨時雇員同僱人其ノ他行政上一切ノ費用ハ軍政費所屬トス但シ特ニ定ムルモノハ此
 限リニアラス
 第十七條 賞與其ノ他ノ賑恤ニ係ルモノノ仕拂ハ恒例ノ外軍司令官特ニ之ヲ指定ス
 第十八條 軍政委員第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ軍政長官ノ認可ヲ經ヘシ但軍政長官ハ之ヲ軍
 司令官ニ報告シ軍經理部長ニ通報スヘシ
 第十九條 軍政委員又ハ軍政長官第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ前項ニ準シ軍司令官ノ認可ヲ經
 ヘシ

第四章 決算

第二十條 軍政委員ハ毎月收支計算書(様式第二號甲乙)ヲ調製シ翌月十日迄ニ亦全期計算書(様式

第三號甲乙)ヲ調製シ整理期限内ニ軍政長官ニ提出スヘシ但シ各計算書ニハ一般ニ係ル説明書ヲ
 添付スヘシ
 第二十一條 軍政長官ハ前條ノ計算書類ニ意見ヲ附シ之ニ軍政長官部ノ計算書ヲ添ヘ軍司令官ニ提
 出スヘシ
 軍經理部長ハ軍司令官ヨリ大本營ニ毎月收支概況報告ノ手續ヲナスヘシ
 第二十二條 出納官吏ハ毎月收支計算書ヲ翌月十日迄(各期ノ終リニ在テハ整理期限迄)ニ軍政經理
 部長ニ送付スヘシ

第五章 附則

第二十三條 軍政委員ハ其管内公議會其他公共團體ノ會計監督ニ任シ毎月其狀況ヲ軍收長官ニ軍政
 長官ハ軍司令官ニ報告スヘシ
 第二十四條 露國租借地外^{露口ナ}各軍政署ニ於テ行政ニ係ル收入及支出アルトキハ此假規程ニ準シ
 取扱フヘシ
 第二十五條 此假規程ハ發布ノ日ヨリ施行ス但シ發布前既ニ進行シツツアル會計上ノ各行務ハ漸次
 此假規程ニ準據スヘシ
 (附言様式ハ總テ略ス)

●大連市專管區設定規則(明治三十八年四月
 三日令第一三號)

大連市專管區設定規則左ノ通り相定ム

大連市專管區設定規則

- 第一條 大連市ヲ左ノ三地區ニ分ツ
 - 一 軍用地區
 - 二 日本人居住地區
 - 三 清國人居住地區
- 第二條 前條ノ各地區ハ本則附圖ノ示ス所ニ依ル
- 第三條 軍用地區ハ軍衛ノ專用ニ屬ス
- 第四條 當分ノ内日本人居住地區ニ清國人ノ居住營業ヲ許ス
- 第五條 日本人居住地區内ニ居住營業セントスル清國人ハ本人及家族其他使用人ノ各郷貫姓名年齢等ヲ記シ居住營業ノ願書ヲ大連軍政署ニ差出シ居留免狀ノ許可ヲ受クヘシ
- 第六條 居留免狀ノ下附料ハ一人金壹圓トシ紛失其他ノ事故ニ由リ免狀再下附ノ場合ニハ金五拾錢ヲ徴收ス
- 第七條 軍衛ニ於テ現ニ使用スル清國勞働者ニシテ日本人居留地區内ニ居住スルモノニハ無料ニテ居留免狀ヲ下附スルコトヲ得
- 第八條 居留免狀ハ常ニ之ヲ携帶シ軍務行政官憲ヨリ檢閲ノ請求アルトキハ直ニ之ヲ提出スヘシ
- 前項ノ清國人ニ限リ居留免狀下附料ヲ一人金貳十錢トス但シ紛失其他ノ事故ニ由リ再下付ノ場合ニハ第六條ヲ適用ス
- 第十條 將來日本人居住地區内ニ清國人ノ居住營業ヲ禁シ其貸付地ヲ返還セシムル必要アル場合ニ

ハ露國官憲ノ制定シタル「ダルニ」市地區臨時貸付規則ノ條項ニ準シテ處分スヘシ
 本規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 (附圖略ス)

野戰鐵道便乘貨物搭載取締規則 (明治三十八年四月十日 第七日令連第一四號)

- 野戰鐵道便乘貨物搭載取締規則 (別冊)
- 第一條 野戰鐵道ノ便乘券若ハ輸送券ヲ有セザル者及貨物(將校、同相當官及其從卒、鐵道從事員、竝官衛ヨリ發送ノ軍需品ヲ除ク)ハ當軍管區内ニ於ケル軍用列車ニ便乘若ハ搭載スルコトヲ禁ス 他人ノ便乘券又ハ使用濟ノ便乘券ヲ行使スルコトモ亦同シ
- 第二條 兵站司令官、停車場司令官、及ヒ驛長ハ本則違反者ヲ拘引シ貨物ヲ押收スルコトヲ得
- 第三條 兵站司令官、鐵道吏員、憲兵及監視兵ハ本則ノ違反者ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ第二條ノ官憲ニ申告ス可シ若シ情ヲ知リテ申告セサルカ又ハ之ヲ庇護シタル者ハ相當ノ處分ヲ受ク可キモノトス
- 第四條 本則ノ違反者軍人軍屬ナルトキハ其所屬部隊長ニ交付シテ相當ノ處分ヲ要求シ其他ノ者ニ在リテハ三日以上三十日以下ノ拘留又ハ五圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ貨物ハ之ヲ沒收ス可シ

- 第五條 本則ノ違犯者ハ兵站司令官又ハ軍政委員ニ於テ之ヲ審判ス可シ
- 第六條 停車場司令官又ハ驛長ハ違犯者若クハ貨物ヲ差押ヘタルトキハ其願末書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ兵站司令官若ハ軍政委員ニ引渡ス可シ
- 第七條 兵站司令官又ハ軍政委員ハ其違犯者軍人軍屬タルトキハ違犯調査ヲ作リ本人ト共ニ之ヲ所屬部隊長ニ送致シ其他ノ違犯者ニ在リテハ當軍令違第拾號拘留及科料ノ即決ニ關スル規則第二條乃至第六條ニ準據シ之ヲ處分シ押收貨物ハ沒收ス可シ
- 第八條 沒收貨物ハ兵站司令官又ハ軍政委員ニ於テ之ヲ確實ニ保管シ其品目員數ヲ軍令司官ニ報告シ指揮ヲ受ク可シ
- 第九條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

遼東守備軍鹽稅規則(明治三十八年五月八日令達第二十一號)

遼東守備軍鹽稅規則左之通り之ヲ定ム

- 鹽稅規則
- 第一條 鹽ヲ製造セントスル者ハ製造場一箇所毎ニ軍政署ノ許可ヲ受クヘシ
- 第二條 鹽ノ製造者ハ其ノ月分ノ見込製造高ヲ毎月其ノ初日ニ一ケ月間ノ製鹽高ヲ翌月三日迄ニ所轄軍政署又ハ其ノ支署ニ申告スヘシ
- 第三條 鹽ノ製造者製造場ヨリ鹽ヲ移出セントスルトキハ其ノ移出高ヲ所轄軍政署又ハ其支署ニ申告シ移出高ニ相當スル稅金ヲ納付シテ鹽票ノ交付ヲ受クヘシ

- 第四條 移出稅金ハ鹽一石ニ付六拾錢トス
- 第五條 稅金納付前ニ於テハ鹽ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス
- 第六條 製造場ヨリ鹽ヲ引取ラントスルモノハ其ノ引取高及引取先製造者ノ住所氏名ヲ所轄軍政署又ハ其ノ支署ニ申告スヘシ
- 第七條 鹽ノ製造者ハ帳簿ヲ備ヘ鹽ノ製造高及移出高ヲ明細ニ記載スヘシ
- 第八條 鹽ノ製造者ハ鹽ニ土砂其ノ他鹽ヲ汚損スル物ヲ混和スルコトヲ得ス
- 第九條 金州半島區域外(露國租借地外)ヨリ輸入スル鹽ニハ一石ニ付壹圓五拾錢ノ稅金ヲ課ス但シ日本製鹽ハ此限ニ非ス
- 第十條 前條ノ輸入者ハ輸入申告ヲ所轄軍政署又ハ其ノ支署ニ爲スト同時ニ稅金ヲ納付スヘシ
- 第十一條 鹽ノ輸入者ハ稅金納付前ニ之ヲ引取ルコトヲ得ス
- 第十二條 收稅官吏ハ隨時製造場又ハ輸入場ニ臨檢スヘシ
- 第十三條 收稅官吏ハ隨時製造者又ハ輸入者ノ帳簿書類ヲ檢査スヘシ
- 第十四條 許可ヲ受ケケスシテ鹽ヲ製造シタル者ハ其ノ犯則ニ係ル總テノ物件ヲ沒收シ稅金十倍ニ相當スル罰金ニ處シ直チニ其ノ稅金ヲ徵收ス
- 第十五條 鹽ノ製造者故意ニ第二條ノ申告ヲ詐リ或ハ意リタルトキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十六條 鹽ノ製造者稅金ヲ逋脱シ又ハ逋脱セントシタルトキハ稅金五倍ニ相當スル罰金ニ處シ許可ヲ取消スヘシ

第十七條 第六條ニ違反シテ鹽ヲ引取リタル者ハ五圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處シ引取リタル鹽ヲ沒收ス

第十八條 第十條ニ違反シタル者ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ輸入ノ鹽ヲ沒收ス

附則

第十九條 本規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 本規則施行前ヨリ鹽ヲ製造シ本規則施行後引續キ之ヲ製造セントスル者ハ本規則發布後十日以内ニ製造ノ許可ヲ受クヘシ

鹽稅規則施行細則

第一條 鹽ヲ製造セントスル者ハ第一號書式ニ依リ製造場、製鹽反別、鹽池數、見込製造高及其ノ住所氏名ヲ記シタル願書ヲ所轄軍政署又ハ其ノ支署ニ提出スヘシ

第二條 軍政署ハ第二號書式ノ鹽票甲ヲ納稅者ニ交付シ鹽票乙ヲ保存スヘシ

第三條 鹽製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄軍政署又ハ其ノ支署ニ申告スヘシ

第四條 鹽製造業ヲ讓渡サントスルトキハ讓受人ト連署シ所轄軍政署又ハ其ノ支署ニ申告スヘシ

第五條 鹽ノ製造者其ノ製造場ヲ移轉セントスルトキ又ハ其ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨所轄軍政署又ハ其ノ支署ニ申告スヘシ

第六條 稅則第二條ノ申告ハ第三號書式ニ依ル

第七條 鹽ノ製造者ハ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 製造シタル數量及其ノ製造ノ日

二 移出シタル數量價格移出ノ日及其ノ引取人ノ住所氏名
第八條 稅則第十條ノ輸入者ハ第四號書式ニ依リ其ノ數量價格仕入地及其ノ住所氏名ヲ所轄軍政署又ハ其ノ支署ニ申告スヘシ

●貨物輸出入稅規則(明治三十八年五月八日令達第二十二號)

遼東守備軍貨物輸出入稅左ノ通之ヲ定ム

貨物輸出入稅規則

第一條 支那形船舶ニヨリ左ノ諸港ヲ出入スル貨物ニハ山海關則例稅率表ニ依リ輸出貨物ニハ輸出稅輸入貨物ニハ輸入稅ヲ課ス但シ日本產貨物ハ此限ニアラス

貔子窩、三官廟、猴兒石、煉密、金場、石槽、大孤山、金州、紅崖子、小平島、龍王塘、普蘭店

漢碇子、大口井、山虎咀、羊島窪、旅順、大連、老虎灘、柳樹屯

第二條 第一條所定ノ港ニ由ルノ外貨物ヲ輸出若クハ輸入スルコトヲ得ス

第三條 支那形船舶第一條所定ノ港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港届、積荷目錄ヲ所轄軍政署又ハ其ノ支署ニ提出スヘシ

第四條 支那形船舶第一條所定ノ港ヲ出港セントスルトキハ船長ハ出港届、積荷目錄ヲ所轄軍政署又ハ其ノ支署ニ提出シ出港免許ヲ受クヘシ

第五條 荷積人ハ輸出申告ヲ爲スヘシ

第六條 荷受人ハ輸入申告ヲ爲スヘシ

- 第七條 貨物輸出税ハ輸出申告者ヨリ之ヲ徵收ス
- 第八條 貨物輸入税ハ輸入申告者ヨリ之ヲ徵收ス
- 第九條 輸出荷物ハ納税ノ後ニ非サレハ之ヲ船積スルコトヲ得ス
- 第十條 輸入荷物ハ納税ノ後ニ非サレハ之ヲ引取ルコトヲ得ス
- 第十一條 一港ヨリ他港ニ納税済貨物ヲ輸出若クハ輸入セントスルトキハ納税済證明書ヲ添ヘ其ノ旨ヲ所轄軍政署又ハ其ノ支署ヘ申告スヘシ
- 前項ノ貨物ニハ貨物輸出入税ヲ課セス
- 第十二條 貨物輸出入税ヲ逋脱セントシ又ハ逋脱シタル者ハ其ノ逋脱セントシ又ハ逋脱シタル税金十倍ニ相當スル罰金ニ處ス
- 第十三條 前條ノ犯則者其ノ罰金ヲ納付セザルトキハ犯則ニ係ル貨物ヲ沒收ス其ノ貨物ヲ既ニ消費シ又讓渡シタルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ徵收ス
(税率表略ス)

●大連市家屋建築取締假規則

一 總則

- 第一條 本規則ハ大連市ニ建築スル家屋構造ノ安全市街ノ美觀公衆ノ衛生及公安ニ關シ準據スヘキ一般ノ事項ヲ規定ス
- 第二條 大連市ニ建築スル家屋ハ假建築及永久建築ノ二種ニ區別ス

- 假建築家屋ハ行政官衙ニ於テ取拂若クハ改築ヲ必要ト認メタルトキハ其豫告命令ヲ發シタル日ヨリ二ヶ月以内ニ之ヲ取拂ヒ若シクハ改築ニ著手スヘキモノトス
- 第三條 家屋ヲ建築セントスル者ハ其使用ノ目的地域内ノ建築物配置圖(三百分ノ一トナシ其周圍四間通り四方隣地ノ地狀ヲ記スヘシ)街路ニ面スル正面圖平面建築物ノ構造ヲ示ス切斷圖(各五十分ノ一)工事仕様書及建築起工並ニ竣工ノ豫定期日ヲ記シ大連軍政署ニ差出シ許可ヲ受クヘシ
- 第四條 軍政委員ハ本則ノ制限ニ依リ難キ理由アリト認メタル建築ニ對シ特別ニ認可スルコトアルヘシ但シ此場合ニ在リテハ民政長官ニ稟議スヘシ
- 第五條 軍政署建築吏員ハ建築中ノ家屋ヲ時々検査シ圖面仕様書ト違ヒ若クハ市ノ美觀衛生及公安ニ害アリト認メタルトキハ軍政署ハ其工事ニ變更若クハ中止ヲ命スヘシ
- 二 假建築家屋
- 第六條 假建築家屋ハ二層以下ニシテ其周圍壁ハ煉瓦造石造若クハ木造トス其軒高(地盤ヨリ軒蛇腹上端迄)十二尺以上タルヲ要ス
- 第七條 建築面積ハ地域面積ノ十分ノ三以上トシ中庭ノ最短邊ハ二層家屋ハ二十尺以上一層家屋ハ十五尺以上トスヘシ又家屋ヲ地域外ニ建築スルコト及一二等街路(居住地區ヲ除ク)ニ面スル家屋ニハ前庭ヲ作ル事ヲ許サス
- 第八條 煉瓦造及石造家屋ノ周圍壁ハ二層家屋ノ第一層ニアリテハ煉瓦一枚半巾(一尺五寸二分)以上トシ其二層ニアリテハ同一枚巾(八寸六分)以上トス一層家屋ニアリテハ其周圍壁ハ二層家屋ノ

第二層ニ同シ
 木造家屋ニアリテハ表面厚サ三分以上ノ漆喰塗トスヘシ
 第九條 倉庫工場物置塲便所等ノ建築モ前條ニ準ス但シ周圍壁ハ金屬版ヲ用ユルコトヲ得
 街路ニ面セサル物置便所ニテ周圍六尺以上ノ空地ヲ有シ其建坪五坪以内ノモノニ限リペンキ塗板
 張壁トナスコトヲ得
 第十條 木造家屋ハ百五十尺以内ニ石造若クハ煉瓦造ノ隔壁ヲ作ルヘシ
 前項ノ隔壁ハ其厚サ第八條ニ規定スル壁厚以上トシ屋蓋上ニ二尺以上凸出セシメ防火扉ヲ附スル
 ニアラサレハ戸口等ノ通孔ヲ造ル事ヲ禁ス
 第十一條 隔壁ノ構造設ハ其効距離内ニアル建築者ノ共同負擔トス
 第十二條 屋蓋ハ瓦「スレート」セメント「漆喰若クハ金屬版葺ニ限ル
 第三條 便所ハ「ツヲ」ターク「ロセクト」及移動糞溜若クハ次條ニ規定セル下水溜ト同様ノ構造又
 ハ缸ノ掘込ト爲スヘシ但シ掘込便所ニアリテハ其位置井ト二十尺以上ノ距離ヲ保タシムヘシ移動
 糞溜ヲ置ケル底面ハ不透水質物ヲ以テ造ルヘシ
 第十四條 市街公設下水ナキ所ハ屋室ノ面積ノ二坪ニ對シ十二立方尺ノ比例ヲ以テ下水溜ヲ設クヘ
 シ下水溜ハ煉瓦若クハ石造トシ周壁厚サ煉瓦一枚巾（八寸六分）以上底ハ煉瓦二段巾（四寸五分）
 以上内部厚八分以上「セメント」塗若クハ缸ノ掘込トシ密閉セル蓋ヲ備ヘ井ト二十尺以上ノ距離ヲ
 保タシムヘシ

第十五條 廢水ハ不透水質若クハ暗渠ヲ以テ公設下水若クハ下水溜ニ導クヘシ
 第十六條 建築地所ニハ井ト二十尺以上ノ距離ヲ有スル塲所ニ蓋アル塵溜ヲ設置スヘシ
 第十七條 煖房庖厨竈等及其ノ烟道ハ家屋ノ木質部ト二尺以上ノ間隔ヲ置キ又烟道ノ木質部ヲ通過
 シ之ヲ接觸スル部ハ石煉瓦「セメント」若クハ「アスベストタル」ニテ包ムヘシ煉瓦石「セメント」ノ厚
 サハ煉瓦一枚巾以上トナスヘシ
 三 永久建築家屋
 第十八條 永久建築家屋ハ煉瓦造石造若クハ鐵骨耐火壁造ニ限ルヘシ其ノ軒高（地盤ヨリ軒蛇腹上
 端）迄ハ一二等街路ニアリテハ三十尺以上三等街路ニアリテハ十五尺以上タルヲ要ス
 第十九條 建築面積ハ地域面積ノ十分ノ三以上ト爲シ地域外ニ建築スルヲ許サス中庭ノ最短邊ハ周
 圍最低壁軒高ノ二分ノ一以上タルヘシ
 第二十條 一二等街路（居住地區ヲ除ク）ニ面スル家屋ハ前庭ヲ作ルコトヲ許サス三等街ニ於テ前庭
 ヲ有スルモノハ高サ六尺以上ノ石造煉瓦造若クハ金屬製ノ圍柵ヲ設クヘシ
 第二十一條 周圍壁厚サノ最小限ハ左ノ表ノ如シ

高		厨		厨	
六十尺迄	1	長四十五尺迄	厨	長四十五尺迄	厨
	1	二枚半以上	1	二枚半以上	1
	2	二枚以上	2	二枚以上	2

			四十尺迄		
		3	1	4	3
		一枚半以上	二枚半以上	一枚半以上	二枚以上
			一枚半以上	2	一枚半以上
			一枚半以上	3	一枚半以上
二十尺迄	1	一枚半以上			

壁長四十五尺以上ノモノ及倉庫工場公共建築物ハ上表各層厚サニ更ニ煉瓦半枚巾ヲ増スヘシ
 第二十二條 中間壁ノ厚サハ周圍壁厚サノ三分ノ二以上タルヘシ但シ煉瓦一枚巾以下ヲ許サス
 木造中間壁ハ前項ノ限リニ非ス
 第二十三條 二家屋以上ノ共有スル隔壁ハ第二十一條ニ規定スル壁厚以上トシ屋蓋上二尺以上凸出
 セシメ防火扉ヲ附スルニアラサレハ戸口等ノ通孔ヲ造ルコトヲ禁ス
 第二十四條 第十二條乃至第十七條ニ規定スル事項ハ永久建築家屋ニモ之ヲ適用ス
 四 雜則
 第二十五條 交戦若クハ條約上ノ結ニ基因スル損害ハ家屋建築者之ヲ負フモノトス
 第二十六條 學校病院寺院劇場寄席湯屋畜舎屠獸場市場等衆人集會シ特ニ構造ノ堅固ヲ要シ公衆衛

生及公安ニ關係アル建築物ハ別ニ定ムル取締規則ニ從フヘシ
 第二十七條 從來ノ家屋ニシテ本規則ニ矛盾スルモノハ軍政署ノ撰定期内ニ於テ改修又ハ増設ヲ行
 フヘシ

●違警罪目(制定)

左ノ諸件ヲ犯シタルモノハ一件毎ニ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又は一日以上十日以内ノ拘留
 若クハ苦役(濶人ニ)ニ處ス
 一 人家倉庫物資集積場其他燃易物體ノ近傍ニ於テ濫ニ焚火ヲ爲シ火器ヲ玩ヒ帶火物ヲ投擲シ其
 他發火ノ原因トナルヘキ行爲アル者
 二 電柱橋梁橋示場樹木圍柵其他公用ノ建造物ニ牛馬ヲ繫キタル者
 三 塵芥汚水尿尿其他汚穢物ヲ所定ノ場所外ニ投棄シタル者
 四 市街ニ於テ便所外ニ放尿シタル者
 五 變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋火葬シタル者
 六 死亡ノ申告ヲ爲サスジテ死屍ヲ埋火葬シタル者
 七 所定ノ場所外ニ於テ私ニ埋火葬シタル者
 八 不熟ノ菓實又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者
 九 市街ニ於テ牛馬羊豚ヲ放飼シタル者
 十 禽獸ノ死屍ヲ道路ニ投棄シ又ハ取除カサル者

- 十一 規定ニ背キ汚穢物ヲ道路又ハ家屋圍内ニ溜置キタル者
- 十二 衛生及其他ノ規則ニ違背シタル者
- 十三 溝渠水道ヲ毀損シ又ハ官衙ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者
- 十四 官衙ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除又ハ撒水ヲ爲ササル者
- 十五 神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者
- 十六 墓碑ヲ毀損シ又ハ汚損シタル者
- 十七 路傍ノ樹木ヲ折リ又ハ公園ノ榜示ヲ犯シタル者
- 十八 出入ヲ禁シタル場所ニ滯リニ出入シタル者
- 十九 路上ノ常燈ヲ消シタル者
- 二十 通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者
- 二十一 官衙ノ許可ヲ得スシテ私用地外ニ家屋橋壁ヲ設ケ又ハ軒楹招牌ヲ出シタル者
- 二十二 人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者
- 二十三 牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横ヘ木石薪炭等ヲ堆積シテ通行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 二十四 密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ媒介容止ヲ爲シタル者
- 二十五 不體裁ナル服裝ヲ爲ス者
- 二十六 人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者
- 二十七 定リタル住所ナク常職ナク諸方ニ徘徊スル者
- 二十八 人ノ通行スヘキ場所ニアル危險ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲ササル者

- 二十九 濫ニ車馬ヲ疾驅シ行人ノ妨害ヲ爲ス者
- 三十 瓦礫ヲ道路家屋圍内ニ投擲シタル者
- 三十一 瓦礫棒等ヲ以テ獸畜類ヲ嚇唆シ又ハ虐待ヲ加フル者
- 三十二 官衙ノ許可ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者
- 三十三 道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル公ノ標示物ヲ毀棄汚損シタル者
- 三十四 道路ニ於テ猥リニ放歌スル者
- 三十五 節制シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者
- 三十六 人家ノ牆壁ニ貼紙若クハ樂書シタル者
- 三十七 街路ノ公安ヲ妨ケ靜謐ヲ害シ又ハ公命ヲ背セサル者

●衛生委員業務規定(明治三十八年十一月二十二日關東總督)

衛生委員業務規定別冊之通り定ム

(別冊)

衛生委員業務規定

- 第一 關東總督府管區内各部隊衛生及傳染病豫防ノ實行ヲ確實ナラシメンカ爲各兵站地及獨立セル守備地ニ衛生委員ヲ設ク
- 第二 衛生委員ノ組織左ノ如シ但シ委員長ハ其編成終ラハ其人名ヲ報告スヘシ
委員長 一(兵站司令官之ナキ地ハ高級古參ノ部隊長)

委員 若干(駐屯各部隊ヨリ將校同相當官一名宛)
 助手 若干(駐屯各部隊ヨリ下士卒若干宛)
 此外衛生部員憲兵アル地ニ於テハ所要人員ヲ委員若クハ助手中ニ加フヘシ
 當該地兵站病院長ハ必ス委員若クハ顧問タルヘシ

第三 衛生委員ノ管掌スヘキ業務概テ左ノ如シ

- 一 給水及排水ニ關スル件
- 二 汚物排棄ニ關スル件
- 三 屠獸ニ關スル件
- 四 飲食物ニ關スル件
- 五 傳染病ニ關スル件
- 六 其他衛生ニ關スル事項

凡テ衛生上ノ施設ニ關シテハ本年六月十日遼東兵站監訓示管區内一般ニ實施スヘキ衛生方鍼ニ據ルモノトス

第四 衛生委員ハ其業務ノ實施上諸部隊ニ關スルモノハ當該部隊長兵站地一般ノ事ニ關シテハ兵站司令官普通人民ニ關スルモノハ關東洲外ニアリテハ兵站司令官各軍政委員關東洲ニアリテハ民政官ト協議シ其實行ヲ促スモノトス

第五 委員長ハ委員以下ヲ指揮監督シ且委員分擔巡視ノ規定ヲ設ケ其詳細ヲ報告スルモノトス

第六 衛生委員業務ノ細部ニ關シテハ關東總督府軍醫部長ノ指揮ヲ受ケ且ツ其諸報告ハ同軍醫部長

ニ提出スルモノトス

● 傳染病豫防規則

第一條 此ノ規則ニ於テ傳染病ト稱スルハ「ペスト」赤痢、虎列拉、腸窒扶斯、痘瘡、霍亂、猩紅熱、發疹瘰癧、猩紅熱ヲ云フ

前項ニ掲クル八病ノ外此ノ規則ニヨリ豫防法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ軍司令官之ヲ指定ス

第二條 傳染病流行シ若クハ流行ノ恐アルトキハ軍司令官ハ傳染病ノ疑似症ニ對シ此ノ規則ノ全部若クハ一部ヲ適用スルコトアルヘシ

第三條 醫師傳染病患者ヲ診察シ若クハ其死體ヲ檢案シタルトキハ其家人ニ消毒方法ヲ指示シ直ニ兵站司令官ニ届出ヘシ

轉歸ノ際又同シ醫師トハ公私官職ノ如何ヲ問ハス個人ノ資格ヲ以テ醫術ヲ行ヒタル者ヲ云フ

第四條 傳染病又ハ其ノ疑アル患者若クハ其死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若クハ檢案ヲ受ケ兵站司令官ニ届出ツ可シ

前項ノ届出ヲ爲ス義務者ハ一般民家ニアリテハ戸主其他ノ團體等ニアリテハ司長管理人又ハ代理人トス

第五條 傳染病アリタル家ニ於テハ當局委員ノ指定ニ從ヒ清潔及消毒法ヲ實行ス可シ必要ト認ムルトキハ近隣又ハ患者ト交通ヲナシタル家ニ於テモ之ヲ行フコトアルヘシ

第六條 清潔法及消毒方法ハ陸軍部内傳染病豫防細則ニ準據シテ之ヲ行フ

- 第七條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當局委員ハ傳染病患者ヲ傳染病隔離所ニ入ラシム必要ト認ムルトキハ健康者ノ隔離ヲモ同所ニ於テ行フコトアル可シ
- 第八條 當局委員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳染病患者アリタル家及ヒ其ノ近隣ノ家ノ交通ヲ遮斷ス
- 第九條 傳染病患者及其死體ハ當局委員ノ認可ヲ受クルニ非ラサレハ他ニ移スコトヲ得ス
- 第十條 傳染病ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑ヒアル物件ハ當局委員ノ認可ヲ受クルニ非ラサレハ使用授與移轉遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス
- 第十一條 傳染病患者ノ死體ハ當局委員ノ充分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非ラサレハ埋葬スルヲ許サス
- 右死體ハ二十四時間以内ニ火葬スルコトヲ得ルモノトス
- 第十二條 傳染病患者ヲ埋葬シタルトキハ三ヶ年以内ニ改葬スルコトヲ許サス
- 第十三條 屍體ヲ埋葬シ若クハ埋葬セントスル場合ニ於テ傳染病患者タリシ疑アルトキハ當局委員ハ屍體其他ニ對シ相當ノ處置ヲ爲サシム
- 第十四條 衛生委員ハ傳染病豫防規則施行上必要ト認ムルトキハ個人竝ニ法人權利ノ一部ニ立入ルコトヲ得
- 第十五條 傳染病流行スルトキハ軍司令官ハ衛生委員ヲシテ流車ノ檢疫ヲ行ハシム但シ右ノ場合ニ於テハ流車ノ停車場ハ別ニ之ヲ定ム
- 右ニ對スル費用ハ別ニ之ヲ規定ス

- 第十六條 軍政委員ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ施行ス
- 第一 傳染病患者ノ有無ヲ檢診セシムルコト
- 第二 市街村落ノ一部交通ヲ遮斷スルコト
- 第三 祭禮興行集會等ノ爲メ人民ノ群集スルコトヲ制限シ若クハ禁止スルコト
- 第四 傳染病毒媒介トナルヘキ物品ノ販賣授受ヲ禁止シ又ハ之ヲ發棄スルコト
- 第五 清潔方法消毒方法ノ施行ヲ命シ一定ノ場所ニ漁撈、游泳、又ハ水ノ使用等ヲ一定ノ日時間ヲ制限シ若クハ停止スルコト
- 第十七條 陸海軍所屬部隊軍艦等ニ傳染病發生シ若クハ發生ノ虞アルトキハ其司令官ヨリ清潔消毒法ノ施行ヲ受ケタキ旨依頼シ來ルトキハ當局委員ハ便宜ニ應ジ適當ニ之ヲ處置スヘシ
- 第十八條 檢疫ニ關スル諸費ハ兵站司令官ニ於テ處理ス
- 第十九條 軍政署ハ衛生組合ヲ設ケ清潔法及ヒ消毒法其他傳染病豫防救治ニ關シ規約ヲ定メシメ之ヲ履行セシム
- 軍政署ハ衛生組合ニ於テ傳染病豫防法施行ノ爲メ及ヒ之ニ關スル救治ノ爲メ支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助ス
- 第二十條 衛生組合ハ衛生委員ノ指示ニ從ヒ傳染病豫防上必要ナル人員物件ヲ設備スルコトヲ得
- 第二十一條 此ノ規則ニ基キ發スル命令ニヨリ清潔消毒方法ヲ施行スル義務者之ヲ施行セス又ハ之ヲ施行スルモ當局委員ニ於テ不充分ト認ムルトキ及ヒ必要ノ時限内ニ施行シ得サルト認ムルトキハ當局委員ニ於テ之ヲ施行ス其費用ハ組合或ハ個人ヲシテ之ヲ辨償セシム

第二十二條 此ノ規則ハ清國大連政區ニ在住スル私人ニ限り之ヲ施行ス

第二十三條 軍政署ニ於テ戸口調査ノ際ハ衛生委員ニ於テ同行シ一般ノ衛生上ニ付視察ヲ遂クルモ

ノトス

第二十四條 碇泊場司令官ハ上陸部隊或ハ個人ニ傳染病又ハ其疑アル患者ノ上陸シタルトキハ適當

ノ處置ヲ爲シ直ニ衛生委員長ニ通報スヘキモノトス

第二十五條 部隊ニ傳染病發生シタルトキハ傳染病ノ系統ヲ調査シ衛生委員ニ通報スヘキモノト

ス

患者轉歸送院隔離消毒済ノ直後又同シ

第二十六條 軍政署ハ傳染病豫防法施行ノ監督ヲ爲スノ義務ヲ有ス

第二十七條 此ノ規則ヲ實行スルニ當リ更ニ特別ノ規定ヲ要スル時ハ衛生委員會議ノ上之ヲ定ム

●汚物掃除規則

第一條 掃除ヲ要スル汚物ハ左ノ三種類トス

一 尿

一 下水

一 塵芥

第二條 以上汚物ノ掃除ハ請負人ヲシテ之ヲ實行セシム

第三條 大小便ハ毎朝未明一回之ヲ搬出シ指定ノ場所ニ運搬ス

第四條 下水竝ニ塵芥ハ毎朝一回之ヲ搬出ス

第五條 汚物ヲ溜メ置ク爲メ適當ノ装置ヲ爲スハ各家主ノ責務タルヘシ假令下水溜塵溜大小便ノ装

置ナク猥リニ堆積若クハ散布シアル汚物ハ請負人之レヲ掃除スルノ義務ナシ

第六條 掃除人ハ汚物ヲ取リタル後ニ石灰ヲ撒布スヘシ

第七條 各家ノ便所ニハ大便ト小便トニ對スル別々ニ装置アルヲ要ス又大小便ト下水トヲ一所ニ溜

メサル様ニスヘシ

第八條 各家ノ下水溜ニハ可成塵芥ノ混入ヲ防ク様處置スルヲ要ス

第九條 塵芥箱ハ必ス各家ノ戸口前ニ置キ街上ノ掃溜モ亦之ニ投シ置ケハ請負人毎日一回之ヲ搬出

ス

第十條 共同便所ハ毎日若クハ夜間ニ一回之ヲ搬出ス共同便所ニ撒布スル消毒材料ハ量ヲ定メテ軍

政署ヨリ之ヲ支給ス

第十一條 軍政署ヨリ指定セラレタル場所ニ糞貯藏所ヲ置キ以テ附近農家ノ需用ニ應スルコトヲ得

第十二條 塵芥ハ之ヲ軍政署ヨリ指定セラレタル塵芥捨場ニ運搬シ之ヲ燒棄スルモノトス

第十三條 下水及尿ハ軍政署ヨリ指定セラレタル海岸ニ運搬シテ海中ニ投棄ス此ノ下水捨場ノ装置

ハ別ニ指定ヲ仰クヘシ

第十四條 大小便竝ニ下水ハ密閉シ不浸透性トナシタル木製ノ箱ヲ裝置シタル馬車ニテ運搬ス

第十五條 塵芥運搬ノ爲メニハ有蓋ノ箱若クハ無蓋ナレハ麻布ヲ覆ヒ風ニ吹飛ハサル様ニシテ運搬

スルモノトス

- 第十六條 汚物運搬用ノ箱及車ハ毎日一回洗滌シテ常ニ清潔ニ保存スルモノトス
 - 第十七條 馬匹車輛ノ置場遊ニ掃除人夫ノ宿舍ハ市街附近ノ地ニ之ヲ定ム
 - 第十八條 請負人ハ市街便宜ノ位置ニ事務所ヲ設ケ掃除不行届ノ通知ヲ受ケ次第迅速ニ人夫ヲ派遣スルモノトス
 - 第十九條 請負人ハ掃除不行届ノ通知ニ接シタルヨリ遅クモ十二時間内ニ必ス掃除シ終ルヲ要ス
 - 第二十條 請負人ハ各家便所下水塵芥溜ノ装置不完全又ハ定マリタル戸主ナキ家等其他衛生上ノ欠缺ヲ發見シタルトキハ猶豫ナク之ヲ軍政署ニ報告スヘシ
 - 第二十一條 市中ニ斃死シタル家畜アル場合ニハ其家畜主若クハ軍政署ノ要求ニ依リ請負人之ヲ家畜埋葬處ニ運搬埋葬ス可シ
 - 第二十二條 市街道路掃除ノ爲メ若干ノ人夫ヲ要スルトキハ請負人之ヲ供用シ相當ノ日給ヲ請求スルヲ得ルモノトス
 - 第二十三條 市街道路ノ撒水用トシテ請負人ハ別ニ若干ノ車輛ヲ設備シ毎日指定セラレタル道路ニ回数ヲ定メテ撒水スヘシ
- 市場及旅舎飲食店ニ於ケル衛生上取締規則**
- 第一條 市場ニハ清潔維持ノ爲メ人夫若干人ヲ常用トシテ雇役ス
此費用ハ市場商人ノ負擔スル所トス
 - 第二條 市場ニ於ケル飲食物及清潔法等ノ取締トシテ憲兵出張所ヲ同所ニ設置ス

- 第三條 旅舎及飲食店ニハ適當ノ個數ニ痰壺ヲ供ヒ附ケ之レ以外ニ決シテ痰唾ヲ吐クコトヲ禁ス
 - 第四條 販賣セル飲食物ハ總テ新鮮良性ニシテ健康體ニ害毒ヲ及ホスモノナル可ラス若シ衛生上危害アリト認ムルモノアルトキハ其製造販賣授與及使用ヲ禁シ又ハ之ヲ沒收セシムルコトアルヘシ
 - 第五條 旅舎ノ寝具ハ白布ヲ以テ襟ニ附シ屢々洗滌セシム可シ又必ス枕覆及敷布ヲ供フヘシ
 - 第六條 旅舎飲食店等ハ流シ場及溝渠ヲ造リ特ニ清潔法ヲ實施ス可ク注意ス可シ
 - 第七條 開市ハ日出後一時ヨリ日没前一時迄トシ之ヲ報スル爲メ整齊ヲナスコト
 - 第八條 市場及飲食店旅舎ニ於テ供給スル獸肉ハ検査済ノ檢印アルモノヲ要スルコト
 - 第九條 市場ハ官許ヲ得サレハ規定位置ノ他ニ擅ニ開設スルコトヲ許サス
 - 第十條 旅舎飲食店ヲ新ニ營業セントスルモノハ豫メ届出テ家屋及ヒ設備ニ付検査ヲ受クルモノトス
 - 第十一條 市場ニハ適當ノ個數ニ共同厠固ヲ設クルモノトス而シテ其設備及掃除費用ハ市場商人ノ負擔トス
 - 第十二條 旅舎及飲食店等ニハ適當ノ個數ニ厠固ヲ設クルヲ要ス
 - 第十三條 飲食物ノ容器ニハ有害ナル金屬ヲ含有スルモノヲ用ユヘカラス
- 大連市民家汚物掃除請負ニ付假規定**
- 第一條 請負人ハ大連市全部ノ民家ニ於ケル汚物掃除ヲ請負大連衛生委員會ノ指揮ト汚物掃除規則

ノ規定ニ從ヒ作業ニ從事スルモノトス

第二條 請負人ハ本年六月一日ヨリ作業ヲ開始シ本契約ヲ締結スルニ至ルマテ期限ヲ定メス

第三條 作業ニ要スル馬車並人夫ハ勿論一切ノ器物設備ハ總テ請負人ノ自辨トス

第四條 請負人ノ掃除運搬スヘキ汚物掃除規則ノ明定スル尿屎塵芥汚水ノ三種ニシテ左記ノ諸物ヲ含マス

積雪氷塊泥土建物ノ建造修理又ハ取毀ヨリ生シタル土石木片等商品荷造荷開キ又ハ倉庫出入ヨリ生シタル塵芥飲食販賣商店ヨリ出多量ノ腐敗物

第五條 請負人ハ左記三種ノ掃除料ヲ各民家ヨリ徴收ス

一 普通民家 毎一人一ヶ月軍票 貳拾五錢

二 労働者 同 拾 錢

但シ多人數集合シ居住スル苦力人夫職工ノ類

三 本規定第六條ノ等級ニ據ルモノ及請負人各民家トノ協定ニ係ルモノ

第六條 營業ノ種類ニ依リ特ニ多量ノ汚物ヲ出ス民家ハ左記六等ノ掃除料ヲ徴收ス

第一等	每一ヶ月	二車半以上	銀票貳拾五圓
第二等	同	二車	同 二十圓
第三等	同	壹車半	同 十五圓
第四等	同	一車	同 十圓
第五等	同	半車	同 五圓

第六等 同

第七條 前條ニ該當スル營業ハ左記各種トス

洗濯屋 理髮床 飲食店 旅館 遊廓 劇場

寄席 肉類野菜販賣店 各種工場 各種食品製造所

第八條 第六條ノ等級ヲ定ムルニ當リ請負人各民家トノ間ニ合意協定ヲ得サル場合ハ其筋ノ裁決ヲ仰クモノトス

第九條 公衆湯屋ハ汚物ノ量過大ナルニ依リ請負人各民家ノ要求ニ依リ規定外ノ汚物ヲ運搬シタル時ハ壹頭馬車一回ニ付軍票四十錢ヲ要求スルコトヲ得但シ此金額ハ當大連ニ於ケル馬車賃銀ノ變動アル毎ニ之ヲ改定シ其筋ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 請負人ハ毎月ノ初ヨリ其月分ノ掃除料ヲ徴收スルコトヲ得

第十二條 新開ノ民家ヨリ掃除料ヲ徴集スルニ當リ十六日以上ヲ一ヶ月分十五日以内ニハ半ヶ月分ニ算シ三ヶ月以下ハ掃除料ヲ徴集セス

第十三條 掃除料ノ徴集ヲ免除スヘキモノ左ノ如シ

一 年齡十五才以下ノ男女

二 救助ヲ受ケテ生活スル窮民

三 行旅病人

第十四條 便所又ハ汚物溜置ノ設備ナキ家ト雖モ掃除料ノ負擔ヲ免カルルコトナシ

第十五條 請負人ハ掃除料ノ徴集ヲ確實ニスル爲其筋ノ保護ヲ仰クコトヲ得

同 三圓

●軍人軍屬ニ係ル俸給給料等軍用手票ヲ以テ仕拂フヘキ件

(明治三十八年五月十一日 陸軍省訓令乙第一號)

今回ノ戰地タル滿洲ハ銀ヲ以テ取引ノ基本ト爲ス處ナルカ故ニ政府ハ銀ニ兌換セラルヘキ軍用手票ヲ發行シ戰地ニ於ケル軍需品ノ購入其他入夫賃等ノ支拂ニ使用セシメツアルモ軍人軍屬ノ俸給給料等ニ兌換券ヲ仕拂フカ爲同一地方ニ其本位ヲ異ニスルニ種ノ貨幣併ヒ行ハレ獨リ取扱上ノ不便尠ナカラサルノミナラス軍用手票價格下落ノ一原因トナルノ實況ヲ見ルニ至レリ依テ自今滿洲ニ於テハ右等俸給等ノ仕拂ニモ左ノ方法ニ依リ總テ軍用手票ヲ用非以テ如上ノ不便不利ナカラシメントス

- 一 軍人軍屬ニ係ル俸給、給料其他ノ給與ハ滿洲ニ於テ支給スヘキ金額ニ限リ總テ軍用手票ヲ以テ仕拂ヘシ但シ通貨ヲ望ムモノアルトキハ之レカ交換ヲ爲スヘシ
 - 二 前項ノ軍用手票ハ大藏大臣ノ定メタル交換價格ニ依ルヘシ
 - 三 記簿決算及證書類ハ票價即チ券面金額ヲ以テ整理スヘシ
- 軍用手票使用方(明治三十八年五月十二日 陸軍省訓令第六號)
- 一 清國內ニ於ケル仕拂ハ總テ軍用手票ヲ使用スヘシ
 - 二 韓國内ニ於ケル仕拂ハ本邦通貨若クハ第一銀行券ヲ成可使用スヘシ
 - 三 俸給其他定額給與ノモノニ限リ軍用手票ノ交換價格ヲ以テ仕拂フヘシ但シ目下ニ於ケル交換價格ハ金九十錢トス

四 軍用手票ハ海外ニ限リ使用スルモノナルニ依リ内地ニ歸還スルモノハ可成乘船地ノ金庫派出所ニ於テ通貨ト交換ヲ受クヘシ

五 前項交換ノ時日ヲキ爲メ内地ニ持チ歸リタルトキハ上陸地又ハ當該衛戍地ノ金庫ニ於テ交換ヲ受クヘシ

六 軍人軍屬ニシテ通貨ト交換ヲ望ムモノアルトキハ出納官吏又ハ金庫派出所ニテ交換ヲ受クヘシ
出納官吏ニ於テ交換ノ爲メ生シタル差増ハ臨時軍事費雜收入ノ目ニテ歳入ニ納付スヘシ其ノ手續ハ臨時費支出及整理規定第三十條ニ據ル

●仕拂ニ關シ錢位未滿切捨ニ關スル件(明治三十八年四月十日 陸軍省訓令)

俸給、旅費其ノ他ノ給與ヲ仕拂フノ際錢位未滿ノ端數切捨整理ノ件今般勅令ヲ以テ公布相成候處物品購入工事請負等ノ如キ契約ニ依リ事實上厘位切捨ヲ實行シ得ル者ニ在リテモ亦右ノ趣ニ依リ取扱フ儀ト承知相成度

●軍人軍屬ニ支給ノ軍用手票整理方(明治三十八年五月十日 陸軍省訓令)

軍人軍屬ニ係ル俸給、給料其ノ他ノ給與ハ滿洲ニ於テ支給スヘキ金額ニ限リ軍用手票ヲ以テ支給スルコトニ定メラレ候處其ノ整理方ニ付テハ左記ノ通承知相成度

- 一 大藏大臣ノ定メタル交換價格ヲ以テ仕拂フ爲スニハ其ノ支給額ニ對シ軍用手票ノ最小限迄之

ヲ用非其ノ端數ハ補助貨ヲ用フルモノトス
 二 證憑書類ニハ給與スヘキ金額、換算、相場、軍用手票及通貨仕拂額等ヲ明記スルモノトス
 三 交換價格ニ依リ仕拂又ハ受入タル手票額ハ換算相場ノ區分ニ依リ圓銀及軍用切符受拂表備考ニ記載スルモノトス

●軍用手票取扱整理手續(明治三十八年五月二十日陸軍省令第百六十三號)

滿發第四一〇八號通牒ニ關シテハ左記各項ニ據リ御取扱相成度
 一 大藏大臣ノ定メタル交換價格ハ當分ノ内軍用手票壹圓ニ付通貨九十錢トス
 二 通貨ヲ望ムモノアルトキハ軍用手票ヲ以テ支出シタル後其支給額以內ヲ交換スルコト
 三 證書ノ調製ハ別紙様式ニ據ルコト
 四 國庫納金ヲ引去ルヘキモノハ現金支給高ニ對シ軍用手票ヲ以テ仕拂フコト
 (別紙様式略ス)

●家屋及土地貸下料(決議)

一家屋貸下料
 一等 毎月 一坪ニ付 一圓五十錢以上二圓五十錢以下
 二等 同 同 一圓以上一圓五十錢以下
 三等 同 同 十五錢以上一圓以下

特別家屋 同 一家若クハ一月ニ對シ 三十圓以上五百圓以下
 土地貸下料 (市内)
 一等 一ヶ年 一坪ニ付 一圓廿錢
 二等 同 同 六十錢
 三等 同 同 三十錢

追加

●陸軍軍屬從軍服制中改正(明治三十八年五月十七日勅令第百六十三號)

陸軍軍屬從軍服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 陸軍軍屬服制中左ノ通改正ス
 外套袖章ノ次ニ左ノ如ク加フ

警部 金屬 金色 巡査 金屬 銀色
 警部 金屬 銀色

警部 金屬 銀色



縦横各六分
 表及外套袖部ノ左端ニ附ス

刀、刀帶及刀緒ノ部ニ左ノ一項ヲ加フ
巡査ハ陸軍下士佩用ノモノニ同シ

一九三三	一八四三	一八四七	一四〇〇	一五九一	四九	三三六	二二七	頁
一六五	一五九	一四八	一四七	一四八	一六三	一三三	三	行
員發	員發	員發	員發	員發	員發	員發	員發	正誤
員發	員發	員發	員發	員發	員發	員發	員發	正誤